

41283

教科書文庫

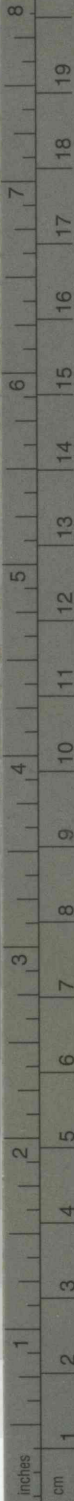
4
920
52-1932
20000 80171

Kodak Gray Scale

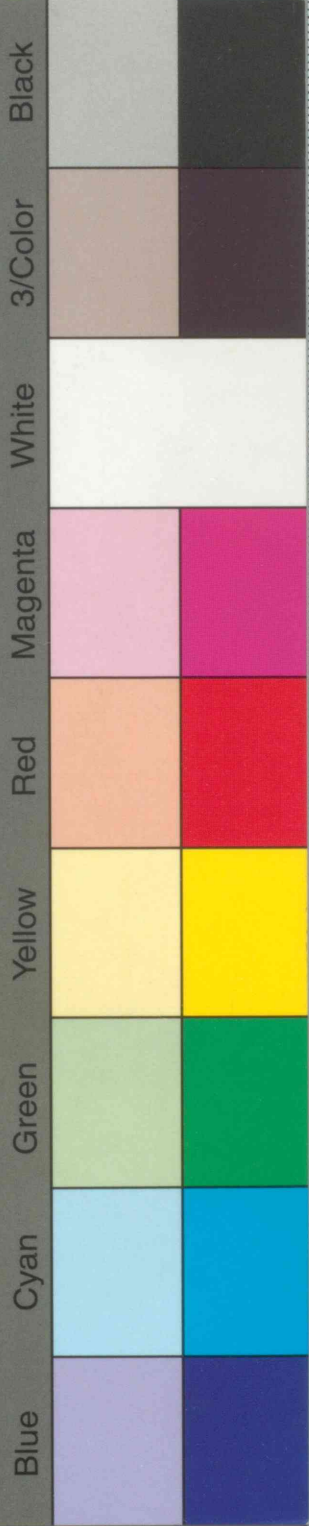
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches



© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
920
52-1932
2000080171

現代裁縫教科書

卷四



広島大学図書
2000080171

東京開成館藏版



4b
930
027

教科書文庫
4
920
52-1932
2000080171

資料室

文部省檢定済

昭和七年一月二十一日 師範學校・高等女學校裁縫科用

現代 裁縫教科書

卷四

東京女子專門學校講師

吉村千鶴

著

広島大学図書

2000080171



東京開成館



改修版について

大正十一年本書の前身である新制裁縫教科書發行以來既に十有餘年を経たが裁縫教授の進運とメートル法の施行とに伴ひ、大正十四年新に現代裁縫教科書の書名に改めてその初版が發行されるや、非常の好評を博して全國多數の學校に採用せられたのはまことに著者の光榮とするところである。著者は今もなほ舊の如く衣服調製のことに思を凝らし、常にその改善に専念してゐるが、聊か考へるところがあり、こゝに年來苦心して得た資料を集めて改修に着手したのであるが、幸に實際教授者諸氏から懇篤な忠言を辱うして、この度漸くその稿を完うするに至つたので、深い自信を以て本版を公にすることが出來たのは衷心喜悅に堪へない次第である。

今改修の要項を挙げれば、凡そ次のやうである。

- 一、各卷について、努めて教材の取捨を行ひ説明の仕方を統一して一層教授に適切ならしめたこと。
- 二、新に實物を調製して畫家に寫生させたもの

を寫眞版として挿入し、おのづから生徒に興味を促させるやうにしたこと。

三、全篇に互つて教材の順序を變更し、最近に於ける裁縫教授の新傾向に鑑みて必要な事項を加へ、實際的知識を向上させるやうに圖つたこと。

著者はこの改修が裁縫教授上に於ける現代の要求に最もよく適應するものであると信ずる。しかしながら固よりこれを以て満足するものではなく、今後も絶えず研究を積んで、そして改訂の事を怠らず、本書をしていつでも斯界最善の書たらしめようことを期するものである。

なほ本書の改修につき、實際教授者諸氏から寄せられた懇篤な助言については、著者の衷心から感激して措かないところである。茲に謹んで感謝の意を表す。

昭和六年八月 著者しるす

卷四 目次

第一章	男兒服	1—17
	(1) シャツブラウスと半ズボン	3
	(2) 水兵服(四・五歳用)	11
	(3) 男兒スーツ	12
	(4) 吊ズボン	16
第二章	本裁長コート	18—38
	(一) 道行衿コート(合羽仕立)	18
	(二) へちま衿	33
第三章	外套(女兒用)	39—45
第四章	ケープ(マント)	46—53
第五章	學生服	54—67
	上衣	54
	ズボン	62
第六章	本裁單羽織	68—80
	本裁男單羽織	68
	本裁女單羽織	79
	羽織普通仕立て上げ寸法表	
第七章	本裁男襠無袴	82—95
	男袴普通仕立て上げ寸法表	

第八章 小袖重ね	97—109
各種長着普通仕立て上げ寸法表	
附 録	1—20
(一) 寝冷え知らず	
その一(二・三歳用)	
その二(三・四歳用)	
(二) 夜着・蒲團・座蒲團	
その一夜着(中夜着)	
その二蒲團	
その三座蒲團	
(三) 枕かけ	

現代 裁縫教科書

卷 四

第一章 男児服

1 下衣

男児洋服の下衣としては、普通ウエスト及びドロワース・コンビネーション・シャツなどを用ひるのである。

ウエスト ガーターやズボンなどを吊る。
コンビネーション 大體は女兒用のと同じでいろいろな仕立て方があるが、いづれも勝明にしておく。

夏はブルマースだけを用ひることもある。

— 地 質

大體女兒と同様である。

夏 キヤラコ・ネンスツク・天竺縮など

冬 メリヤス・フランネルなど

二 仕立て方

女児用下衣に準じてする。製圖の仕方は女児の寸法に1cm - 1.5cmを加へる。

2 上 衣

男児服も極く幼い子供のは女児服と同様に仕立ててよいが、三四歳以上はズボンを用ひて上衣を着るのであつて次のやうな種類がある。

シャツブラウスにズボンを附けたもの。(1圖)

吊ズボンにしたもの。(2圖)

ズボンと衿を共布にして、その他は別布にしたもの。(3圖)

スーツといつて上衣とズボンとを共布にしたもの。(4圖)

一 地 質

ギンガム・富士絹・ポプリン・セルサーズ・羅紗など

二 型紙の取り方

上衣の割り出し方は大體女児服と同様にすれば



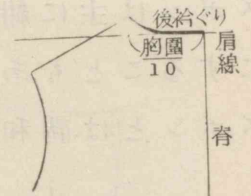
改現裁
(四)
二一三
1

男児服着用圖



男児服 (衿の参考)

よい。寸法は女兒の寸法に 1cm 乃至 1.5cm 加へる。五六歳以上は後の衿刳りを、右圖の如く肩の線より衿刳りだけ出した方がよろしい。前の重りは左上にする。



型紙の取り方(後衿刳り)

(1) シヤツブラウスと半ズボン

この服はシヤツブラウスの上にズボンを附けたもので、夏や春秋のあまり寒くないときには平常着として大變よい。なほこの上に上衣を附けるやうに、仕立てると二様につかへて便利である。

地質

- ① シヤツブラウス 富士絹・ギンガム・ボプリン・繭紬・ネル・セルなど
 - ② ズボン サージ・ヘル・メルトン・羅紗厚地木綿・ギンガムなど
- シヤツブラウスは白・クリーム色の無地または縞模様など季節によつて適當なものを選ぶ。



折衿型男児服仕立て上り

ズボンは主に紺・黒・茶・藍などの無地を用ひるが、縞にすることもある。要するにシャツブラウスとズボンとは、調和のよい色合を選ばねばならぬ。

シャツブラウス

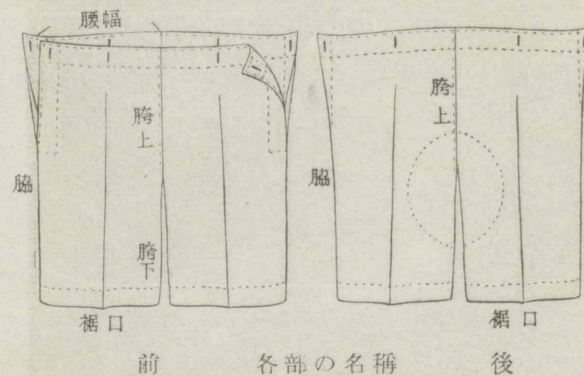
型紙の取り方及び縫ひ方は女兒と同じでよい。但し腹圍線のところに、ズボン吊りの釦を、兩脇と前後中心より脇までの中央とに、合せて六個付ける。衿・袖口の型その他裝飾の付け方によつて、趣の變つたものが作れる。

衿廻り・見返し・カフスに襞を取つたものを、挟んで縫ふなどはその一例である。

半ズボン

七八歳以上のズボンは大人物と同じやうに、前胯上を明けて兩脇は明けず、ポケットを附けたものを用ひるが、五六歳以下の幼兒のズボンは蛙胯といつて兩脇を明け、なほ前胯上の一部を明けてそこに月形の當布をしたものを用ひる。着脱に便利である。

一 各部の名稱



二 型紙の取り方

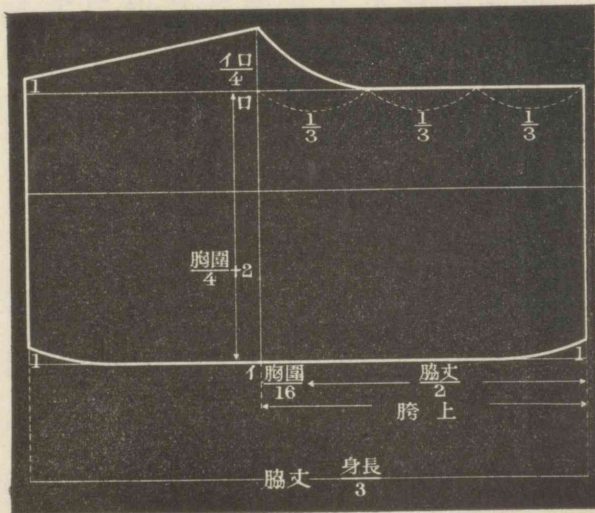
まづ前を製圖し、次に其の上に後の製圖をする。

① 前

1. 脇丈を $\frac{\text{身長}}{3}$ にとる
2. 胯上を $\frac{\text{脇丈}}{2} + \frac{\text{胸圍}}{16}$ に取る。
3. 幅を $\frac{\text{胸圍}}{4} + 2\text{cm}$ に取る。(イロ)
4. 口より上に $\frac{1}{4}$ 取る。

以上の假線が引けたら各部の製圖をする。

1. 前胯上を胯上止りより凡そ $\frac{1}{3}$ の間で内側に少し丸みを附けて削る。
2. 胯下を口線より 1cm 出し前胯上止りに當てて斜線を引く。

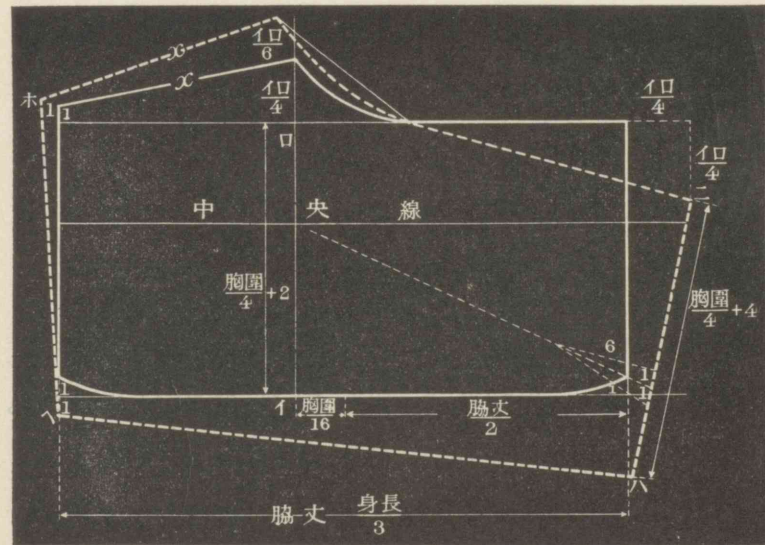


前型紙の取り方

3.脇の上下にて各1cm内に形を附ける。

②後

- 1.前跨上線より $\frac{1}{4}$ 右によせたところから $\frac{1}{4}$ 下げてニ點を定める。
- 2.前跨上止りから上に $\frac{1}{6}$ を取り、跨上の斜線を引き自然に剝る。
- 3.裾口で前より1cm出して、跨下の線を前丈(x)と同糲に引く。
- 4.脇を裾口で前脇より2cm出してホへ線を引く。
- 5.上部の幅を $\frac{\text{胸圍}}{4} + 4$ cmに取り、前脇丈に等しくへより取つてニハ線へハ線を引く。



後型紙の取り方

- 6.上部で脇の方より幅の $\frac{1}{3}$ 入つたところから、中央線に當てて斜線を引き、その線より上下に各1cmに取り、6cm入つたところに當てて斜線を引く。これは後の切り込になるのである。

注意 幼い内は後腰幅を $\frac{\text{胸圍}}{4} + 2$ cm にとつて切り込は入れなくてもよい。

後の製圖が終つたなら紙を一枚下において前の型紙を寫してから、前後の型紙を裁つ。中央線は前にも寫す。

- ③前當シツクの取り方 次頁圖の如く取る。

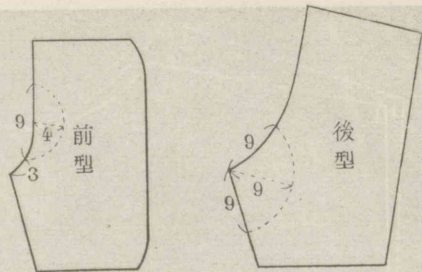
三 布の裁ち方

① 用布の積り方

幅... 76 cm

丈... 型紙丈 × 2 + 上

下縫代

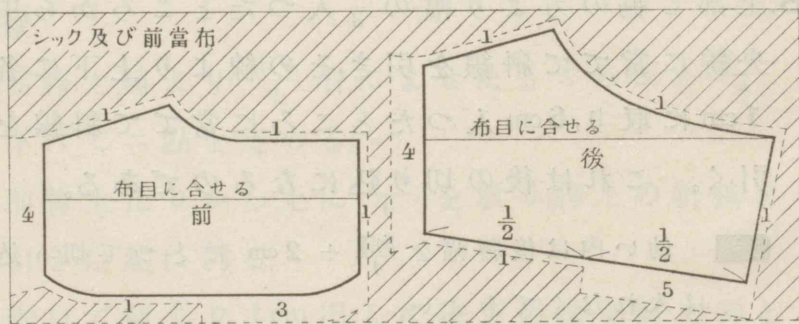


前當の取り方 シックの取り方

② 布の裁ち方 下圖のやうに縫代を付けて裁つ。外にシックと前當布及び前明の見返しを取る。

注意 (1) 型紙は用布の都合によつて横に並べても或は交ひ違ひに並べてもよい。

(2) 前後とも中央線を布目に合せる。



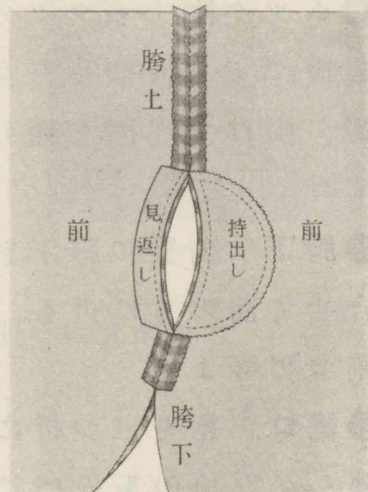
布の裁ち方

四 仕立て方

① 前膀上 前明 8 cm を残して、上下を縫ひ合せて

割る。

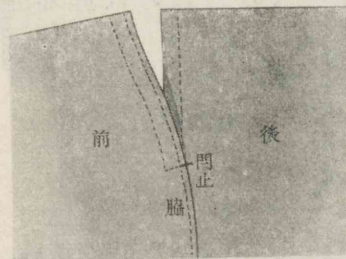
② 當布附 當布の丸い方を中表にして縫ひ表に返し、右圖の如く右膀の縫代を當布(持出し)の表裏で挟んで縫ひ付ける。次に左膀の方には上り幅 1.5 cm に見返しを付ける。



前膀上に持出し見返しの付け方

③ 脇縫 前後の脇を見返しの止りより 1 cm 上から

縫ひ合せ、前の方に折り、見返し幅を裏に折つて抑へミシンをかける。持出しは上り幅 2 cm に折つて抑へ、下部を見返しに重ね、表より一束にミシンで止め、脇明止りに左圖の如く門止をする。

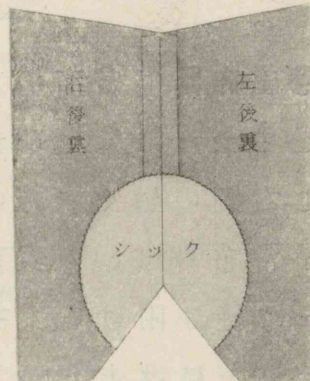


左脇の仕末

④ 後膀上 左右を合せて縫ひ、縫目は割るか、または左身の方に折つてミシンをかける。

⑤ 後の切り込 切り込の部分縫つて割り、縫目の左右をミシンで抑へる。

⑥ シツク附 シツクの胯上を縫つて割り、縫目を身頃に綴ぢ付けて、周囲を纏り付けておく。



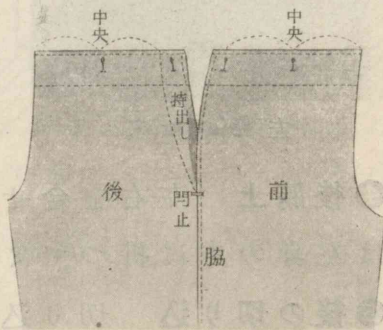
シツクの附け方

⑦ 胯下 前後の胯下を縫ひ合せて前の方に折る。或は割つてもよい。

⑧ 裾口 裾を三つ折にして纏る。厚地のものは二つ折にして千鳥掛にする。

⑨ 腰布附 腰布の一方を 0.5cm 位裏に折つてミシンをかける。次に前後各身頃の上部に腰布を中表に合せて縫ひ付け、(後切り込のところは腰布を撮んでおく)裏に折り返し両端を折つて、上から約 3cm 幅に廻りにミシンをかける。

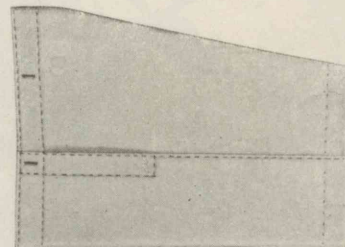
腰布 { 幅 7cm
丈 前後腰幅+折代(2cm)



穴膝りの位置

⑩ 穴膝り及びスナツプ附 右圖の如く兩脇と身幅の中央とに縦に穴を明けて膝る。前明の中央に一個のスナツプを付ける。

⑪ 仕上げ及び畳み方 全體に霧を吹き裾口で胯下と脇の縫目を合せて畳み、アイロンをかけて仕上げをする。



ズボンの畳み上げ

(2) 水兵服 (四・五歳用)

この服の上衣はキモノスリーブの裁ち方にした水兵服である。裾口にはゴムテープを入れてもよい。服の色は季節により白か紺にする。半ズボンは前と同様にして仕立てる。



水兵服仕立て上り 着用圖

(3) 男児スーツ

この服はウエストの前裾にズボンの上部を縫ひ付け、後はドロワースのやうにズボンの上部にバンドを付け、ウエストに釦掛にする。その上にキモノスリーブのジャケットを着るのであつて、上品な型の服である。



スーツ仕立て上り

ウエスト及び半ズボン

一 地質

- ① ウエスト リンネル・モスリン・富士絹・ローンなどの白色を用ひる。
- ② ズボン サージ・モグサ・天鷲絨・小倉など。

二 型紙の取り方

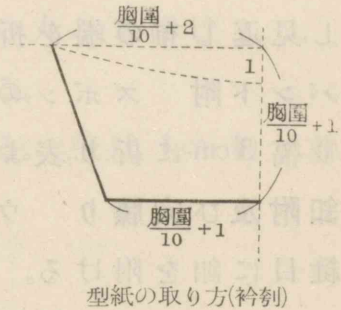
ウエストは衿刳りを、次頁圖の如く角にする。
他は前述の女兒と同様に裁つてよい。



改現裁(四) 三—三—二

男児服(参考)

半ズボンは前述と同様に裁つ。但し後は釦掛にして、ウエストに吊るのであるから、バンド布一枚を餘分に裁つ。



バンド 幅… 8cm

丈… 後腰幅 × 2 + 縫代

三 布の裁ち方

ウエストも半ズボンも、型紙に適當の縫代を付けて裁つ。

四 仕立て方

- ① ウエスト 前の衿割り及び裾のところに、好みによつて刺繡をしてから、前述と同様に縫ふ。但し脇縫は裾縫代上までにて止め、前裾はそのままにし、後裾は三つ折にして纏る。
- ② ズボン 上部を残して他を前述と同様に縫ふ
- ③ ウエストとズボンの縫ひ合せ ウエストの前裾とズボンの前とを中表に合せ、ズボンの上に見返し布を重ねて縫ひ、ウエストの方に折を

返し、見返し布の端を折つて纏る。

- ④ バンド附 ズボンの後にバンド布を縫ひ付け、上り幅 3cm に折り、表よりミシンをかける。
- ⑤ 釦附及び穴膝り ウエストの後明の右と脇の縫目に釦を付ける。ウエストの後明の左とズボンのバンドの両端と中央に穴を明けて膝る。
- ⑥ 仕上げ 霧を吹いてアイロンをかける。

ジャケット

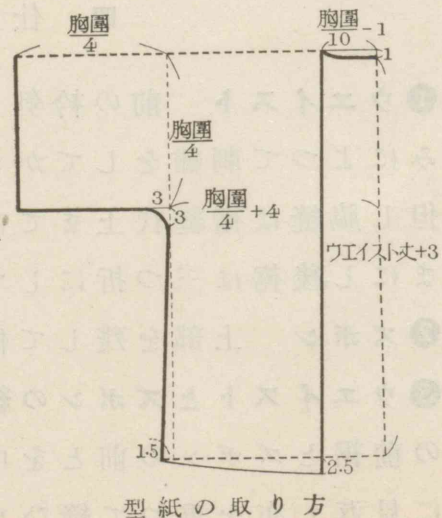
一 地質

サージ・天鷲絨・小倉モグ

サなど

二 型紙の取り方

- ① 幅 $\frac{\text{胸圍}}{4} + 4\text{cm}$ に取る。
- ② 丈 ウエスト丈 + 4cm に取る。
- ③ 衿 幅の線より $\frac{\text{胸圍}}{4}$ に取る。



- ④ 袖附 $\frac{\text{胸圍}}{4}$ に取り 3cm の丸みを付ける。
- ⑤ 脇 裾で 1.5cm ひろげる。
- ⑥ 衿明 $\frac{\text{胸圍}}{10} - 1\text{cm}$ に取る。後は 1cm 刳り、前は真直におとす。
- ⑦ 前下り 2.5cm 付ける。

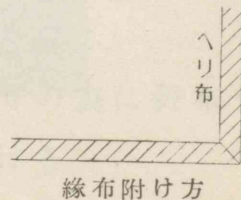
三 布の裁ち方

肩及び後中央を輪で取る。型紙の周圍に、次の縫代を付けて裁つ。

脇・袖下… 1.5cm その他… 0.8cm

四 仕立て方

- ① 袖下・脇縫 袖下から脇を續けて袋縫にし、後へ折り返す。
- ② 袖口 先づ縁布を幅 1cm になるやう、兩端を折り曲げておく。袖口の裏に縁布を當てて縫ひ、表に返して縁布の端を纏り付ける。または縁布の兩端を、ミシンで抑へるか或は端を落しミシンで抑へてもよい。
- ③ 衿肩廻及び前裾 衿肩廻り・前裾へ續けて袖口



と同様に縁布を付ける。前裾の角は、前頁圖の如く額縁にしておく。

④仕上げ 前述と同様にする。

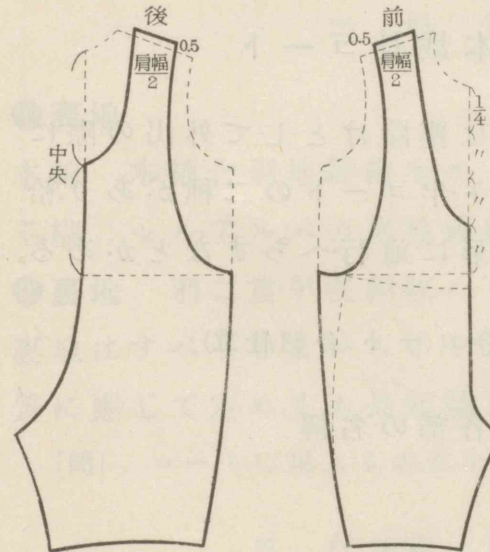
(4) 吊ズボン

吊ズボンには肩で合せるもの(下圖左)と前で合せるもの(下圖右)とがある。この上に上衣を用ひて普通ズボンの代用にしてもよい。



着用圖

一 型紙の取り方



型紙の取り方

ウエスト原型とズボンの型紙を左圖のやう突き合せて取る。前後の明脇の刳りなどは好みにより適當に定めてよい。

二 裁ち方

型紙に次の縫代を付けて裁つ。

裾口... 4cm 肩... 2cm その他... 1cm
力布 幅... 肩幅上部に同じ。丈... 6cm

三 仕立て方

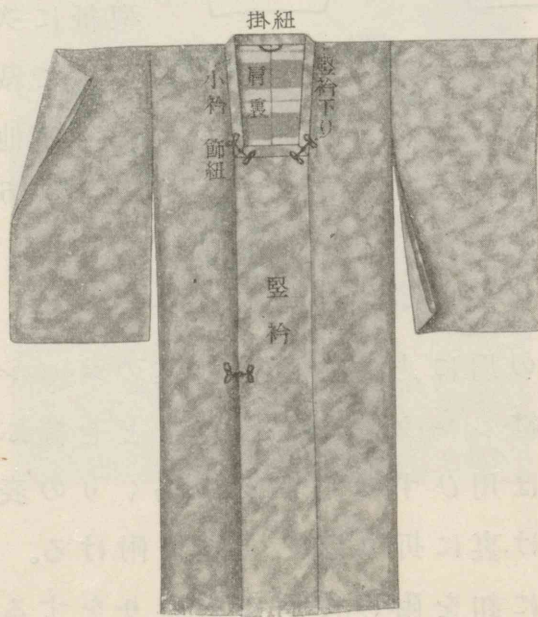
- ① 前後の肩に力布を付け、前述のズボンに準じて胯上・脇縫・シツク附・胯下・裾口などを縫ふ。
- ② 腰裏は用ひず衿ぐり及び脇ぐりの表に斜布を縫ひ付け、裏に折り返して纏り付ける。
- ③ 前肩に釦を付け、後肩に穴膝りをする。
- ④ 仕上げ 霧を吹いてアイロンをかける。

第二章 本裁長コート

コートは防寒・防湿或は塵除けとして外出の際に用ひるもので、長コート・半コートの二種があり、袷単に仕立てる。衿の形に道行・へちまなどがある。

(一) 道行衿コート(合羽仕立)

一 各部の名稱



各部の名稱

二 地質

①表地

木綿 木綿合羽地・緋・綿セル

毛織 セル・アルパカ・薄地羅紗・ラクダ・ピロード

②裏地

羽二重・甲斐絹紋パレス・瓦斯甲斐絹・更紗
裏地はすべりのよいものを選ぶ。すべて表の地質に応じて定め、丈も長短随意である。

[問] コートに用ふる地質を問ふ。

三 仕立て上げ寸法

袖	丈	長着+0.5cm	夏物は同種
袖	幅	33 内外	(長着+0.5)
袖	附	26	(長着+0.8)
袖	口	23	(長着と同寸)
身	丈	羽織より6-10cm長く (半コート) 着丈と同種 (長コート)	
身	幅	後 28.5 (前後共裾口で約2.広く) 前 21. (身八つ口留りは抱幅と同種)	
肩	幅	30	
衿	肩明	長着+0.5	
衿	下り	25	(衿下り+2)
衿	幅	15	(または上を1cmつめ)

身八つ口	9.5-11
前切り上げ	2内外
小 衿 丈	107内外
小 衿 幅	2 内外 (道 行) 3 内外 (へちま衿)
衿	63. (長着+0.5)
繰 越 し	1-2
隠 し 下 り	縦衿下りより約10
隠 し 口 明	15内外

四 裁ち方

① 各部の布数

1. 表

袖 二枚(左右) 身頃 二枚(左右)
 縦衿 二枚 小衿 一枚 袖口 二枚

2. 裏

(1) 半裏 (約身丈の半分または帯の下まで)

身頃 二枚(表の半分) 袖 二枚

(2) 総裏 (身丈全体に付ける)

袖 二枚 身頃 二枚

注意 (1) 袖裏は全部付けるか、または袖口を標準として上部だけ付けることがある。

① 用布總丈

1. 表 並幅 11m (約一反)

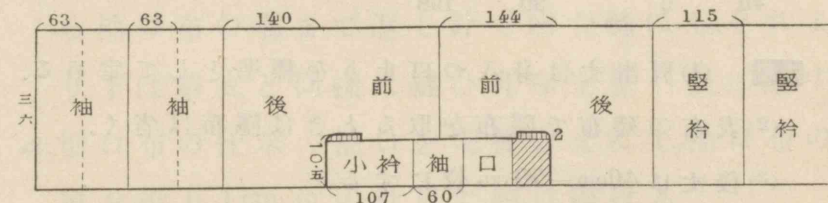
大幅 $\left\{ \begin{array}{l} 530 \text{ cm 内外} \cdots (76 \text{ cm 幅}) \\ 265 \text{ cm 内外} \cdots (136 \text{ cm 幅}) \end{array} \right.$

2. 肩滑 並幅 150 cm - 200 cm

② 裁ち方圖と積り方計算

1. 表

用布 並幅 1050 cm



$$\begin{array}{l} \text{上り} \\ \text{身丈} + \text{三つ衿縫代} + \text{繰越} - \text{縦衿下り} + \text{上下縫代} = \text{縦衿丈} \\ 130 \quad 1 \quad 2 \quad 25 \quad 7 \quad 115 \end{array}$$

$$\{\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{繰越} \times 4 + \text{縦衿丈} \times 2)\} \div 4 = \text{後丈}$$

$$1050 \quad 63 \quad 2 \quad 115 \quad 140$$

$$\text{後丈} + \text{繰越} \times 2 = \text{前丈}$$

$$140 \quad 2 \quad 144$$

$$\begin{array}{l} \text{上り} \\ (\text{衿肩明} + \text{繰越} + \text{縦衿下り} + \text{縦衿幅} + \text{縫代}) \times 2 = \text{小衿丈} \\ 9.5 \quad 2 \quad 25 \quad 15 \quad 2 \quad 107 \end{array}$$

$$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{繰越} \times 4 + \text{縦衿丈} \times 2 = \text{總丈}$$

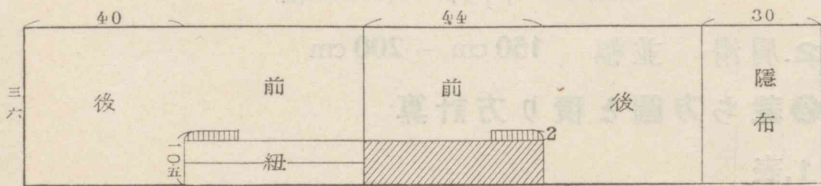
$$63 \quad 140 \quad 2 \quad 115 \quad 1050$$

$$\frac{\{ \text{總丈} - (\text{後丈} \times 4 + \frac{\text{繰越} \times 4}{2} + \text{豎衿丈} \times 2) \}}{4} = \text{袖丈}$$

$$\frac{105 - 140}{4} = 68$$

2. 肩滑

用布 並幅 198 cm



$$(\text{後丈} + \frac{\text{繰越}}{2}) \times 4 + \text{隠布} = \text{肩滑丈}$$

$$40 + \frac{2}{2} \times 4 + 30 = 198$$

- 注意** (1) 肩滑丈は身八つ口止りを標準として定める。
 (2) 表布の残布で隠布を取るときは隠布は省く。
 (3) 後丈は40cm—50cm位にする。

五 仕立て方

仕立て方順序

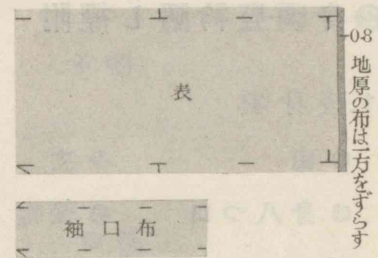
- ① 袖
- ② 身頃豎衿隠し標附
- ③ 脊縫・肩滑附
- ④ 豎衿隠し附
- ⑤ 脇縫
- ⑥ 裾紵
- ⑦ 小衿標附
- ⑧ 小衿附
- ⑨ 袖附
- ⑩ 仕上げ
- ⑪ 飾紐及び紐附

① 袖

1. 標附け方 大體本裁單衣と同様にする。

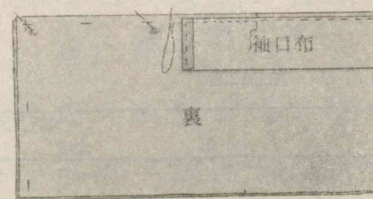
袖口布は衿に準じて附ける。

2. 袖口合せ 袖口布の兩端を折つて伏せ縫にし、袖と合せて口明を衿のやうに縫ひ、表の方に折を返す。

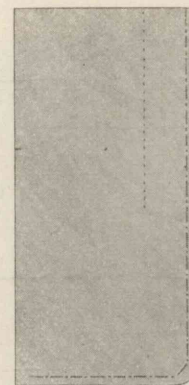


袖の標附け方

3. 袖下縫 口明止りに四つ留をなし、口明止りから袖口布の端まで返し針で四つ縫にし、それより下は單衣と同様に縫ひ、丸みを整へ表に返す。
 4. 袖口布の仕末 袖口を毛抜合せにし、袖口布の奥を折り1cm位の針目で紵け附ける。



左袖の縫ひ方



出来上り

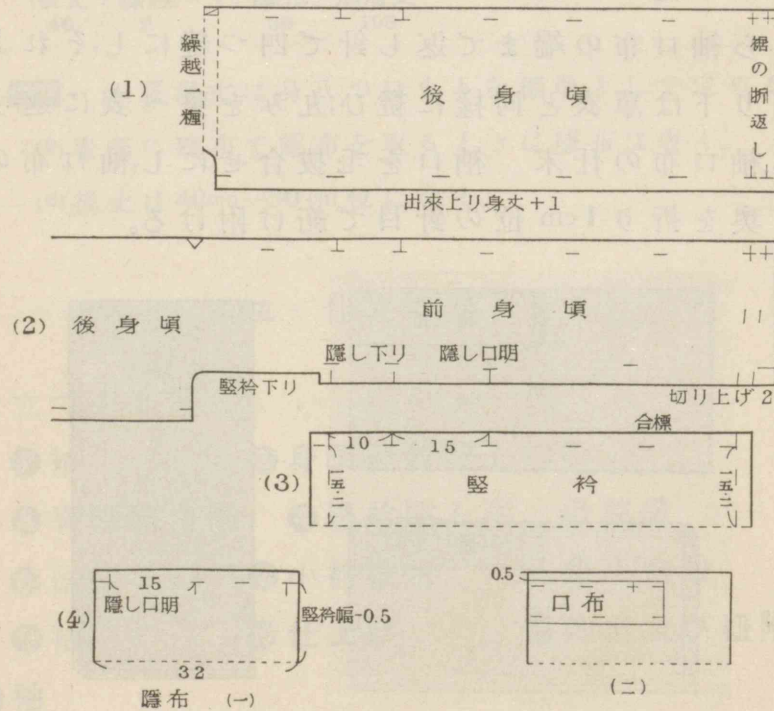
② 身頃・竖衿・隠し標附

1. 後身頃

- ① 山 ② 丈 ③ 袖附
- ④ 身八つ口 ⑤ 後幅 ⑥ 袖附斜

2. 前身頃

- ① 切り上げ ② 竖衿下り ③ 前幅
- ④ 隠し標(下り及び口)



標 附 け 方

3. 竖衿

- ① 小衿附代 ② 丈 ③ 幅

- ④ 隠し標(下り及び口)

4. 隠し

- ① 丈 ② 隠し口明 ③ 幅

- ④ 口布附

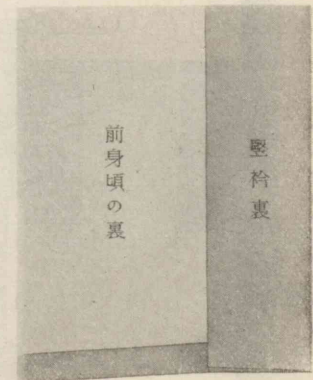
③ 脊縫・肩滑附 単衣の如く脊縫をなし、肩滑の脊を縫ひ、両端を三つ折筋にし、表身頃の脊縫と綴ぢ合せ廻りを假綴しておく。

④ 竖衿隠し附

1. 前裾を三つ折にして假綴をなし、次に上前身頃を表裏の竖衿で挟み、袷羽織衿附の如く前身頃を畳み込み、丈及び合標を合せ、一針貫にして三枚一緒に縫ふ。

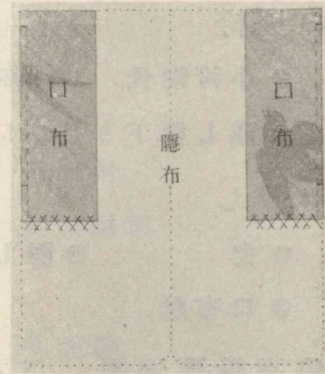
2. 竖衿先を表裏合せて縫ひ、裏の方に折り、縫込を竖衿附の縫代に綴ぢ付け、引き返して折を正す。

3. 隠し布に次頁圖の如く口布を縫ひ付けて、下は千鳥をかけておく。地厚のときは奥



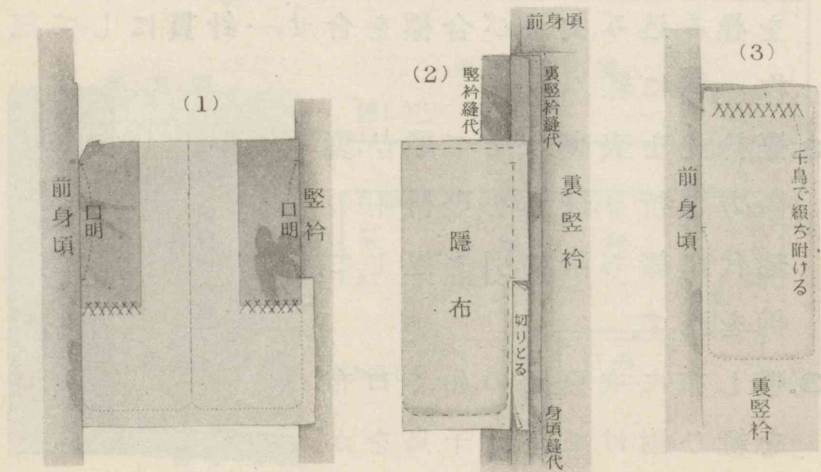
竖 衿 附

の方も千鳥掛にしておく。
 4. 隠し布口明の部分を一方は下前身頃に, 一方は裏襟に合せ幅標より約 0.2cm 奥を縫ひ, いづれも隠し布の方に折を返す。(下圖1)



口布の付け方

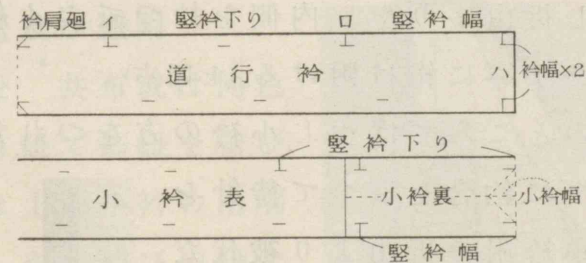
5. 口明の上下に四つ留をなし, 口明より下は三枚で縫ひ, 口明より上は裏裏襟を離して二枚で縫ふ。
 6. 裏襟先を上前と同様に縫ふ。
 7. 隠布の口明より下を縫代だけ裁ち落して, 袋底を下圖(2)の如く縫ふ。次に隠布の上部を0.8cm



隠し布の縫ひ方

の縫代で縫ふ。
 8. 裏裏襟の縫ひ残しの部分を細かに紵け付け, 隠し布の上部を前頁圖(3)の如く下前の裏裏襟に千鳥掛にして止めておく。
 ⑤脇縫 前裾の假躰をと, 前後の脇を合せてごく小針に地厚物は半返しに縫つて, 縫目を割り綴にする。單衣と同じく身八つ口を紵ける。
 ⑥裾紵 裾を三つ折紵にする。
 ⑦小衿標附

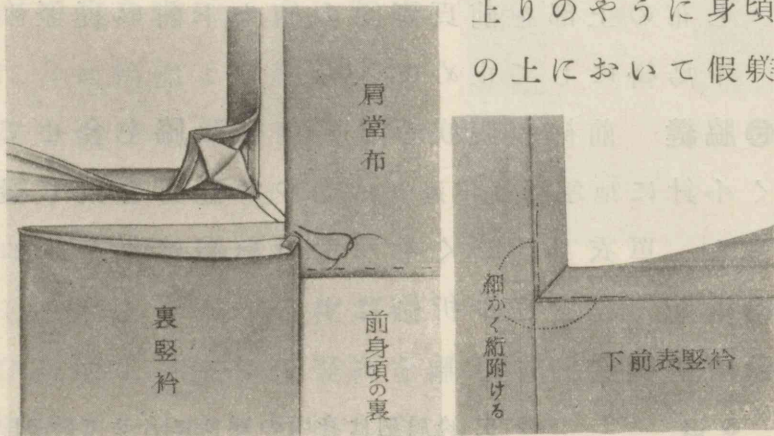
- ① 山
- ② 丈 (衿肩廻は身頃の繰りに合せて計る)
- ③ 幅
- ④ 額縁



⑧ 小衿附

1. 小衿附の方の縫代を裏に折り返し, 一方はそのままにして額縁のところをごく小針に返し針に縫ひ, 縫目を割りよく烙鏝をあてる。(地厚のときは縫代を折らずに縫ふ。)

2. 額縁のところを下圖左のやうにして身頃と留める。次に角から左右4cm位の間小衿を出來上りのやうに身頃の上において假寐



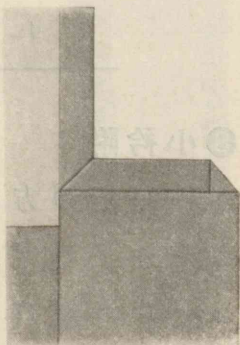
小衿額縁角四つ留の仕方

小衿角の衞け方

をなし、折山よりやや内側を抄つて、ごく細かい針目で丁寧に衞け附ける。(E圖右)

3. 肩山のところでは少し小衿の方をつれ加減に、他は平に鈎合を取つて待針を打ち、小衿附の折山より被代だけ内側を半返して縫ふ。

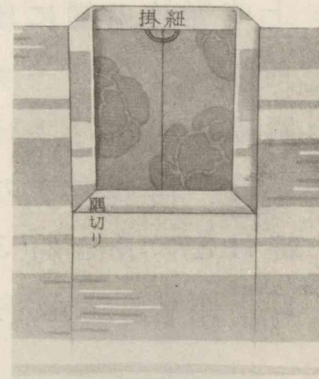
4. 小衿の端を下前は眞直に縫ひ、上前は右圖の如く角切りとし、衿芯を一枚入れて小衿を細かに衞ける。この際脊縫のとこ



上前小衿先(裏)

ろに右圖の如く掛紐を堅く綴ぢ附ける。

掛紐は長さ6cm幅1.5cmの斜布を四つ折衞にして用ひる。



掛紐の附け方

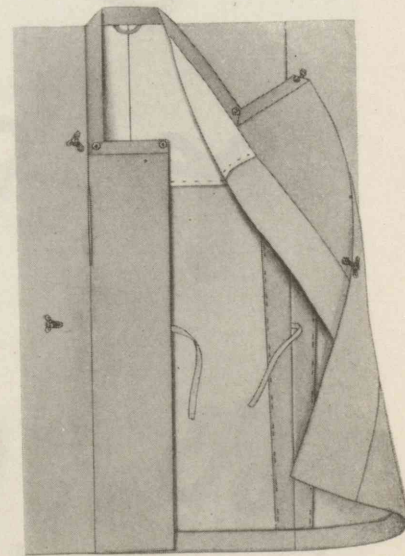
9 袖附

1. 單衣に準じて附ける。
2. 肩滑の仕末・振衞を單衣と同様にする。

10 仕上げ 軽く霧を吹いてアイロンをかけ、仕上げをする。

11 飾紐及び紐附

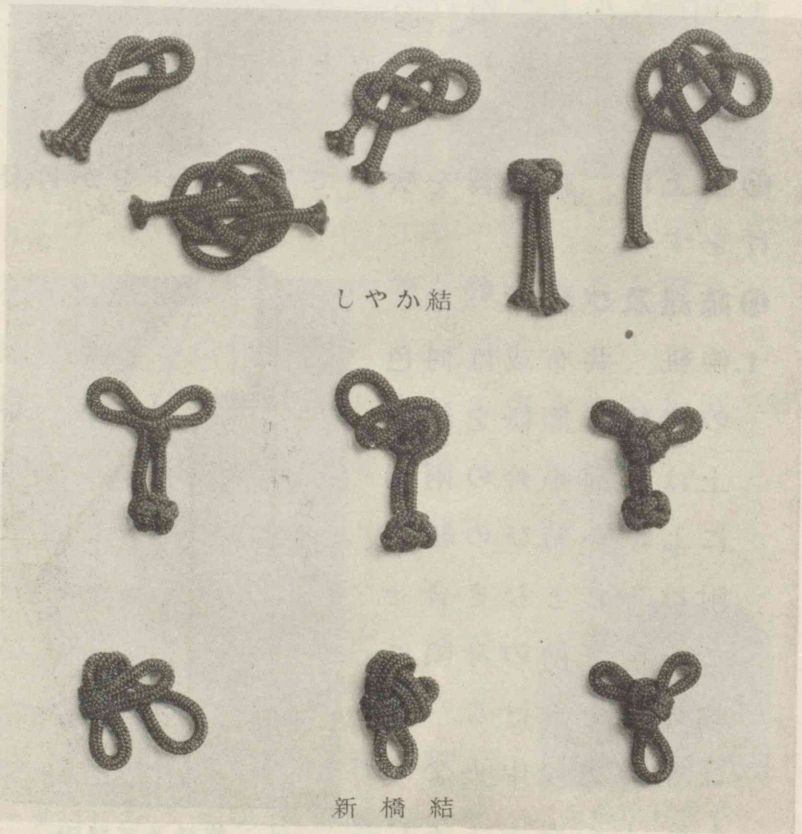
1. 飾紐 共布或は同色の打紐で飾紐を結び、上は上前小衿の兩端にしやか結びの紐を附け、それとむき合せて、上前下前の身頃に輪の方を附ける。下は堅衿丈の中央より4cm上つたところに



飾紐及び紐附

上前豎衿の端にはしやか結びの紐を付け、下前幅の三分の一(豎衿より)のところに輪の方を付ける。

2.紐附 同じ高さの下前豎衿の裏端と上前脇の縫目とに、長さ約 30cm 幅 1.5cm 位の紵紐を、前頁下圖のやうな向きにして付ける。



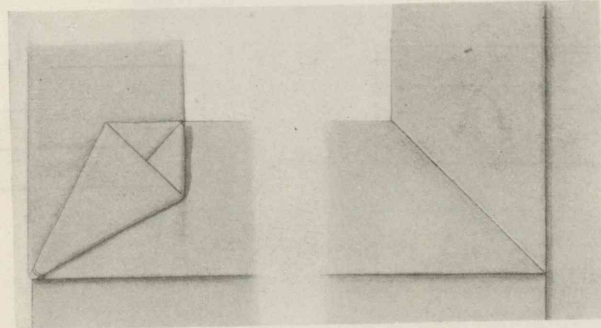
しやか結

新橋結

飾紐の結び方

3.スナップ附 上前裏小衿及び下前表小衿に、スナップを付ける。

注意 (1)地厚の品の場合は紵けるところを全部纏る。
(2)小衿角は下圖の如く簡単に撮み縫にして綴ち付けることもある。



裏

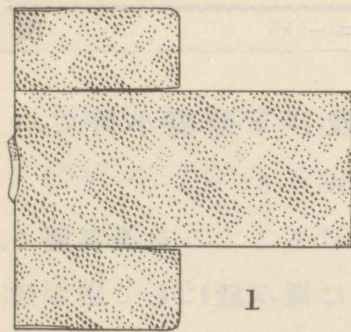
表

小衿角の撮み縫

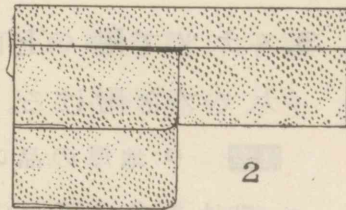
[問] 肩滑りの裁ち方圖を記せ。

六 疊み方

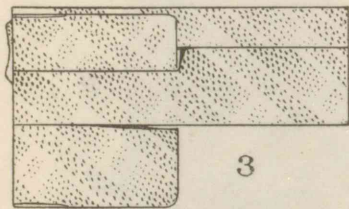
次頁圖の如く疊む。



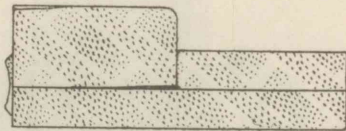
1



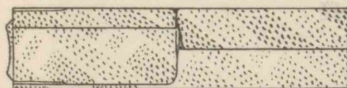
2



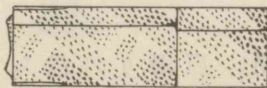
3



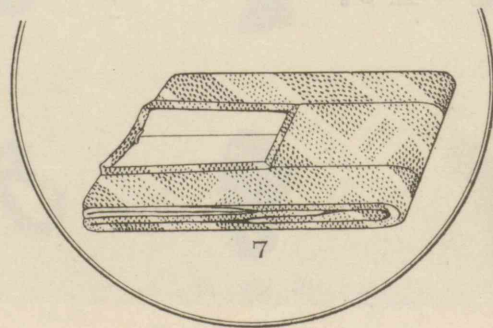
4



5

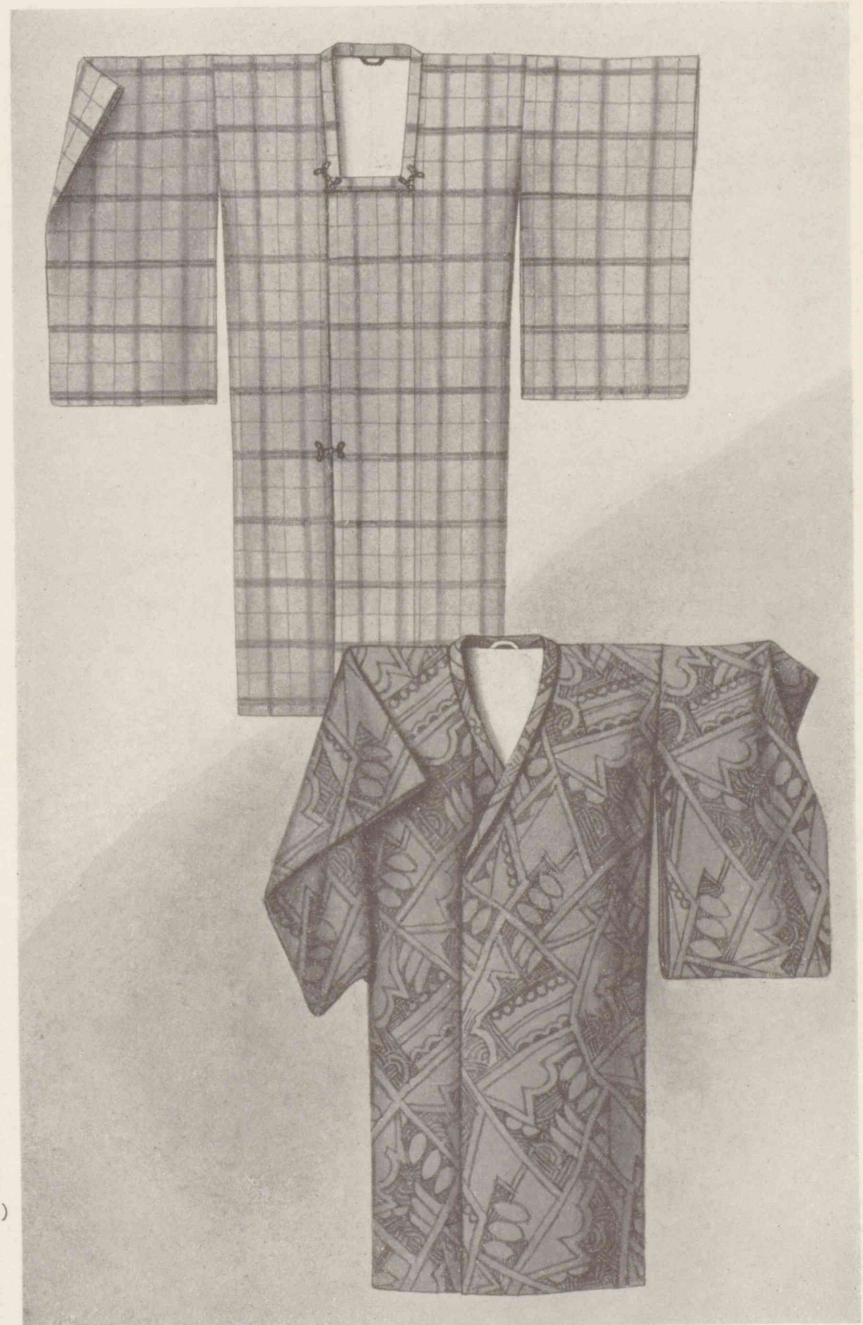


6



7

コートの畳み方



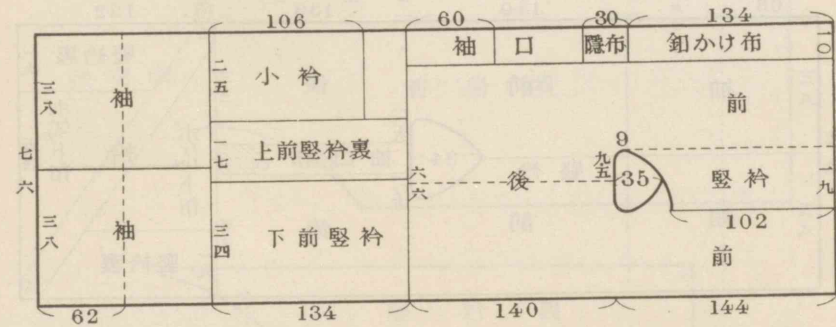
改現裁
(四)
三—三三
3

コート仕立て上り (道行衿・へちま衿)

(二) へちま衿

一 裁ち方

(一) 用布 幅 76 cm 丈 542 cm



$$\begin{array}{ccccccc} \text{上り} & & & & & & \\ \text{身丈} + \text{三衿縫代} + \text{繰越} + \text{前下り} - \text{前明} \times \frac{2}{10} & & & & & & \\ 130 & 1 & 2 & 2 & 35 & & \end{array}$$

$$+ \text{上下縫代} = \text{縦衿丈}$$

$$6 \quad 134$$

$$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 2 + \text{繰越} \times 2 + \text{縦衿丈} = \text{總丈}$$

$$62 \quad 140 \quad 2 \quad 134 \quad 542$$

$$\{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 2 + \text{縦衿丈} + \text{繰越} \times 2) \} \div 2 = \text{後丈}$$

$$542 \quad 62 \quad 134 \quad 2 \quad 140$$

$$\text{後丈} + \text{繰越} \times 2 = \text{前丈}$$

$$140 \quad 2 \quad 144$$

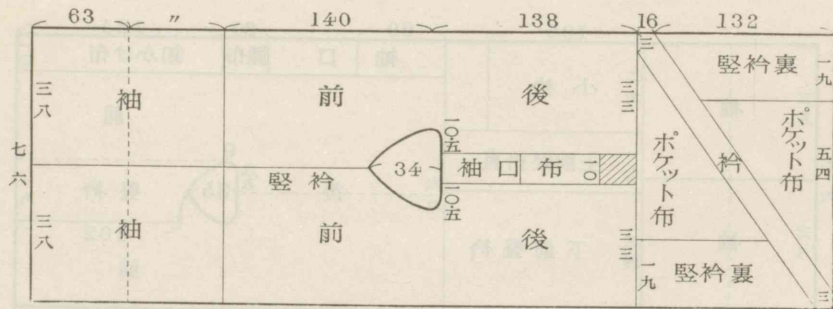
$$(\text{衿肩明} + \text{繰越} + \text{前明} + \text{縫代及ひ餘裕}) \times 2 = \text{小衿丈}$$

$$9.5 \quad 2 \quad 35 \quad 6.5 \quad 106$$

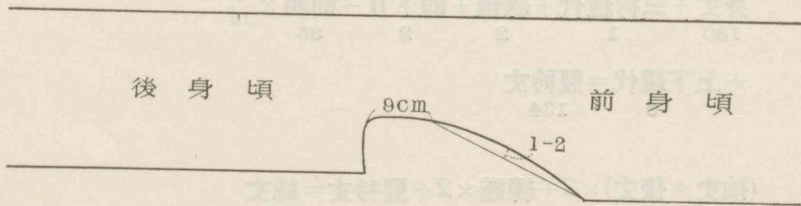
[問] (1)へちま衿の場合、衿下り寸法の道行仕立に比べて短い理由を述べよ。

(2)へちま衿の返りをよくするには如何なる點に注意したらよいか。

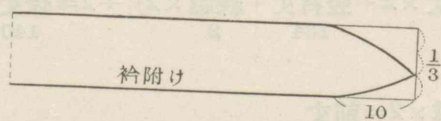
(二) 用布 幅 76 cm 丈 552 cm (小衿斜布のとき)



衿明の繰り方

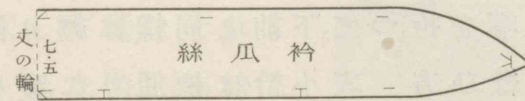
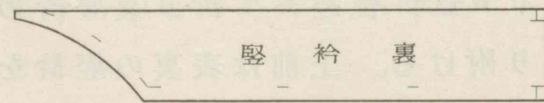
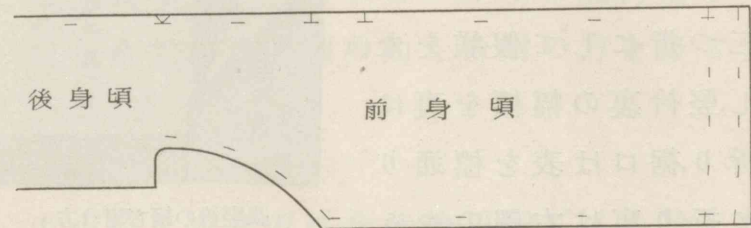
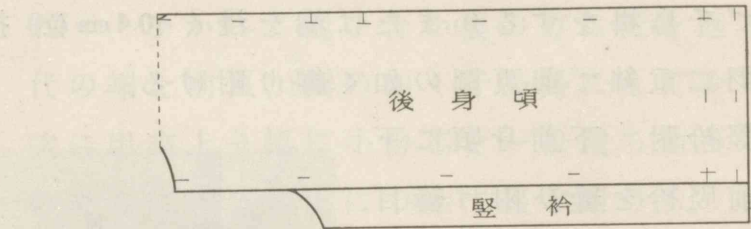


小衿の裁ち方



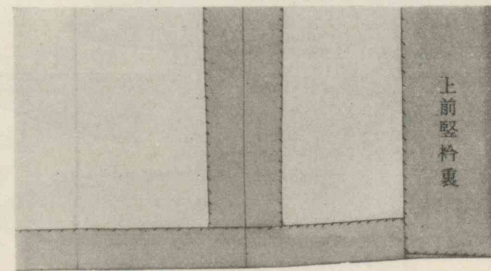
二 仕立て方

① 標付け方 次頁圖の如く附ける。



② 縫ひ方 セルその他地厚のものは、各部の縫目は

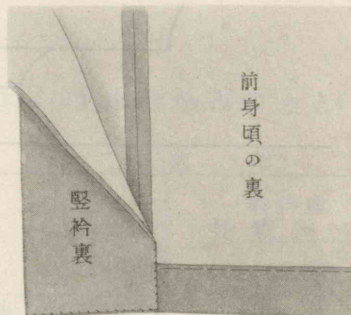
羽二重糸または絹の細目の丸糸を用ひ、二針三針毎に一針返す。縫目は全部割り、端は耳または裁目のまま丸



縫込の仕末

糸で千鳥掛をするか、または端を浅く(0.4cm位)折り、羽二重糸で前頁圖の如く纏り付ける。

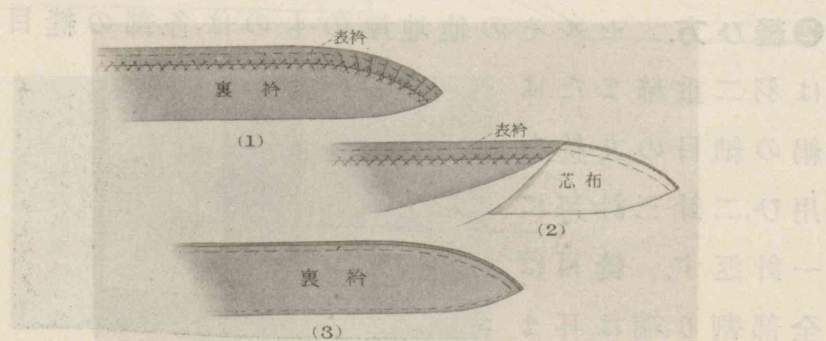
1. 竖衿附 下前身頃に下前竖衿を縫ひ付け、縫目を割り、前身頃の裾口を三つ折にして假襷をなし、竖衿裏の幅標を裏に折り、裾口は表を標通りに折り、裏は右圖のやう



裏竖衿の綴ち付け方

に表より0.4cm位控へて折り、裏竖衿の端を折つて纏り付ける。上前は表裏の竖衿を中表に合せて縫ひ、裏竖衿の方に折を返し、裾口及び裏竖衿の端を折つて、下前と同様に纏り付ける。

2. 小衿の縫ひ方 表小衿は標通りに、裏小衿は約



小衿の縫ひ方

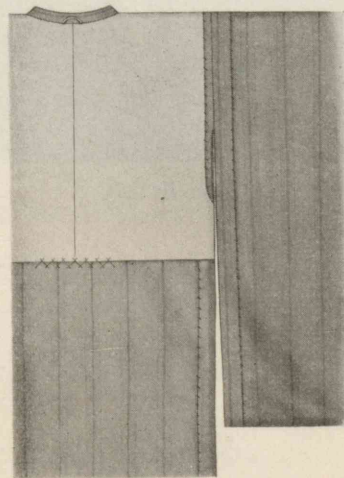
0.5cm ひかへて縫ひ合せ、裏の方に折を返し、縫代の端を前頁(1)圖の如く千鳥掛にしておく。次に出来上り幅に小衿芯を一枚裁ち、前頁(2)圖のやうに縫込の上のせて綴ち付ける。表に返し裏をひかへて襷をかけ、なほ裏衿幅をややつらせて前頁(3)圖の如く、衿附の方を綴ち合せておく。

3. 小衿附

(1) 小衿を表身頃に合せ、衿肩廻では小衿を弛めに竖衿斜のところでは小衿をやゝ張目に釣合をとる。

(2) 竖衿のところでは表裏の竖衿で、小衿を挟み半返して縫ひ、それより上は身頃と小衿とで縫ひ、身頃の方へ折を返す。

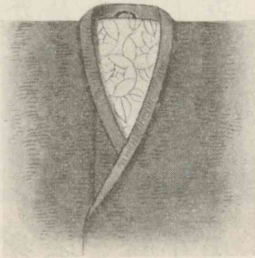
4. 肩裏の仕末 まづ掛紐を綴ち付けおき、肩裏の衿肩廻及び前明の縫代を裏に折つて、裏小衿の上に襷で抑へて後纏り



肩裏の仕末

付ける。脊縫のところは表にごく小針に出して、4cm位千鳥掛をする。

5.スナップの付け方 上前裏縦衿の端に小衿の下に一個それより11cm づつ下つて二個、合せて三個の凸スナップを付け、下前はそれに合せて凹スナップを付ける。



へちま衿

以上の外は前に述べた道行衿の仕立て方と同じにすればよろしい。

[問] 76cm 幅物にて普通寸法による合羽の裁ち方圖を問ふ。

第三章 外套(女児用)

一 地質

表 羅紗・メルトン・スコッチ・ラクダ・天鷲絨など
裏 毛織子・アルパカ・甲斐絹・織子など。

二 型紙の取り方

製圖は洋服の上より計つた胸圍によつてする。

①身頃 ウエイストの原型を用ひ次のやうに製圖する。

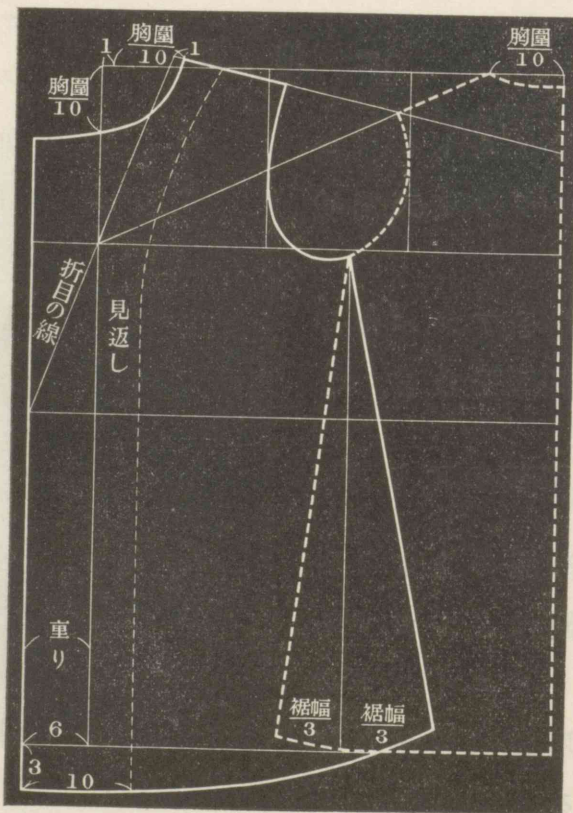
- 1.丈 後中央線を延長して着丈にとる。上衣より3-5cm 長くする。
- 2.前の重り 5-8cm にとる。
- 3.脇裾で各々型紙裾幅の $\frac{1}{3}$ だけひろげる。
- 4.折目の線を衿肩より1cm 離し、腹圍線まで斜に



着用圖

引く。

5.見返し幅を点線のやうに取る。



型紙の取り方

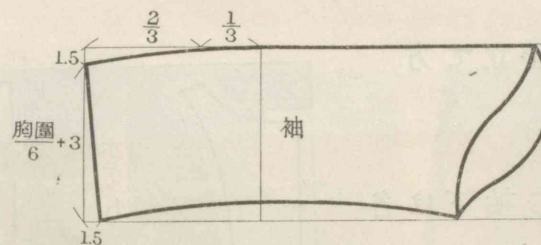
注意 袖削りをゆつたり仕立てるときは原型より

1cm 下げ、脇で1cm 出してもよい。

②袖 大體別スリーブの製圖と同様である。

1.丈は手首より約4cm 長く取る。

2.袖口は山で1.5cm の形を付け、それより袖口幅



型紙の取り方

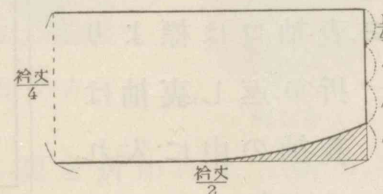
を定める。

③ 衿

1.丈を $\frac{\text{衿丈}}{2}$ に取る。

2.幅を $\frac{\text{衿丈}}{4}$ に取る。或は

もつと廣くしてもよい。



型紙の取り方

3.衿附の方を丈の中央より、約幅の $\frac{1}{4}$ だけ削る。

三 布の裁ち方

① 用布の積り方

幅…135cm (羅紗幅)

丈…前身丈 × 2 + 上下縫代

② 型紙の配置及び布の裁ち方 型紙を適當に配置し、次の縫代を付けて裁つ。

裾…6cm 袖口…3cm 肩…2cm

その他…1cm

裏の前身頃は見返し幅だけ狭く裁つ。

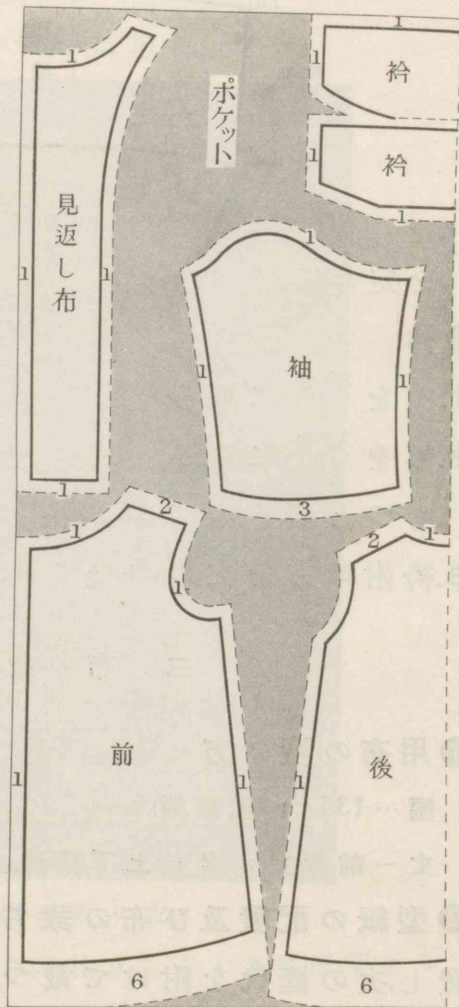
四 仕立て方

① 袖

1. 表・裏の袖下は各縫って縫目を割っておく。
2. 表袖口は標より折り返し、裏袖は表袖の中に入れ、まづ袖下は綴ち合せ、次に袖口は控へて折つて纏り付ける。

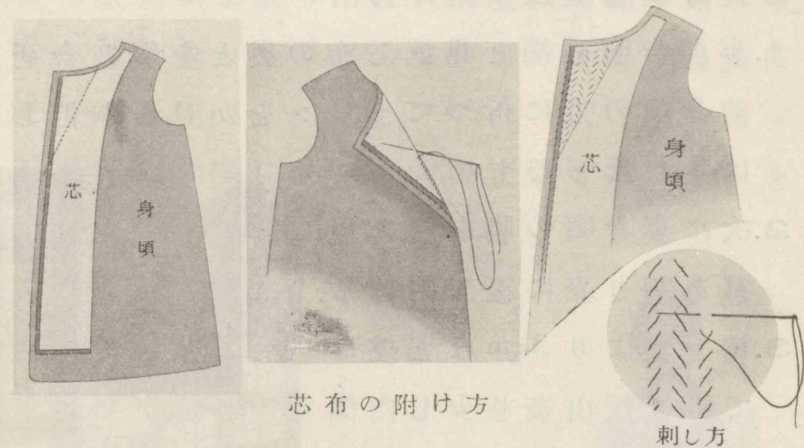
② 身頃見返し附

1. 芯布を見返しの型紙通りに裁ち、前身頃を平においてその上にのせ、約 0.8cm 幅の



裁ち方総合圖(四幅物)

テープを衿附止りより裾まで、ややつらせ加減に重ねて纏り付ける。次に折目の線のところ



芯布の付け方

刺し方

- は表と芯地とを一緒に、裏を折山にして折り、そのまま表に小針を出し浅く巻縫にする。次に折り返りの部分を上圖の如く(ハ)の字に刺す。
2. 見返し布と身頃と中表に合せ、上部より裾の見返し幅のところまで縫ひ、見返し布の縫代は浅く切り取り、縫目は割つて表に返す。この際折り返りの部分は身頃が見えぬやう、それより下は見返し布が見えぬやうにして躰をかける。
 - ③ ポケット附 ポケットの位置を、定めて縫ひ付ける。また切ポケットにしてもよい。
 - ④ 肩脇縫 肩及び脇を縫ひ合せて縫目を割る。
 - ⑤ 裾 裾を標より裏に折り、裁目のまま千鳥掛にする。

⑥裏身頃脇縫及び付け方

1.裏前身頃の端と見返し布の奥とを縫ひ合せ裏前身頃の方に折つてミシンをかける。但し裾は3cmほど残しておく。

2.次に裏身頃の脇を縫ひ縫目を割り表に綴ぢ付ける。

3.裾を表より3cmほど控へて折り、折山より少し内側を表に纏り付ける。

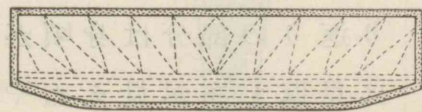


4.裏前肩を表の縫代に綴ぢ 裏前身と見返しの縫ひ合せ
付け、後肩を折つてその上に纏り付ける。

⑦袖附 表袖と表身頃とを合せて縫ひ縫目を割り、裏身頃を其上に重ねて綴ぢ付け裏袖を折つて身頃の上に纏り付ける。

⑧衿縫及び衿附

1.衿芯を斜布で型紙通りに取り、裏衿に重ね右圖の如くミシンにて刺す。



衿芯の入れ方

2.表裏の衿を合せて縫ひ、裏衿の縫代を浅く切つて表に返す。

3.表衿と裏身頃とを中表に合せて縫ひ、縫目を割

つて表身頃を綴ぢ付け、次に裏衿を纏り付ける。また地厚のときは、裏衿は裁目のまま千鳥掛にしておく。

4.衿及び前身頃に0.8cm位の深さで飾ミシンをかける。

⑨釦附及び穴膝り 上前に穴を一個明けて膝り、下前に釦を付ける。

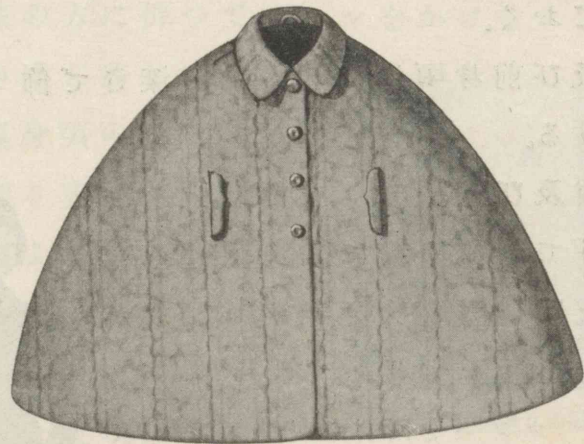
⑩仕上げ 霧を吹きアイロンをかけて仕上げをする。

注意 カフスを付けるときは、まづ表裏のカフスの奥を合せて縫ひ裏の方に折り、次に袖下を續けて縫つて縫目を割り裏を中にして引き返す。次に袖口の方で裏を約1cm控へて纏り、それを袖口の上にかぶせて纏り付ける。



参考

第四章 ケープ(マント)



ケープ仕立て上り

一 地質

表 羅紗・メルトン・ヘルなど

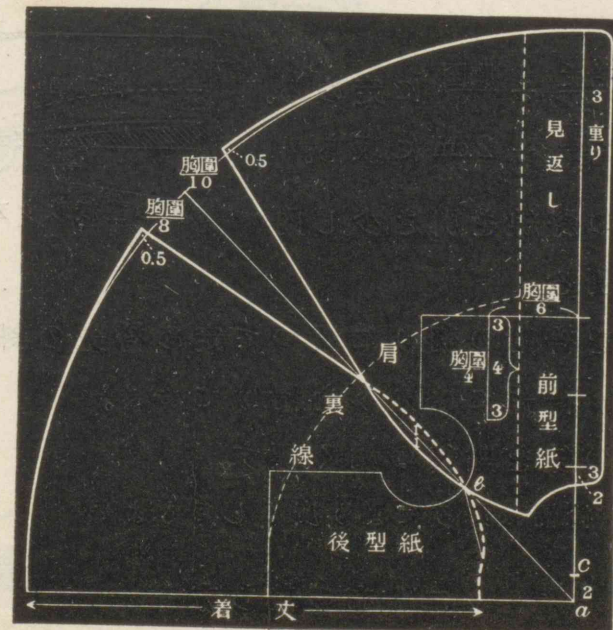
裏 縹子毛縹子など

二 型紙の取り方

① 身頃

1. ウエストの前後の型紙を圖の如く肩先で突き合せにしておく。
2. 前後の中心線を延長して着丈に取る。

3. 前後中心線の交叉した角(a)と肩先(b)とにあつて前後の分岐線を引く。
4. aより前下り2cmをとつてcとし、cを中心とし着丈までを半径として裾の線を引く。
5. 分岐線の裾口のところで後は胸圍 $\frac{8}{8}$ 前は胸圍 $\frac{10}{10}$ をとり、原型の胸圍線の邊りでは外に1cm出し丸みを付けて、肩より裾迄自然に肩及び脇の線を引き、裾の角のところでは弧線より約0.5cm出して直角にする。
6. 前の中央線より持出しを3cm出し、上下は小さ



型紙の取り方

丸みにしておく。

7.手出しの位置を腹圍線上で前中央線より $\frac{\text{胸圍}}{6}$

入つて $\frac{\text{胸圍}}{4}$ に取り、次に蓋の幅を定める。

8.釦穴を顎から 2cm 下つて 3cm の大きさに一つ、

下は手出しの穴の終りと同じ高さとし、その中央に一つ標す。

9.見返し幅を 10cm 内外に定める。

10. 肩裏を後は腹圍線位まで、前は手出しの下に取る。

注意 胸圍は上着の上から計つた寸法を用ひる。

① 衿

1. 丈 = $\frac{\text{衿丈}}{2} + \frac{\text{胸圍}}{16}$ に定める。

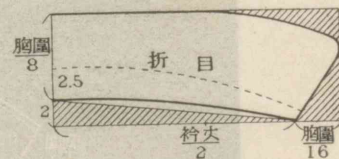
2. 幅 = $\frac{\text{胸圍}}{8} + 2\text{cm}$ に取る。

3. 衿附の斜線を引き、少し内側に削る。

4. 衿幅を衿附の削りに添つて定め、衿先の斜線を引く。衿先には丸みを付けておく。

5. 折目の線を点線の如く標す。

注意 衿幅は好みにより広くしてもよい。



衿の型紙取り方

三 布の裁ち方

① 用布の積り方

表 幅... 135cm 丈... 前後型紙丈 + 上下縫代

裏 幅... 76cm 丈... 肩裏丈 × 2

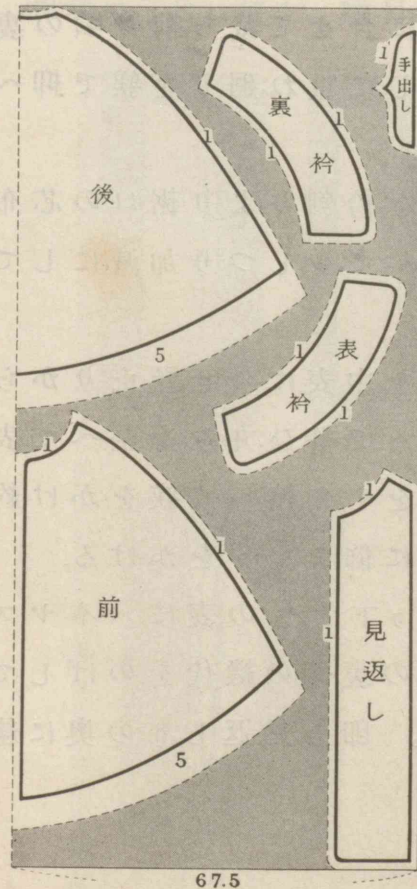
② 型紙の配置及び布の裁ち方

1. 表 下圖の如く型紙を配置し、次の縫代を付けて裁ち切る。

裾... 5cm

その他... 1cm

2. 裏 下圖の如く型紙の廻りに 1cm の縫



ケープ裁ち方綜合圖



肩裏の裁ち方

代を付けて裁つ。

附属品 釦…3個 鉤ホック 芯布

四 仕立て方

①前見返し附

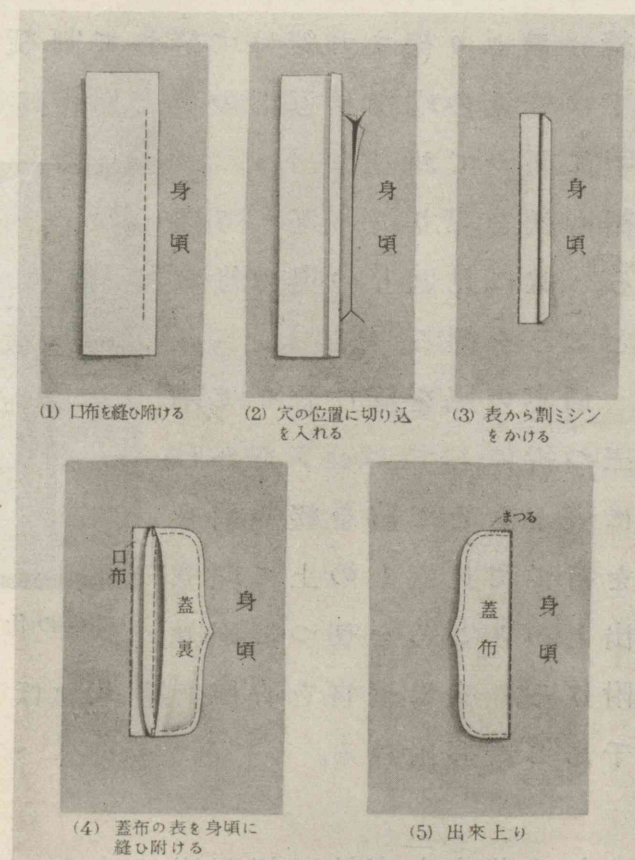
1. 芯布を見返しの型紙に合わせて裁ち、前身頃の裏に芯布をやや弛めにして重ね、廻りを躰で押へておく。
2. 幅 0.8cm 位のテープを、衿刳りより裾口の芯布の端まで縫代だけ控へて、少しつり加減にして纏り付ける。
3. 前身頃と見返し布とを中表に合せ、頸止りから裾見返し幅のところまで縫ひ、丸みを整へて表に返す。次に見返しをやや控へて躰をかけ、約 0.8cm 入つたところに飾ミシンをかける。
4. 見返し布の奥(肩裏より下だけ)の表にバイヤスを縫ひ付け、バイヤスの裏側の縫代をのばして落しミシンをかける。即ち見返し布の奥に縁を取る。

②手出し附

1. 蓋布の表裏を合せ、芯布を入れ附の方を残して

廻りの三方を縫ふ。次に表返して廻りにミシンをかける。

2. 手出し穴の内側の方に口布(幅 4cm 丈手出し穴より少し長く)を當て、1 圖の如く 0.5cm の縫代で縫ふ。次に 2 圖の如く穴の位置に鉄を入れて(両端は三角に切る)縫目を割り、口布幅を縫代の



手出しの付け方

二倍にして裏に折り返し、表から一束に割ミシンをかける。(3圖)

3.蓋を穴の外側に当て4圖の如く表布一枚を身頃と縫ひ合せて縫目を割り、その上に裏布を當てて表から割ミシンをかける。次に上下を口布幅だけ身頃に纏り付ける。(5圖)

③肩脇縫 肩より裾まで續けて縫つて割る。肩裏より下は縫込の端を見返しの奥と同様に縁を取り、身頃に纏つておく。

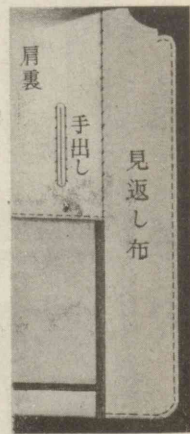
④裾 裾も縁を取り、折り返して纏り付ける。次に見返しの奥の縁を取つたところを纏る。

⑤肩裏 肩裏の脇を縫ひ合せて割り、裾を三つ折にしてミシンをかける。次に表と合せて脇を綴ぢ、前身頃の端を折つて見返しの上に纏り付け、手出しのところを切つて廻り

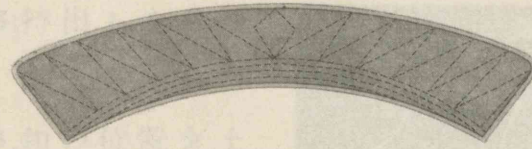
を纏り付ける。次に裾口を脊脇で、各6cmほど表身頃に千鳥で綴ぢ付ける。

⑥ 衿縫

1.左圖の如く芯布を裏衿に綴ぢ付けてミシンを



肩裏の仕末



芯の入れ方

かける。

2.次に表裏の衿を合せ、裏衿をやや張り目に

にして衿附の方と、衿附にて折り返りの1cmのところとを残して三方を縫ひ、丸みを整へて表に返して0.5cmの深さにミシンをかける。縫ひ残したところに鉤ホック(右輪左鉤)を付け、表裏を纏り合せておく。

⑦衿附 表衿を身頃の裏に當てて縫ひ、裏衿の端を折つて表身頃に纏り付ける。

⑧釦附及び穴膝り 上前に穴膝りをなし、穴に合わせて下前に釦を付ける。

⑨仕上げ 霧を吹きアイロンをかけて仕上げをする。

第五章 學生服

上衣

— 地質

夏 綿サージ・霜降・小倉など
冬 サージ・ヘル・メルトンなど

ニ 型紙の取り方



着用圖

- ①身頃 假線の引き方は大體女兒服と同様であるから、ここには異なる點のみを説明する。
1. 丈 $\frac{\text{身長}}{4} + \frac{\text{身長}}{6}$ (或は $\frac{\text{身長}}{8}$) に取る。
 2. 後中心を脊丈のところで 1cm, 裾口で 0.5cm 狭くする。
 3. 前の脇を裾口で約 $\frac{\text{胸圍}}{16}$ ひろげ、次頁圖の如く前後の脇を刳る。
 4. 胸及び脇のポケットの位置を定める。胸ポケットは左にのみ付ける。

5. 持出しを 2cm 出す。

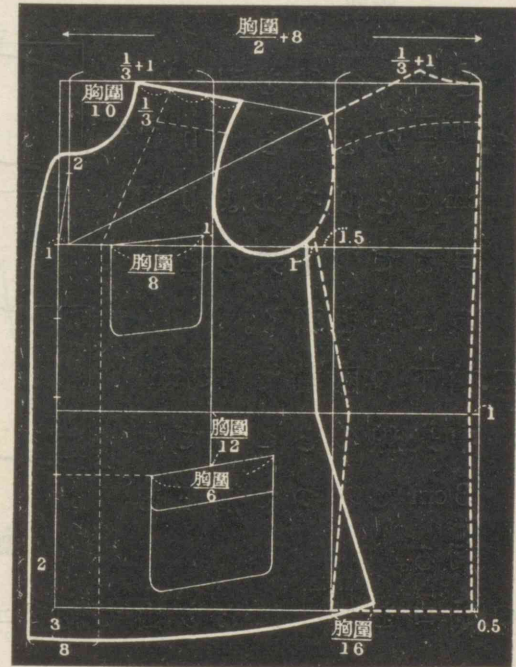
6. 釦の位置を上は衿刳りよりは 2cm 下げ, 下はポケット口と平行にし, その間を四等分して定める。

7. 見返し幅は上で肩幅の約 $\frac{1}{3}$ 下で 8cm 位に定める。

8. 肩當を適宜に定める。

②袖 この袖は内袖と外袖との二枚になるのである。

1. 丈を上り袖丈に取る。
2. 右の端より $\frac{\text{胸圍}}{24}$ 取り A とし, 同點より $\frac{\text{胸圍}}{8}$ 取り B とし, 各垂線を引く。
3. 下部の B 點より計り $\frac{\text{袖刳}}{2} - 1\text{cm}$ を A 線上に取る。その斜線の中央で直角線を右に出し, その



型紙の取り方

線と $\frac{\text{胸圍}}{8}$ のところと
を結ぶ斜線を引く。

4. $\frac{\text{胸圍}}{8}$ のところより、2
cmにとり、それより袖
口までの中央のとこ
ろに線を引く。

5. 袖下の両端で 1.5 cm
中央線のところでは
3 cm にとつて袖下を
切る。

6. 袖口を $\frac{\text{胸圍}}{6}$ にとり、山で約 2 cm 出して斜線を引
く。

7. 袖山を附の方で 3 cm 内に入れて自然に切る。

8. 袖附を 1 圖のやうに切る。

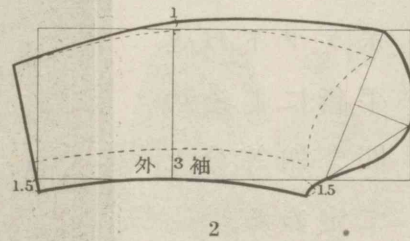
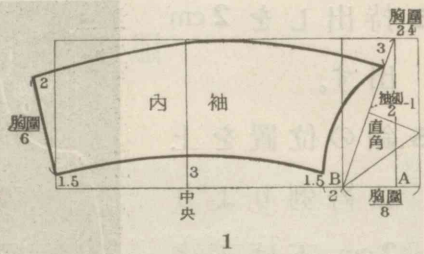
以上が内袖になるのである。次に外袖の製圖を
する。

1. 袖下で内袖より 3 cm 離して、内袖の切りに添う
て自然に切る。

2. 袖山を中央で約 1 cm 廣くして切る。

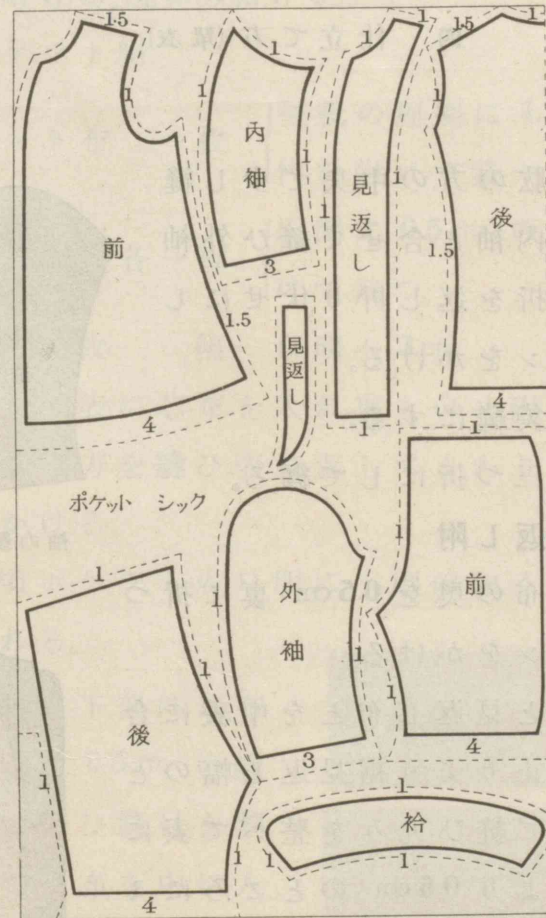
3. 袖附を 2 圖の如く自然に切る。

- ③ 衿 ケーブに同じ。



型紙の取り方

三 布の裁ち方



裁ち方綜合圖 (四幅物)

型紙に次の縫代を付けて裁つ。

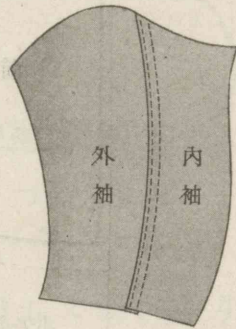
裾 ... 4 cm 肩・脇 ... 1.5 cm

袖口… 3cm その他… 1cm
芯布… 衿の分 釦… 5個

四 仕立て方(單衣)

① 袖

1.外袖の肱の方の中央で少し縫ひ縮め、内袖と合せて縫ひ外袖の方に折を返し折り伏せにしてミシンをかける。



袖の縫ひ方

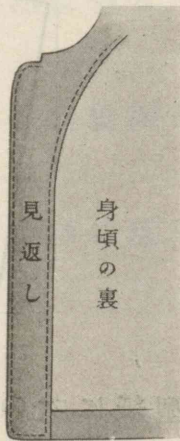
2.袖下を袋縫にする。

3.袖口を三つ折にして纏る。

② 身頃見返し附

1.見返し布の奥を 0.5cm 裏に折つてミシンをかける。

2.前身頃と見返し布とを中表に合せ、衿附止りより裾見返し幅のところまで縫ひ、丸みを整へて表に返し端より 0.5cm のところにミシンをかけ、見返しの奥を纏り付ける。(見返し幅にキャンパスの芯を入れてもよい)



見返し布附

③ ポケット附

1.胸ポケットの口布を付け、身頃の位置を定めて縫ひ付ける。(左のみ付ける。)

2.脇ポケット附

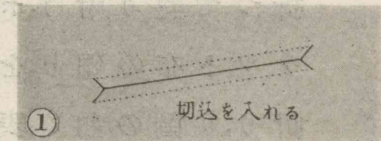
ポケット布 一枚 { 型紙の周圍に 1.5cm の縫代を付けて裁つ。

蓋布 表裏各一枚 { 周圍に 0.5cm の縫代を付けて裁つ。

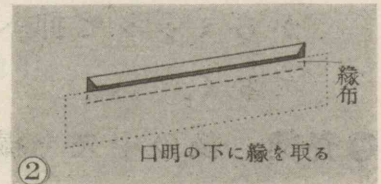
口布 一枚 幅… 口明 + 3cm 丈… 3cm

(1)蓋布の表に芯布を入れ、裏と合せ附の方を残して三方を縫ひ、表に返してまわりにミシンをかける。

(2)身頃ポケットの口明に1圖の如く切込みを入れる。



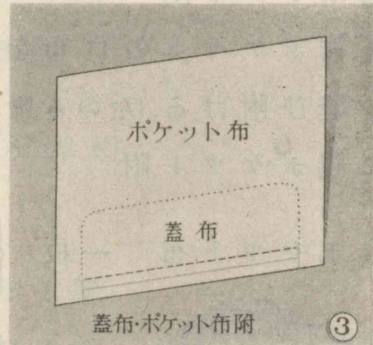
(3)口明の下部に口布を当て 0.5cm の縫代で縫ひ、縫目を割つて口布の中に入れ、2圖の如く縁を 0.5cm にして割ミ



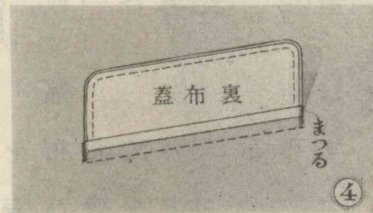
ポケットの縫ひ方

シシンをかける。

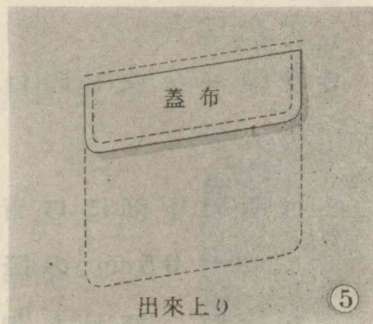
(4) 3 圖の如く口明の上部に蓋布をのせ、(裏を上にして裁目を揃へる)その上にポケット布を口明より 0.5 cm 出して重ねて、0.5 cm の縫代で縫ふ。



(5) ポケット布を中に入れ、折は上に返しミシンをかける。



次に 4 圖の如く両端の切り込を中に折つて纏り付け、ポケット布の廻りを折り、5 圖の如く表からミシンで抑へておく。



ポケットの縫ひ方

④ 脊縫 後の中央を撮んで縫ひ、左身頃の方に折つてミシンをかける。

⑤ 脇縫 前後の脇を合せて縫ひ、後に折り端を折

つてミシンをかける。

⑥ 肩合せ まづ肩當の端を折つてミシンをかけ、次に前肩當の端を見返しの上に纏り付け、後身頃の表裏で前身頃を挟んで縫ふ。

⑦ 裾 三つ折にして纏るか、或はミシンをかける。

⑧ 衿縫 ケープと同様に芯布を裏衿に綴ぢ付けて表裏の衿を合せ、衿附の方と衿附にて折り返しの 1 cm のところとを残して三方を縫ひ、表に返しミシンをかけ、縫ひ残り 1 cm のところに鈎ホック(右輪左鈎)を付け、表裏を纏り合せておく。

⑨ 衿附 ケープと同様にして付ける。

⑩ 袖附 身頃とよく釣合をとり、その上に見返し布を重ねて縫ひ、見返しの端を折つて纏る。

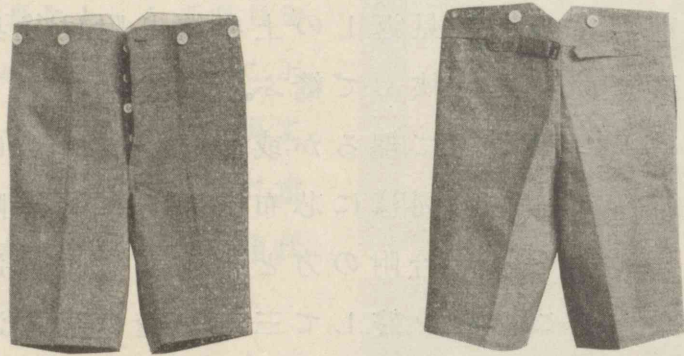
⑪ 穴騰り及び釦附 上前釦穴の標に穴を明けて騰り、穴に合せて下前に釦を付ける。

⑫ 仕上げ 霧を吹いてアイロンをかける。

ズボン (前明)

八・九歳以上のズボンは前述のズボンと異なり、次頁圖のやうに前胯上を明けて、右に持出しを付け、左は見返しを二重にして隠し釦にして、兩脇を縫

ひ合せポケットを付けて、なほ後布にはビジャウを付けるのである。

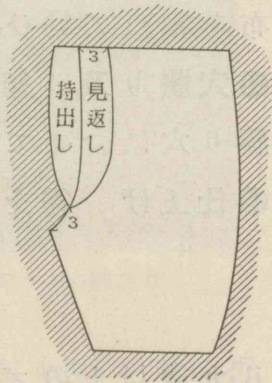


前 ズボン出来上り 後

一 型紙の取り方

①身頃 前述のズボンと同様にして取る。

②見返し・持出し 前脛上に合せて脛止りより3cm, 上り幅を約3cmにして右圖の如く取る。



見返し・持出しの取り方

二 布の裁ち方

身頃は前述と同様の縫代を付けて裁つ。

見返し 表一枚 裏二枚

持出し 表裏各一枚

ビジャウ 表裏各二枚(形は随意に定めてよい)

隠布 二枚(毛織子・キャラコなど)

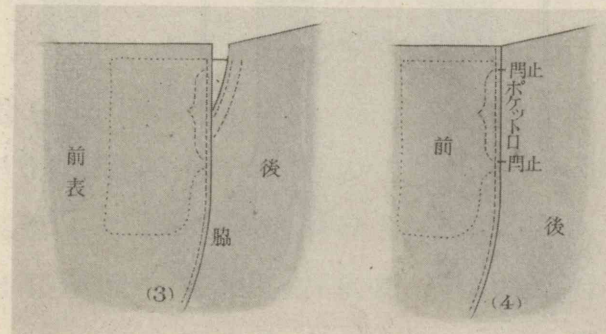
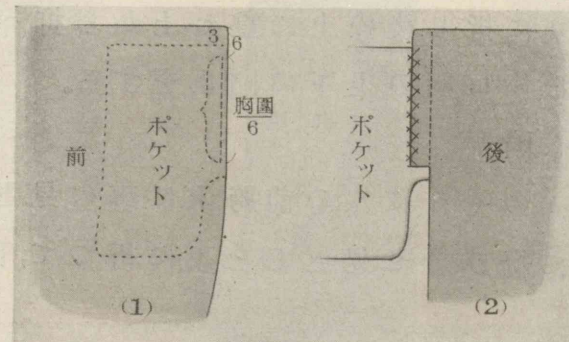
腰布 幅 8cm 丈 腰廻りだけ

釦 10個

三 仕立て方

① ポケット附

1. 隠布の一方の端を前脛見返しの裏に当て、見返



ポケットの縫ひ方

しと一緒に折つて表から(1)圖の如く口明にミシンをかける。

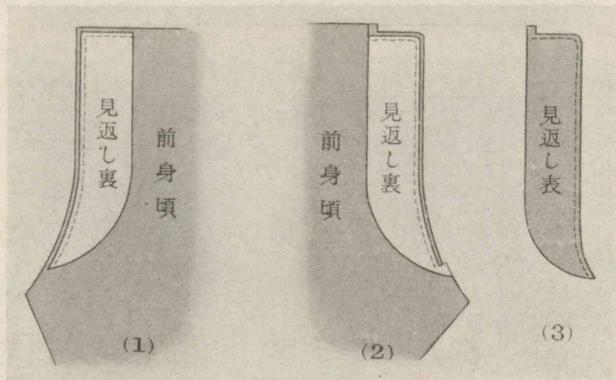
2.次にポケット布の他の一方を折り,(2)圖の如く後持出しの裏に當てて纏り付け,持出しの端は千鳥掛で抑へておく。

3.ポケットの底を袋縫にする。

②脇縫 前後の脇を合せて口明より下を縫ひ,前に折つて抑へミシンをかけ,次に口明より上は前を標通りに折り後の上に重ね,上から抑へミシンをかける。口明の上下に罫止をする。

③見返し附

1.下圖(1)のやうに左の前胯上に裏の見返し布を中表に縫ひ合せ,見返しを裏に折つて,下より上

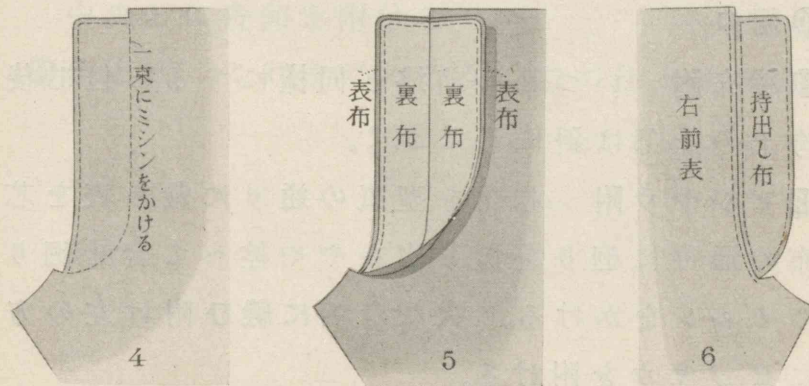


見返しの縫ひ方

部見返し幅のところまで,(2)圖の如くミシンをかける。

2.表裏の見返しを中表にして前と同様に縫ひ,表返して表布の方から(3)圖の如くミシンをかける。これは釦掛になるのである。

3.釦掛の裏布の方と前身の裏見返しとを合せて重ね敷で抑へておき,(4)圖の如く上り幅の標通りに四枚一束にミシンをかける。



見返し持出しの縫ひ方

④持出し附

1.持出しの表裏を合せ,附の方を残して外側を縫ひ,表返してミシンをかける。

2.持出しの表布一枚を右前胯上に縫ひ合せて縫目を割り,裏持出しをその上にのせ上圖の如く

縫目より左右へ、0.2 cm ほど離して表からミシンをかける。

⑤ 小脛 見返しより下の脛上を左右縫ひ合せて割る。

⑥ 後脛上 上部を 4 cm 残して縫ひ合せる。

⑦ 後の切り込の仕末

⑧ シツク附

⑨ 脛下

⑩ 裾口

⑪ 腰布附 いづれも前述と同様にする。但し後脛上の上部は斜にしておく。

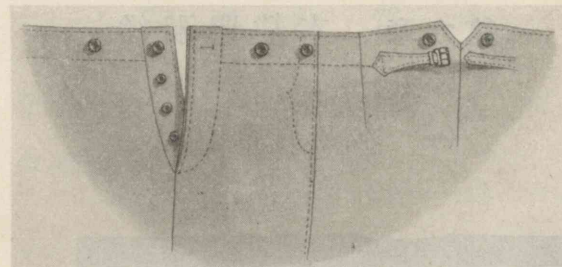
⑫ ビジャウ附 芯布を型紙の通りに裁ち、表を芯布の通りに廻りを折り、裏をやや控へて合せ、廻りにミシンをかける。次に身頃に縫ひ付け左の方にビジャウを付ける。

⑬ 穴膝り及び釦附

1. 左前バンドの中央に、見返しと一束に穴を明けて膝る。

2. 次にそれより下を四等分して釦掛に穴を明けて膝り、穴と穴との間は一針ずつ止めておく。

3. 持出しに釦を付ける。



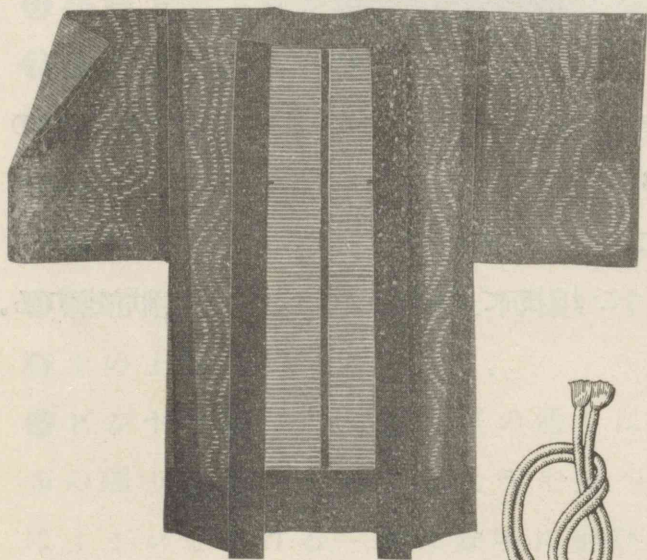
釦と穴の位置

4. ズボン吊りの釦をバンド幅の中央に後脛上の端より 3 cm 入つて一個、次に脇の縫目と前幅の中央とに各釦を付ける。

⑭ 仕上げ これまでのやうにして仕上げをする。

第六章 本裁單羽織

(一) 本裁男單羽織

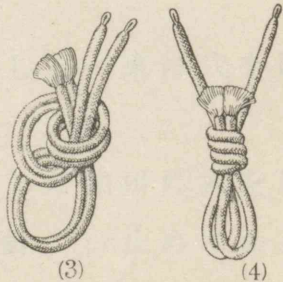
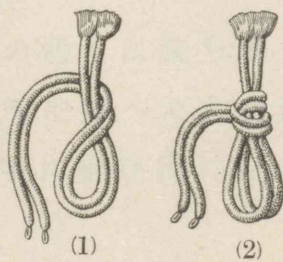


仕立て上り

一 種類

用布の長短によつて棒襠裁・鉤襠裁がある。

仕立て方には並仕立・總落しなどの別がある。



羽織紐の結び方順序

二 地質

絹布 平絹・紹紗・御召・透綾・^{もやし}緞紗など。袖 銘仙
 毛布 セル・羅紗など。

三 仕立て上げ寸法

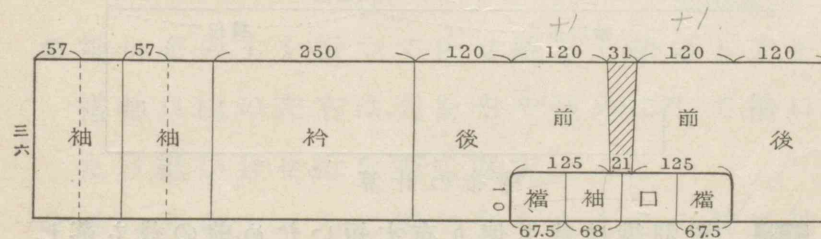
袷羽織と同様である。但し裾の返りは 10 cm 乃至 15 cm を普通とする。

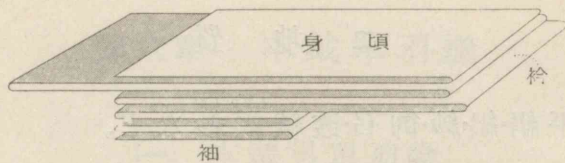
四 裁ち方(棒襠裁)

- ① 用布の總丈 並幅 950 cm - 1065 cm
- ② 布數 袷羽織の表布數に同じ。
- ③ 裁ち方 補布を入れ前丈を斜に裁ち、紐附を補布よりとる。故に積り方に於て袷羽織と相違がある。

④ 裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 989 cm





$$(袖口布 - 袖附 + 繰越 + 襷上の縫代) \times 2 = 補布$$

68 54 0.5 1 31

上り

$$(身丈 + 21) \times 2 = 衿丈$$

104 250

上り

$$21 = 衿肩明 + 繰越 \times 2 + 前下り + 衿先縫代 + 弛み$$

9 0.5 4 6 1

$$\{總丈 - (袖丈 \times 4 + 衿丈 + 補布)\} \div 4 = 後丈$$

989 57 250 31 120

$$後丈 + 繰越 = 脇丈$$

120 0.5 120.5

$$後丈 + 繰越 \times 2 + 前下り = 前丈$$

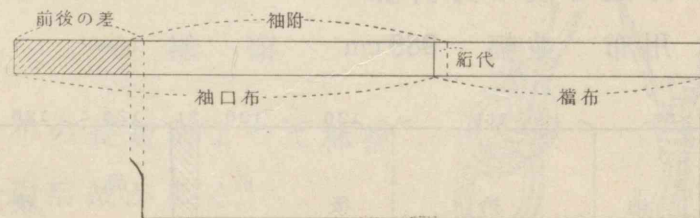
120 0.5 4 125

$$\{總丈 - (後丈 \times 4 + 衿丈 + 補布)\} \div 4 = 袖丈$$

989 120 250 31 57

$$(袖丈 + 後丈) \times 4 + 補布 + 衿丈 = 總丈$$

57 120 31 250 989



補布の計算

注意 單羽織は裁ち切り布丈短いため、前の裁ち落とし

のみでは袖口・襷布がとれぬ故に、補布を必要とする。

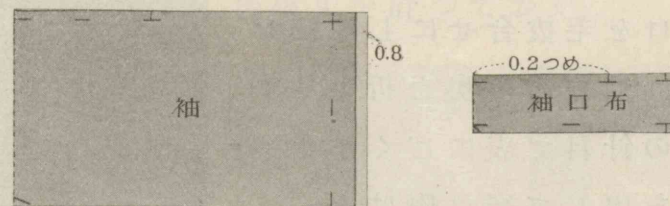
四 仕立て方

仕立て方順序

- ① 袖 ② 身頃及び襷標附 ③ 脊縫
- ④ 前襷附 ⑤ 衿附 ⑥ 後襷附
- ⑦ 裾紵 ⑧ 袖附 ⑨ 脇の仕末
- ⑩ 仕上げ

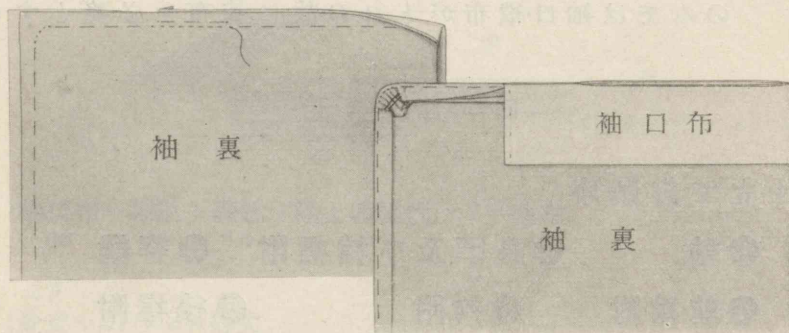
① 袖

1. 内袖を 0.8 cm 控へて中表に折り、四枚重ねて標し、別に袖口布を中表に二つに折つて口明丈を表より 0.2 cm つめて標す。



袖の標付け方

- 2. 袖口布の丈を折つて伏せ縫とし、衿のときと同様袖口山の左右は、表をやや弛めにして、袖口明だけ縫ひ合せ、折を表に返す。
- 3. 袖口明のところに四つ留をなし、その糸で袖下



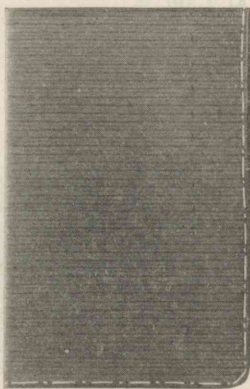
左袖の縫ひ方 (1)

同 (2)

まで縫ひ、袖口布の下を細針に縫つて縫目を開き、上圖(1)の如く袖の縫代に綴ぢ附ける。

4.丸みを整へ袖下で外袖の長い分を折つて拵け附ける。(地質によつては袋縫にする)

5.袖口を毛抜合せにして躰をかけ袖口布の奥を折り、1cm位の針目で表にごく小さく針を出して拵け附ける。

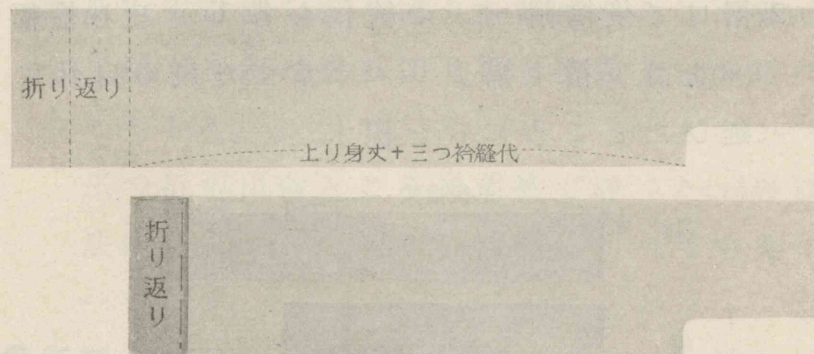


仕立て上り

② 身頃及び襠標附

1.後身頃

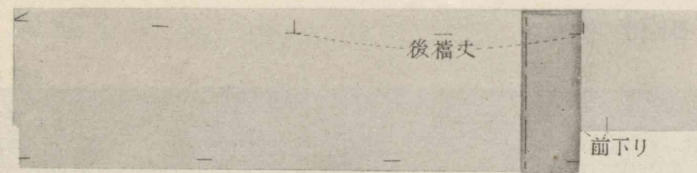
(1)中表に重ね肩を繰越して袷羽織と同様におく。まづ後の身丈を定め餘布の $\frac{1}{2}$ に0.2cmを加へて裾の折り返りを標し、三つ折にして



後身頃の標附け方 (1)

假躰をなす。

(2)後身頃を前身頃の上に折り重ね、下圖の如く山袖附・脊・肩幅・後幅の標をなす。次に後丈より0.2cm下つて前脇丈を標し、衿附の方で前下りを標し後襠丈を計つておく。

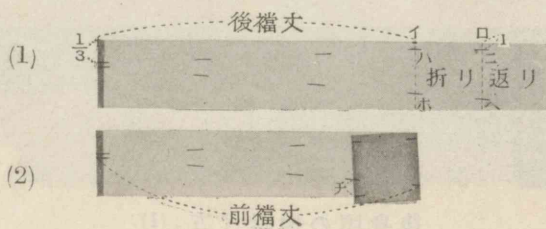


後身頃の標附け方 (2)

2.襠

(1)襠布の上部を細く三つ折拵にして左右を中表に重ね、襠丈を計り、裾の折山(イ)と折り返り(ロ)を標す。

(2) 裾口で後襦附(ホ)(ニ)の縫代を各1cmとし襦幅(ホ)を計り、襦上幅より(ホ)に當てた尺の自然に延びたところに(ヘ)を標す。

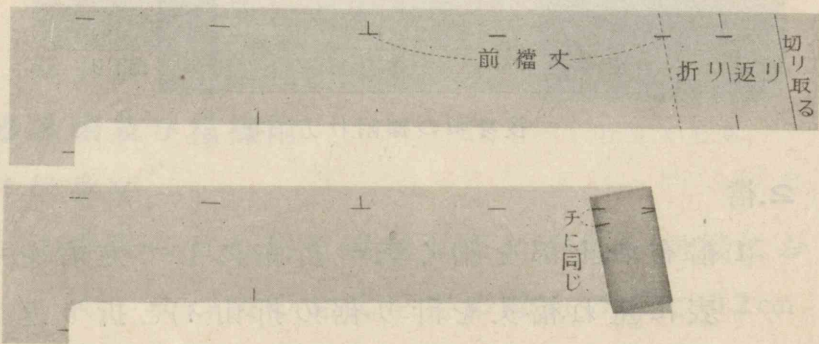


襦幅付け方

(3) 裾を三つ折にして折山で標を合せると(2)圖のやうになる。前の襦付け標の丈及び圖中(チ)の寸法を計る。

3. 前身頃

(1) 後身頃を開いて、前身頃に幅及び紐附の標を付ける。



前身頃の標付け方

(2) 襦附丈を標し、折り返りを後にならつて定めて、残布を斜に裁ち切り裾を標通り三つ折にしておく。

三つ折の山のところで前襦で計つた(チ)の寸法に等しく計り、裾山の幅標に向つて中央の一つ標す。

③ 脊縫 二重縫にする。二重縫の代りに端を耳紵の如く小針を両面に出し布の間を抄つて紵けてもよい。(三卷絹布單衣の章参照) 耳絲の色變りまたは、耳絲に鉄の入つたものは袋縫にする。

④ 前襦附 前襦を稍や張り目に前身頃に合せ、次に標通りに裾紵の中に入る部分を除き、山の一針先まで縫ひ、折を身頃の方に返し裾の三つ折を正して假躰をする。

⑤ 衿附

1. 紐附をつけ衿羽織と同様に衿を袋附にする。
2. 表裏衿先を縫ひ、裏に綴ぢ付けて表に返し、衿附で前に明けておいた(脊より左右に約20cm)ところを小針に紵け付ける。

⑥ 後襦附

1. 標を合せて襦附をなし、身頃の方に折を返す。

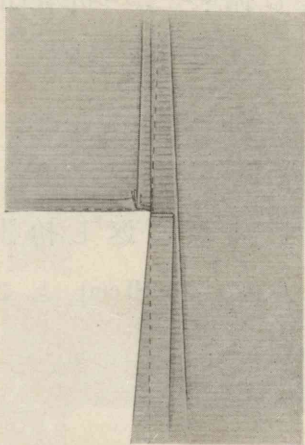
2. 前後とも襦の縫代を二つ折にして身頃の縫込に紵け付ける。

⑦ 裾紵 兩脇縫込の端を折つて、その上に裾の折り返りを平におき、約1cmの針目で各縫目では返し針に一針出して紵ける。

⑧ 袖附 單衣に同じ。

⑨ 脇の仕末

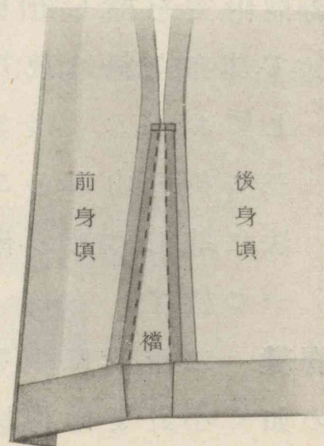
1. 脇縫込の端を折つてつれぬやうによく釣合をとり、一方の裾から肩を廻つて一方の裾まで約2cmの針目で紵け付ける。



袖縫ひ込の仕末

2. 袖の縫込の端を折つて同様に紵け付ける。或は袖下のところだけ左圖の如く綴ぢ付ける。

⑩ 仕上げ 袷羽織のやうに袷附に躰をかけて、烙鋏または火熨斗をかけて仕上げをする。



襦附及び裾の仕末

注意 (1) 表に糸の太く出ない様に、紵糸には羽二重糸または割糸を用ひる。

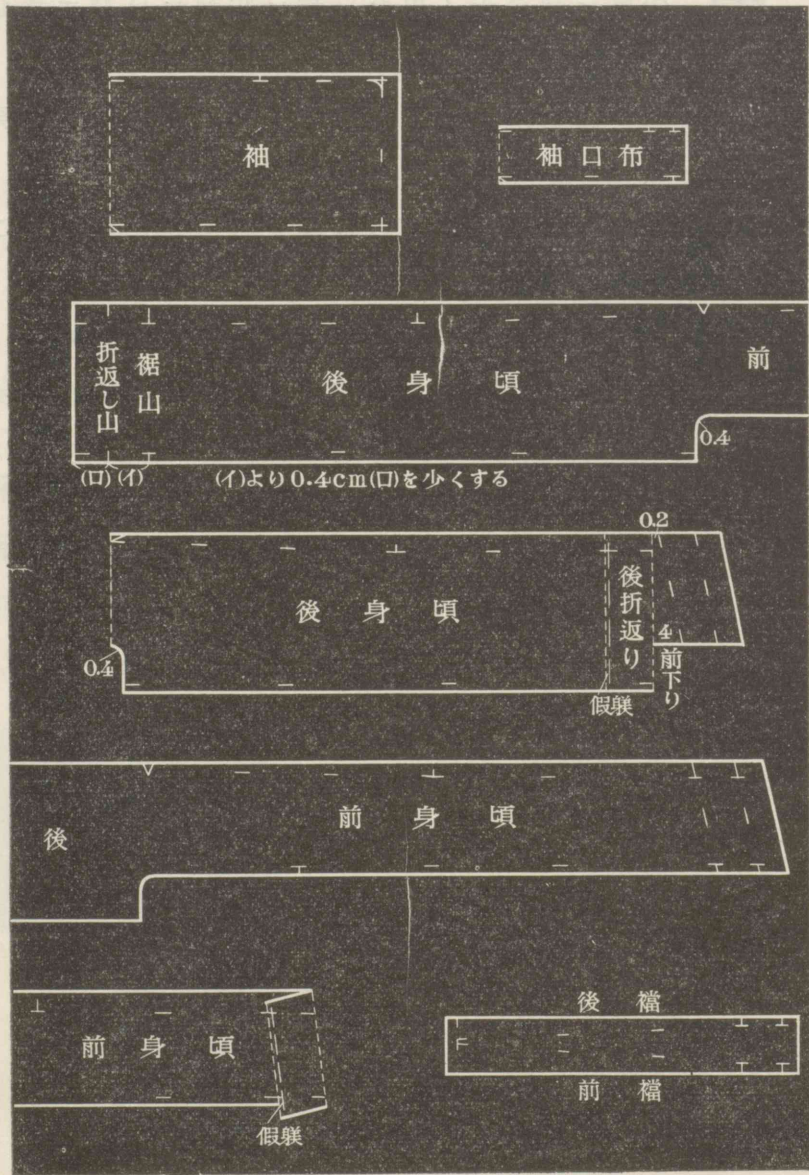
(2) 袷芯を綴ぢ付けるには、出来上つてから透いて見えぬ様に、芯布と同色の糸を用ひる。

(3) 脇の縫込の少ないものは端を折らずに、肩のところで前後5cm位づつ紵けておく。

(4) 黒いものは直接に火熨斗をあててはならぬ。

[問] (1) 男單羽織・棒襦裁に於て、用布 1010cm 上り袖丈 53cm 上り身丈 106cm、その他を普通寸法とすれば襦の補布は何程を要するか。

(2) 本裁男單羽織袖・身頃及び襦の標付け方を問ふ。(但し地質はセルの場合)



本裁男單羽織の標付け方綜合圖

(二) 本裁女單羽織

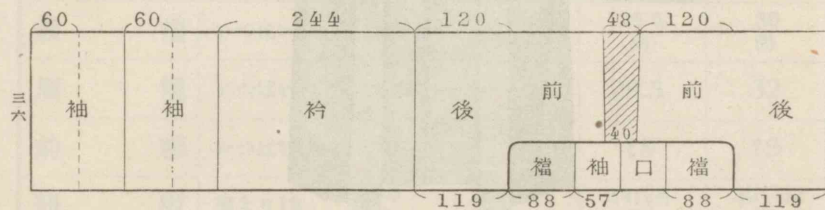
一 地質

紹紗・紹縮緬・絹縦縮・セルなど

二 裁ち方

裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 1012 cm

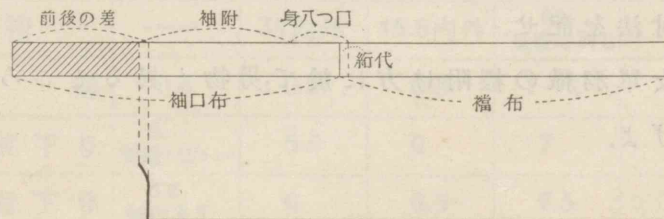


$$(\text{袖口布} - \text{袖附} - \text{身八つ口} + \text{繰越} + \text{襷上の縫代}) \times 2 = \text{補布}$$

$$57 \quad 25 \quad 10 \quad 1 \quad 1 \quad 48$$

$$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{補布} + \text{衿丈} = \text{總丈}$$

$$60 \quad 120 \quad 48 \quad 244 \quad 1012$$



補布の計算

四 仕立て方

襷上の幅を広くし、身八つ口を明け、袖の振を折衿にする外男單羽織に準じてする。



仕立て上り

[問] (1)用布1015cmにて、上り袖丈60cm上り身丈100cmの女單羽織を裁たんとす。裁ち方圖及び裁ち切り寸法を記せ。

(2)女單羽織の標付け方に於て、男物と異るところをあげよ。

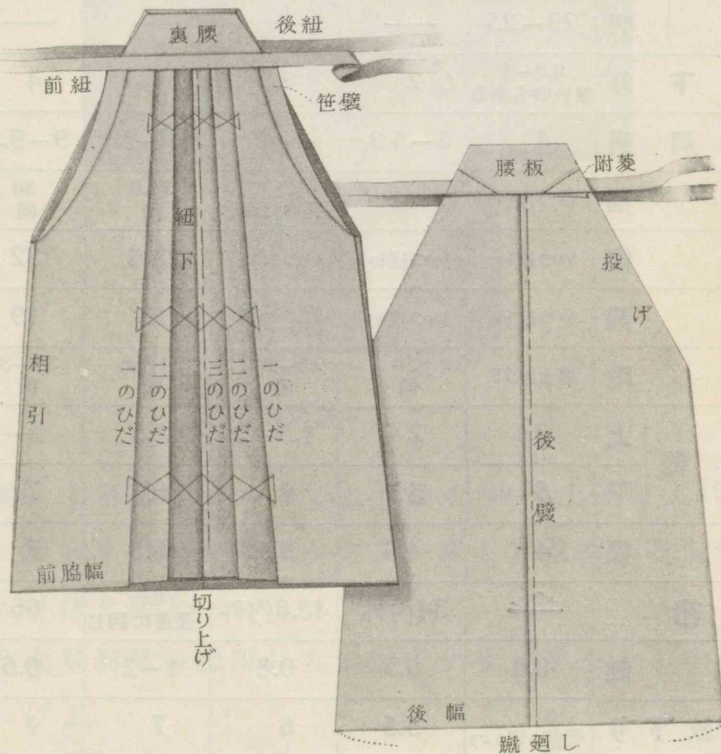
各種羽織普通仕立て上げ寸法表

名稱	種類	袖無羽織	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
袖	丈	—	50-53cm 長着と同纏	55-68cm 同	60cm 同	53cm
袖	口	—	13-15 長着と同纏	17-19	23	28-30
袖	附	—	15.5 長着+.5	17.5 同	23.5-25.5 同	全體
袖	幅	—	25.5 長着+0.5	27.5 同	32.5 同	34
身	丈	55内外	60-65	85 長着-10内外	95-100 着丈× $\frac{3}{4}$ +4	102-106 同
身	八つ口	—	8	8	10	—
脇	明	23-25	—	—	—	—
前	下り	0.8-1 無いのもある	2	2.5	3-4	4
衿	肩明	4	5-5.3	6-7	9.2-9.5	9-9.5
後	幅	いっはい	いっはい	25 長着に同じ	28.5 同	30 同
肩	幅	いっはい	いっはい	いっはい	29.5	32
前	幅	いっはい	いっはい	いっはい (15-17)	18	19
紐	附	肩より19	20 同	25-27 同	34内外 同	30-32 同
襷	幅	上	3.5	2	1.5-2	1.5
	下	5	5	6	6.5	7
衿	幅	4	4.5	5.5	6.5	7
衿	衿	—	34内外	45.6内外	62 長着に同じ	66
繰	越	0.5	0.5	0.8	1-2	0.5
脊	紋下り	5 背裁ち切りより	5.5	6	7	7
袖	紋下り	5.5 袖山より	6	6.5	7.5	7.5
抱	紋下り	10 肩より	11	13	15	15

第七章 本裁男襦無袴

本裁男袴には襠有・襠無があるが、現今は襠無(行燈袴)が實用視されてゐる。

一 各部の名稱



本裁男襦無袴の各部名稱

二 地質

セル・サー・ジ・アルパカ・薄地羅紗・絹紬など (行燈袴の地質)

三 仕立て上げ寸法及び割り出し方

各部名稱	普通寸法	寸法割出し方
紐 下	83 cm	着丈 $\times \frac{6}{10}$
相 引	55	紐下 $\times \frac{2}{3}$
後 幅	30	着物の後幅
後 重 り	3	後幅 $\times \frac{1}{10}$
腰 幅	24.5	後幅 $\times \frac{3}{4} + 2$
腰 板 幅	上 16.3 下 24.5	上 腰幅 $\times \frac{2}{3}$ 下 腰幅と同幅
腰板の高さ	8.5-9	腰幅 $\times \frac{1}{3} + .4 - .8$
附 菱 幅	8.2	腰幅 $\times \frac{1}{3}$
附菱の高さ	5 <small>斜=11.79cm</small>	腰板の高さ $\times \frac{1}{2} + .8$
前 脇 幅	18	後幅 $\times \frac{3}{5}$
前紐附幅	30	後 幅
寄せ襷幅	上 3 下 6	上 後幅 $\times \frac{1}{10}$ 下 後幅 $\times \frac{1}{5}$
笹 襷 幅	4.5	脇幅 $\times \frac{1}{4}$
前 紐	幅丈 2.6-3 300	
後 紐	幅丈 2.6-3 76X2	

四 裁ち方

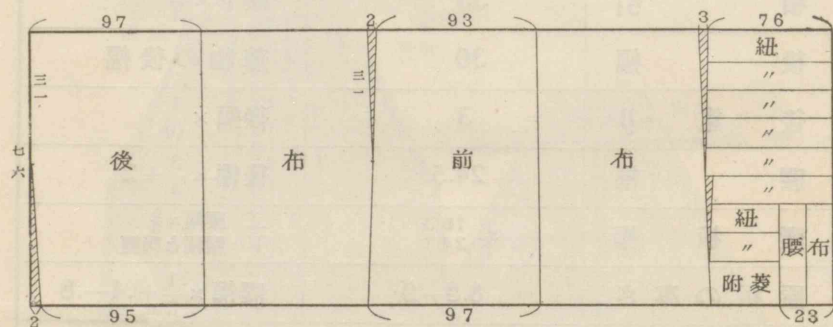
① 各部の布數

後布 二枚 (76 cm 幅) 前布 二枚 (76 cm 幅)

腰布 二枚 附菱 二枚 前後紐布

② 裁ち方圖と積り方計算

用布 幅 76 cm 丈 461 cm



裾口の切り上げ 後 2 cm 前 4 cm

裁ち違へ { 前切り上げ 4 cm - 無駄布 2 cm = 2 cm
 3 { 前切り上げ 4 cm - 無駄布 3 cm = 1 cm

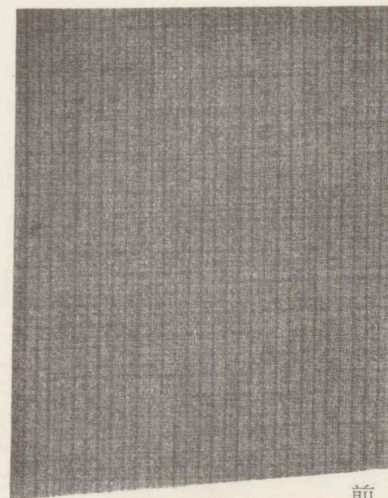
$$\frac{(\text{總丈} - \text{紐丈} + \text{裁ち違へ})}{\text{布數}} = \text{後丈裁ち切り丈}$$

$$\frac{461 - 76 + 3}{4} = 97$$

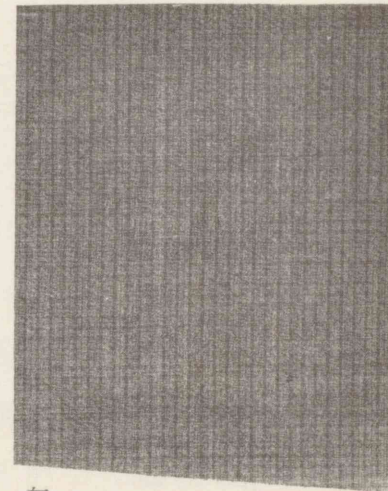
五 仕立て方

綿布・絹布及び地薄のセル羅紗などは串縫にして

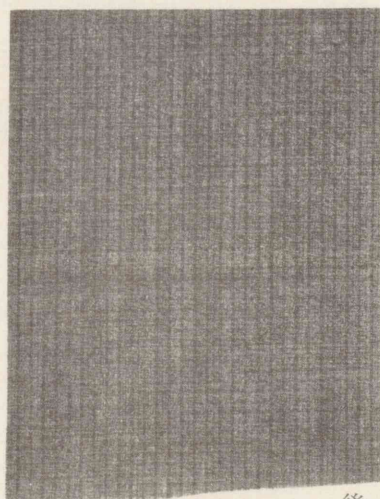
行燈袴の附菱は4角の布を使ふ。



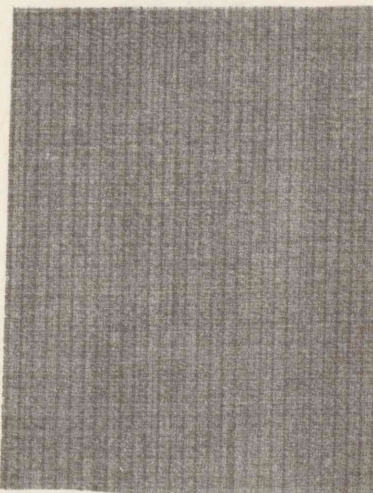
前



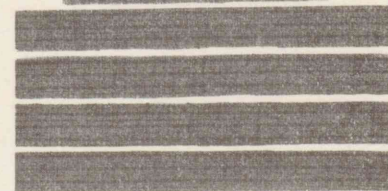
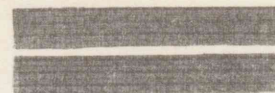
布



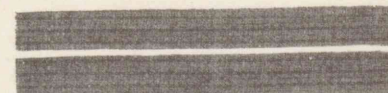
後



布



前紐



後紐



附菱



腰布

改現裁 (四) 八四—八五 4

本裁男襦無袴の布數

差支へないが、少し地厚のセル羅紗などは半返しにして縫目を開き、普通紬けるところは纏る。

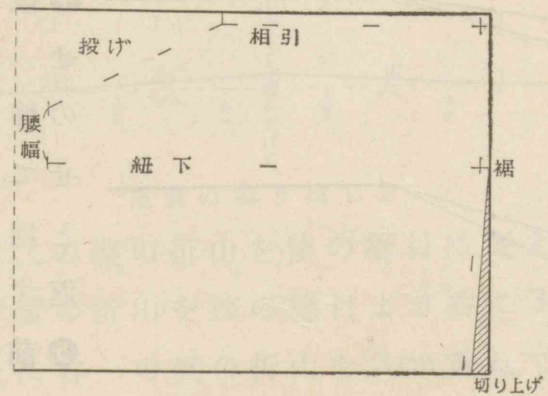
仕立て方順序

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| ① 後布標附 | ② 前布標附 | ③ 投げ |
| ④ 後布懐縫ひ合せ | ⑤ 前布懐縫ひ合せ | |
| ⑥ 裾紬 | ⑦ 後襷取り | ⑧ 前襷取り |
| ⑨ 相引 | ⑩ 笹襷 | ⑪ 紐紬 |
| ⑫ 前紐附 | ⑬ 腰立 | ⑭ 仕上げ |

① 後布標附

標附順序

- | | | |
|-------|------|--------|
| ① 裾紬代 | ② 相引 | ③ 相引縫代 |
| ④ 後丈 | ⑤ 後幅 | ⑥ 腰幅 |
| ⑦ 投げ | | |



後布標附け方

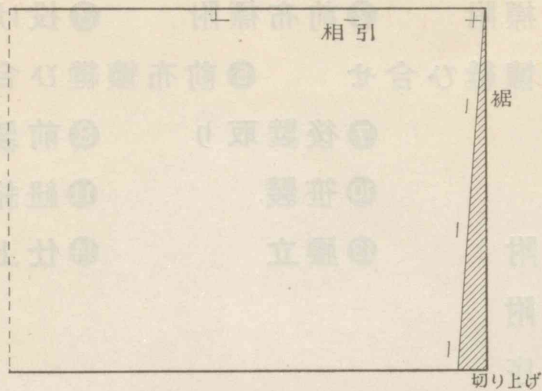
② 前布標附

標附順序

① 裾紵代

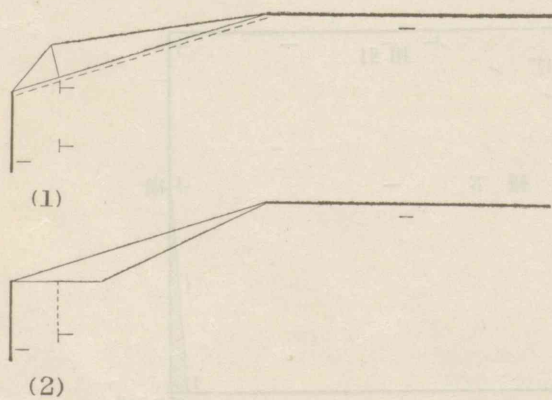
② 相引

③ 相引縫代



前布標附け方

③ 投げ 布を伸ばさぬやうに注意して下圖の如く三つ折にして2cm位の針目で紵ける。



投げの折り方

④ 後懐縫ひ合せ 左右後布の懐を縫ひ合せて、折は脊縫と同じ方向に返す。

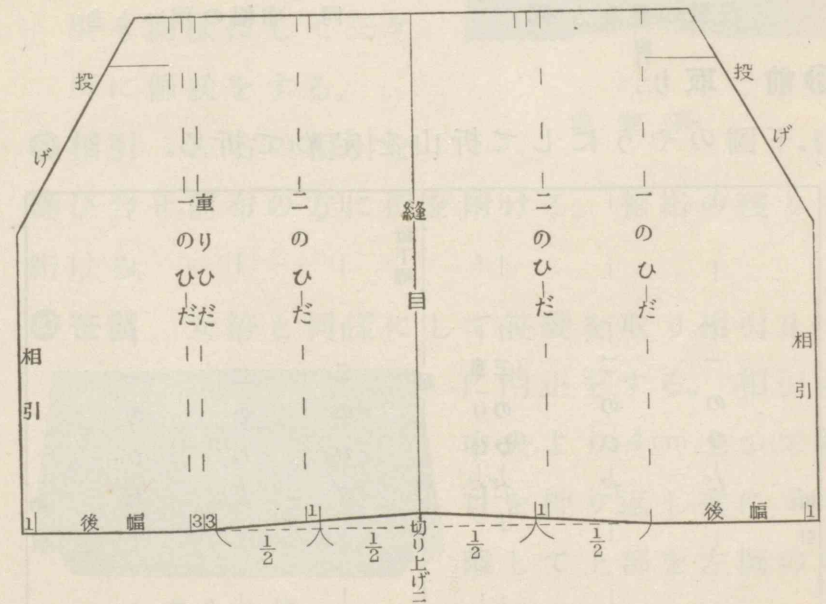
⑤ 前懐縫ひ合せ 左右前布

の懐を縫ひ合せ、折は後と同様に返す。

⑥ 裾紵 前後の裾口を標通り三つ折にして纏るか、または紵けてもよい。但し前後とも相引より、10cmの間は紵け残しておく。

⑦ 後襷取り

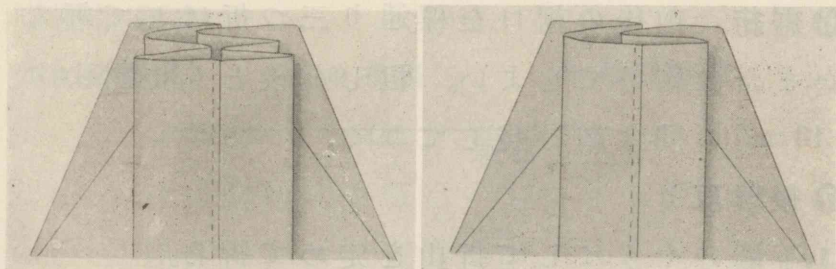
1. 下圖のやうにして折山を定めて折る。



後襷の割り出し方

2. 左右共二の襷の折山を懐の縫目に突き合わせる。
3. 左一の襷の折山を懐の縫目より右に3cm出し、その上に右一の襷の折山を3cm重ねて位置を定め、躰で抑へておく。(次頁左圖)

注意 布幅の狭いときは一の襷のみにする。(下圖右)

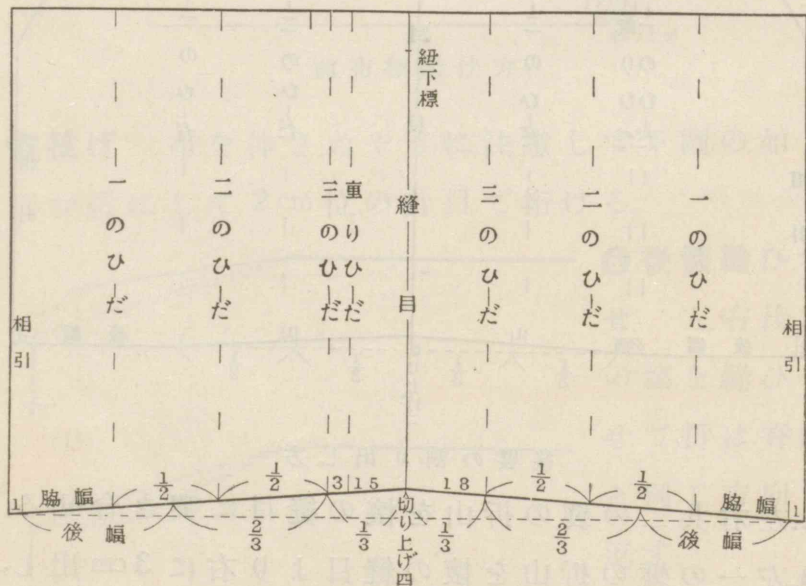


後襷の畳み方(裏)

同一布幅の狭いとき

⑧ 前 取

1. 下圖のやうにして折山を定めて折る。

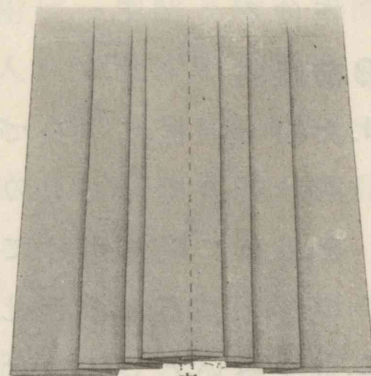


前襷の割り出し方

2. 左重り襷の折山を懐の縫目(中央)より右に重ね

代 3cm を出し右三の襷の折山をその上に 3cm 重ねておく。

3. 二の襷の折山を、三の襷より寄襷幅だけ離して位置を定め、一の襷も同様にして三ヶ所に飾躰をする。

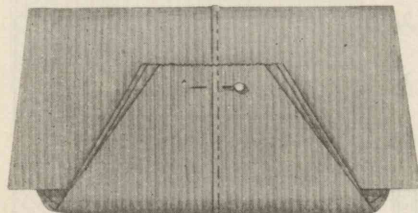


前襷(裏)

⑨ 相引 左右の相引を

縫ひ合せ、前布の方に折を付ける。裾紵の残りを紵ける。

⑩ 笹襷 女袴と同様にして笹襷を取り、相引止りに閉止をする。相引の中央より 4cm 上つて裾口を折り返し、次に 2cm 離して上部を左圖の如く折り、壓をしておく。



畳み上げ

⑪ 紐紵

1. 前紐は斜に接ぎ合せ、女袴と同様に芯布を入れて紵ける。
2. 後紐は一方の端を 6cm ほど残し、芯布を入れて

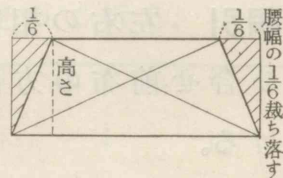
締める。

⑫ 前紐附

1. 女物と同様に中央で 0.8 cm 下げて少し丸みを付け、紙の揉んだもの二枚 (幅…紐幅 $\times 2 +$ 縫代) を紐布に綴ち付けておき、締め山より 0.3 cm 入ったところを、半返して縫ひ付ける。
2. 布の薄いところには小布を入れ、全体の厚さを平均して細かく紐を締める。

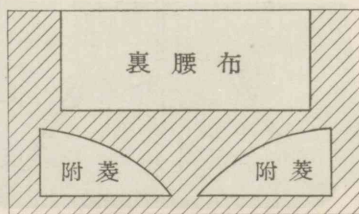
⑬ 腰立

1. 腰板紙 板目紙を割り出し寸法によつて裁つ。上部を丸く落す場合もある。



腰板の割り出し方

2. 裏打 半紙をよくもみ、烙鏝にて伸し裏腰布と附菱の裏に 0.5 cm 位の深さに糊を付けて右圖のやうに貼る。

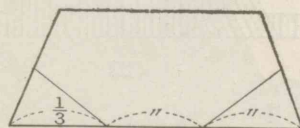


裏腰の貼り方

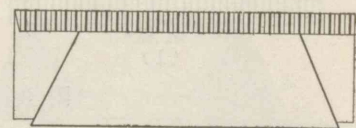
3. 表腰

- (1) 表腰布と腰板紙との中央に標をする。
- (2) 腰板の裏の上部に 0.8 cm の深さに糊を付けて、表腰布を貼り付けて腰布を折り返す。

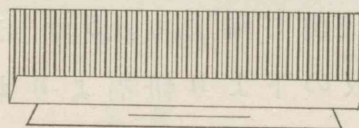
- (3) 腰板の表下部に糊を付け、一度貼り付け更に 0.3 cm 開いて紙捻を入れて裏に貼り付ける。(紙捻は半紙を 2.5 cm の幅に切つて堅く捻り 10 cm の長さに切る。) この際左右の縞目を揃へ、折目の曲らぬやう注意する。
- (4) 下の端より 1.5 cm 位上つたところの、両端に切り込を入れ、腰布の横を裏の方に折り返して貼り付ける。



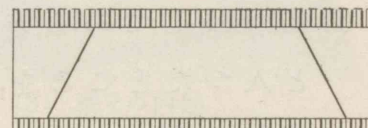
附菱の割り出し方



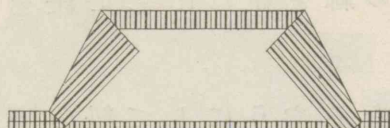
(1) 腰布の上端を腰板へ貼附ける



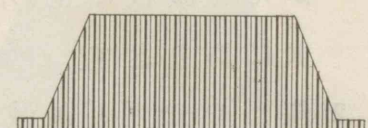
(2) 紙捻りを貼る



(3) 下へ紙捻りを入れて貼附ける



(4) 両端に切込みを入れて左右を貼る

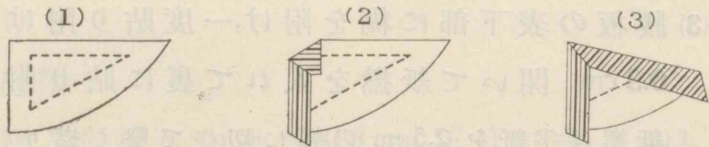


(5)

表腰の貼り方

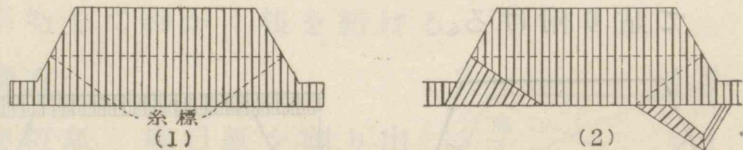
4. 附菱

- (1) 左右の附菱を次頁圖の如く正しく折る。



附菱の折り方

(2) 表腰に下圖(左)の如く糸で附菱の位置を標しておき、左右の附菱をこれに合せ下方の折り返りの分を腰板の裏に貼り付ける。(下圖右)

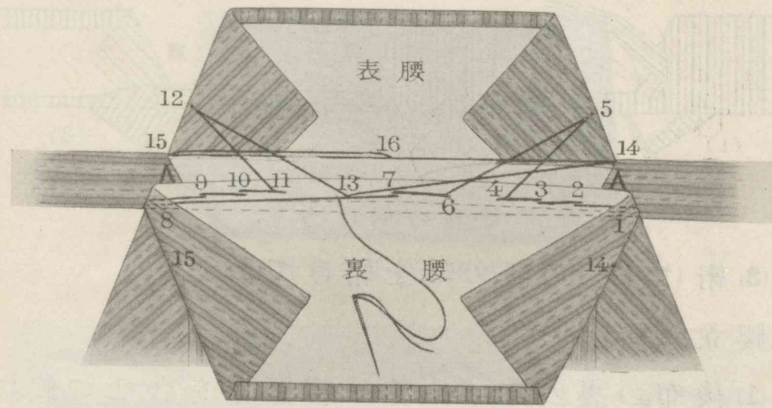


附菱の付け方

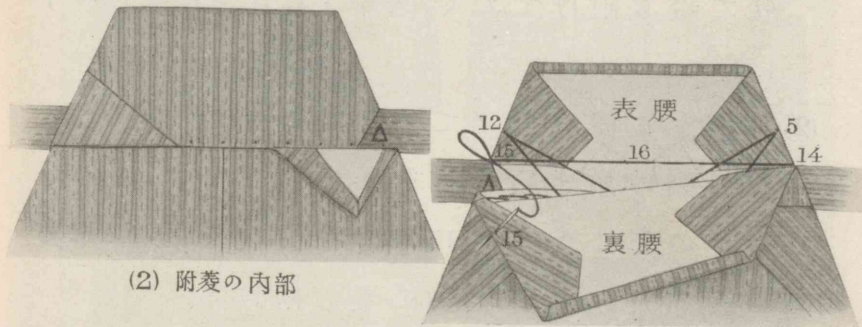
5. 後紐附

(1) 締め残してある方の紐山で端より 1.5cm ほど入ったところを、腰板の下より紐幅よりも 0.2cm 少ないところに當てて、二本の撚糸でかたく腰板に止め、その糸を紐に出して紐を表に折り返す。

(2) 紐がやや下り加減になるやうにして、紐の表側で表腰の縫込をくるみ、裏の方は紐の締代を少し深く折つて、紐と腰布とを一束に、三角に糸を出して堅く止めておく。(94 頁圖 2・3)

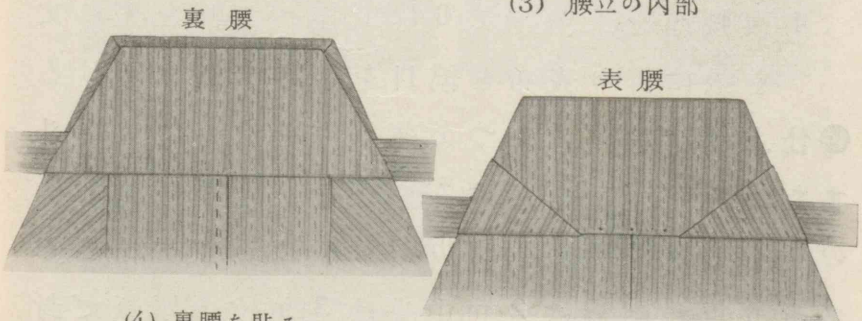


(1) 腰立絲のかけ方順序



(2) 附菱の内部

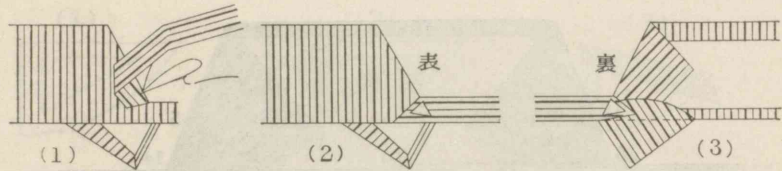
(3) 腰立の内部



(4) 裏腰を貼る

(5) 腰立出来上り

腰立の仕方



後紐の付け方

(3) 締め残しの紐の端を締めておく。

6. 腰立

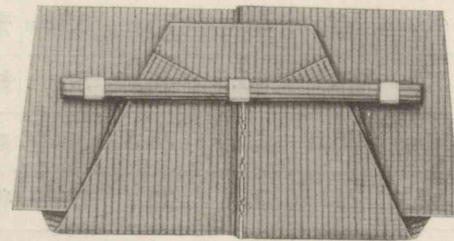
(1) 後布の裏の方で丈標に裏腰布を合せて、假に
襷で綴ぢ付けておく。(表腰と縞目を合わせるやう
にしておく)

(2) 腰紙を丈標に合せて確と待針を打つ。

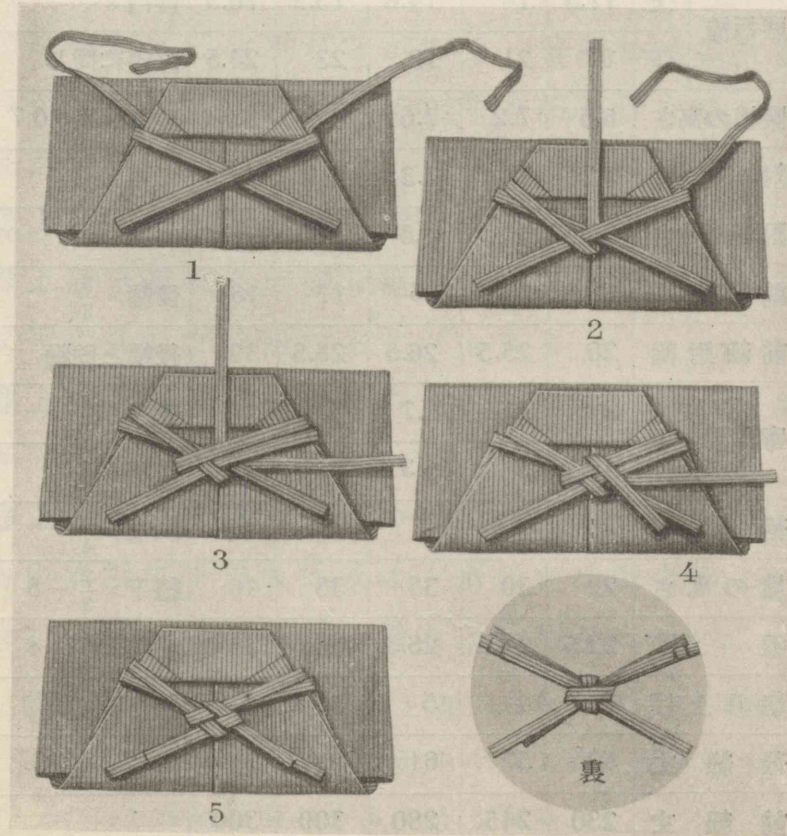
(3) 次頁圖の如き順で糸をかける。(5)(12)の針は
附菱の先にかへ、(14)(15)の針は腰紙を通して、表
裏の腰布及び附菱と共に綴ぢ付ける。

(4) 裏腰布を上の方で 0.4cm 控へて幅を先に丈
を次に折り、表布と縞目を合せて貼り付ける。

⑭ 仕上げ 地質によつて薄く霧を吹いて火熨斗
またはアイロンをかける。丈を三つに折り、前後
の紐を揃へて前紐附より 10cm ほど左右に出し
て折り重ね、両端は 2cm、中央は 3cm 位の厚紙で封
じておく。



仕立て上り (束封)



袴紐の疊み方

男袴普通仕立て上げ寸法表

名称	年齢	五・六歳	八・九歳	十二・三歳	十五・六歳	大人	割り出し方
紐 下		48cm	58cm	66cm	75cm	83cm	着丈 $\times \frac{6}{10}$
相 引		32	40	45.5	49	55	紐下 $\times \frac{2}{3}$
後 幅		20	25.5	26.5	28.5	30	着物の後幅に同じ
腰 幅		17	21	22	23	24.5	後幅 $\times \frac{3}{4} + 2$
後 重り		2	2.5	2.7	2.9	3	後幅 $\times \frac{1}{10}$
腰板幅	上	11.5	14	14.6	15.2	16.3	腰幅 $\times \frac{2}{3}$
	下	17	21	22	23	24.5	腰幅に同じ
腰板の高さ		6.5	7.2	7.6	8	8.6	腰幅 $\times \frac{1}{3} + 0.7$
附 菱 幅		5.7	7	7.3	8	8.2	腰幅 $\times \frac{1}{3}$
附菱の高さ		3.5	4	4.5	5	5	腰板の高さ $\times \frac{1}{2} + 0.8$
前 脇 幅		12.5	15	16	17	18	後幅 $\times \frac{3}{5}$
前紐附幅		20	25.5	26.5	28.5	30	後幅と同様
寄裳幅	上	2	2.5	2.7	2.9	3	後幅 $\times \frac{1}{10}$
	下	4	5	5.3	5.7	6	後幅 $\times \frac{1}{5}$
笹 裳 幅		3	3.5	4	4.5	4.5	脇幅 $\times \frac{1}{4}$
襠 の 高 さ		22	30	35	38	46	紐下 $\times \frac{2}{3} - 8$
乗 間		22.5	24.5	28.5	30	38	紐下 $\times \frac{2}{5} + 4$
切り上げ		3	4	5	5.3	6	紐下 $\times \frac{7}{100}$
後 紐 丈		53	57	61	65	76	
前 紐 丈		230	245	280	300	300	
紐 幅		2	2.5	2.6	3	3	

第八章 小袖重ね

小袖重ねとは表裏とも絹布で仕立てた袷綿入の長着の重ねである。

一 種 類

二枚重ねと三枚重ねとがある。普通には二枚重ねが用ひられてゐる。また次の如く仕立て方に種々ある。

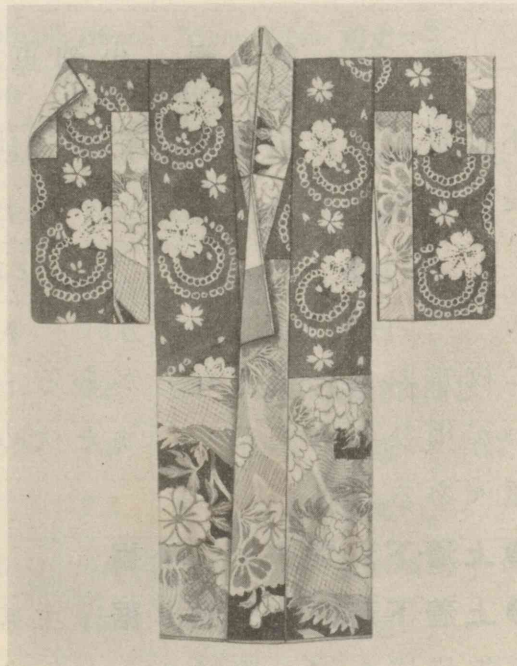
- ① 上着・下着別布で變り裾
- ② 上着・下着共布で變り裾 主に訪問服などで縫紋・裾模様などを付けることもある。
- ③ 上着・下着共布で無垢のもの (無垢とは表地と同布の裾廻しを附けたものをいふ)
- ④ 上着・下着別布で無垢のもの 上着が黒或は色物の無垢で、下着は白或は上着の色に配合のよい淡色の無地、或はぼかし染などを用ひたもの。

注意 (1)重ねの裾廻しは上着・下着共に、同じものを用ひるのが普通であるが、現在は上着を變り裾にして、下着を無垢にすることもある。

(2)下着の表は通し、または胴抜にする。

ニ 地 質

- ①表地 御召縮緬・羽二重・絲織・太織・斜子風通錦紗・大島紬・シヤルムーズ・ミラネーゼなど
- ②裏地 秩父絹・紅絹・白絹・羽二重
- ③胴拔 板締絹・絞羽二重など
- ④裾廻し 變り裾は色絹・縮緬・羽二重・紬など



胴拔下着

三 色 合 (式服)

- ①上着 黒または色物を用ひる。吉服には染抜の紋で模様が付き、喪服は黒地に紋附て模様は附けない。
- ②下着 白を普通とするが、若い人の訪問服などは水色・時色などの淡色を用ひることもある。喪服の場合は白に限る。

外出着



訪問服

式服

改現裁(四) 次一丸五終

小袖の種類

四 模 様

①種類 時代によつて變遷があるが、現今行はれてゐる模様には次のやうな種類がある。

1. 江戸褌模様 衽より前身頃にかけて模様のあるもので、年齢によつて模様の高さを違へる。(後身頃まで模様のあるものは大江戸褌といふ)
2. 裾模様 衽前後の裾に模様のあるもので、多く若い人に用ひられる。
3. 腰模様 腰より以下衽前後の裾に高く模様がある。即ち裾模様を派手にしたもので、袖にも模様を付ける。
4. 胸模様(千代田模様) 裾の方は江戸褌の如く袖下及び胸袖山の邊にも模様のあるもの。
5. 總模様 袖身頃の全體に模様のあるもので、本式は紋無しであるが、紋を付けることもある。
6. 曙模様 腰部より下をぼかし、模様にしたもの。
7. 熨斗目模様 男子用のもので腰及び袖と同じ高さに、模様のあるもの。

この外にも褌先模様・片褌模様・襷模様・飛模様などがある。以上の模様は大抵五つ紋を付ける。



裾模様

曙模様

片褌模様

江戸褌模様

大江戸褌模様

襷模様

熨斗目模様

褌先模様

模様の種類

②仕立て方 模様ものはまづ模様を合せることを主とする。

1.縫目でよく合はぬときは、多少地直しなどをして合せる。

2.各部分の合せ方

- (1) 袖の模様は袖口下で合せる。
- (2) 前身頃と衿との模様を合せる。
- (3) 脇にも模様あるものは、脇にて前後の模様を合せて、後幅の標を附ける。
- (4) 胸に模様のあるものは、共衿で衿下り及び衿の縫目の模様の合ふやうにする。
- (5) 裏堅褌の模様が表衿の模様と同様のときは衿下で合せる。
- (6) 裾の合せ目に模様のあるときは、表と出衦との模様が續くやうにする。
- (7) 曙模様ときは各縫目で曙の位置の揃ふやうにする。

注意 大きな模様または曙のときは、縫糸をそれと同一色のに使ひ分ける。

五 紋

①紋の數 一つ紋・三つ紋五つ紋がある。

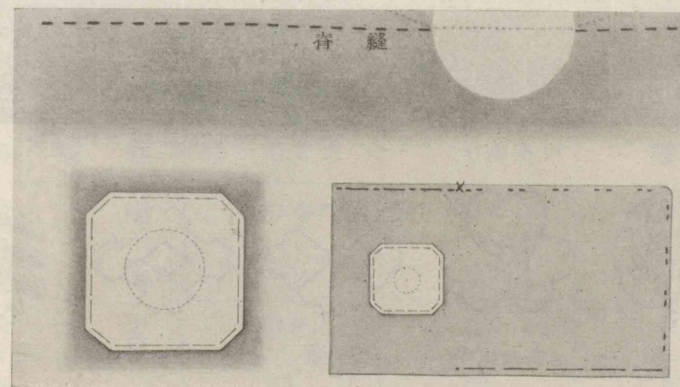
②種類 染抜紋・切附紋・縫紋(日向・陰・毛縁)絞紋など。

③位置 次の通りである。

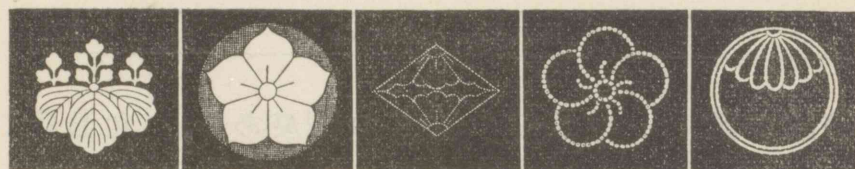
名 稱	種 類	本 裁	四つ身	三つ身	一つ身
脊 紋	(脊の裁ち切りから)	7 cm	6 cm	5.5 cm	5 cm
袖 紋	(袖山から)	7.5	6.5	6	5.5
前 紋	(肩山から)	15	13	11.5	10

④縫ひ方

- 1.まづ左身頃の紋の合せ代を、軽く折つて右紋の上に重ね、紋をよく合せ布のずれぬやうに待針で止める。また布の端にごく少し糊を付けて、合せることもある。
- 2.紋の部分を羽二重糸で、被のかゝらぬやうに半



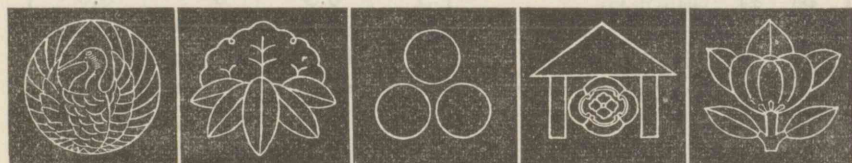
紋の合せ方



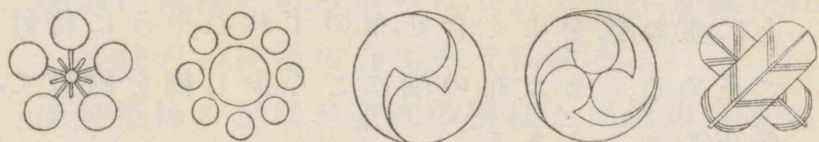
染抜紋 切附紋 縫紋 絞紋 毛縁紋



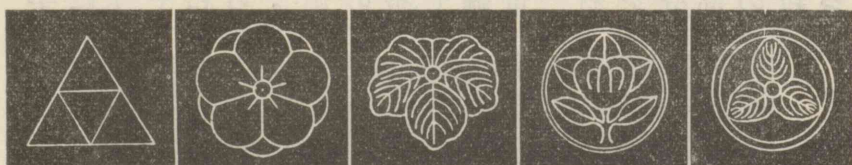
四つ目 下り藤 上り藤 櫻 菊水



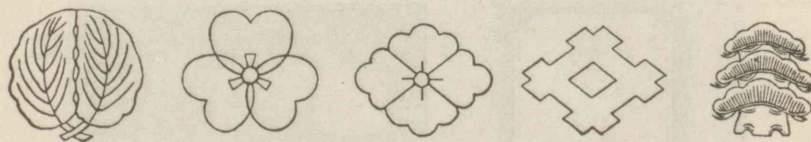
鶴の丸 笹の雪 三つ星 いほり木瓜 橘



梅鉢 九曜星 二つ巴 三つ巴 鷹の羽



三つ鱗 八重梅 つた 絲輪に橘 丸に三つ柏



抱柏 かたばみ 花菱 井桁 三蓋松

紋 (陰紋と陽紋)

返しで縫ふ。始めと終りは前頁圖の如く、斜に縫ひ出しておく。

3. 紋の左右で被代だけ、縫代を自然に曲げて脊縫をする。

注意 (1) 紋の部分は紋の色に合った縫糸を用ひる。

(2) 縫ひ終つたならばよごれを防ぐために、101 頁圖の如く白紙で覆つておく。

六 下着寸法をつめ方

種類 名稱	女物		男物
	裕	綿入	綿入
袖丈	0.6cm - 0.8cm	1cm	1cm
袖口	同	同	同
袖附	0.5	0.5	0.8
袖幅	0.4	0.4	0.4 0.8(人形の間)
身丈	0.2	0.4	0.4
衿肩明	0.4	0.4	0.4
後幅	0.4	0.4	0.4
前幅	0.6	0.8	0.8
衿丈	0.8	0.8	0.8
衿	同	同	同

以上の外は上着の寸法と同じにする。

注意 (1)寸法のとめ方は地質によつて加減せねばならぬ 例へば上着が縮緬で下着が羽二重のときは、反対に下着の丈を上着より長くするのである。
 (2)三枚重ねの場合は、中着を普通寸法にして、上着・下着の寸法を増減する。

七 裁ち方

① 變り下着・變り裾の裁ち方

1.上着は普通の長着と同様に裁つ。

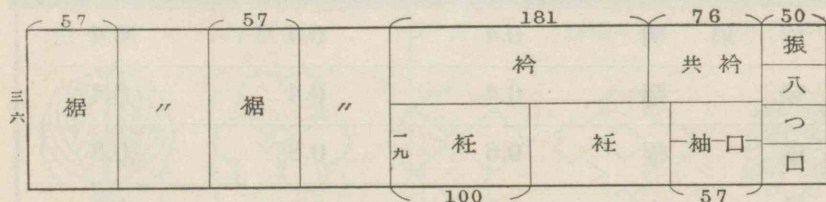
2.下着表廻りの裁ち方

(1)各部の布數

裾 四枚 衿 二枚 衿 一枚
 共衿 一枚 袖口 二枚 振布 四枚

(2)裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 535 cm (約半反)



$$\text{裾丈} \times 4 + \text{衿丈} \times 2 + \text{袖口布丈} + \text{振八つ丈} = \text{總丈}$$

$$57 \quad 100 \quad 57 \quad 50 \quad 535$$

注意 下着表廻りの振布は、半幅で取ることもある。

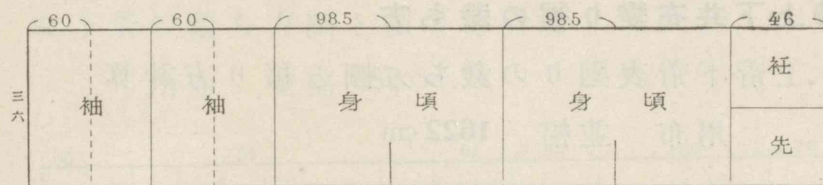
3.下着・表胴の裁ち方

(1)各部の布數

袖 二枚 身頃 二枚 衿先 二枚

(2)裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 680 cm

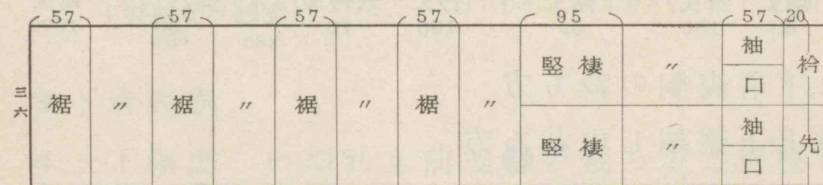


$$(\text{袖丈} + \text{身丈}) \times 4 + \text{衿先丈} = \text{總丈}$$

$$60 \quad 98.5 \quad 46 \quad 680$$

4.裾廻し裁ち方圖と積り方計算(二枚分)

用布 並幅 743 cm



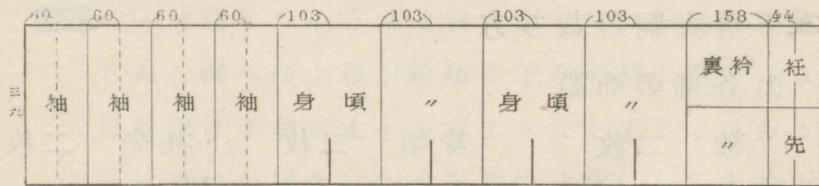
$$\text{裾丈} \times 8 + (\text{衿先} + \text{衿}) \times 2 + \text{袖口丈} = \text{裾廻總丈}$$

$$57 \quad 95 \quad 20 \quad 57 \quad 743$$

[問] (1)裾廻しの布數を擧げよ。

5.奥裏の裁ち方圖と積り方計算(二枚分)

用布 並幅 1550 cm



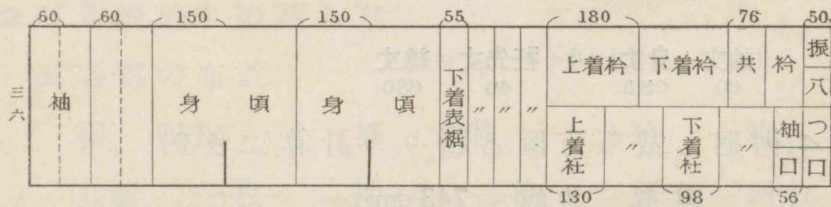
$$(袖丈 + 身丈) \times 8 + 裏衿丈 + 衿先丈 \times 2 = 總丈$$

60 103 158 44 1550

② 上下共布變り裾の裁ち方

1. 上着・下着表廻りの裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 1622 cm



$$(袖丈 + 身丈) \times 4 + 裾丈 \times 4 + (衿丈 + 共衿丈) \times 2 + 振八つ丈 = 總丈$$

60 150 55 180 76 50 1622

2. 下着表胴の裁ち方

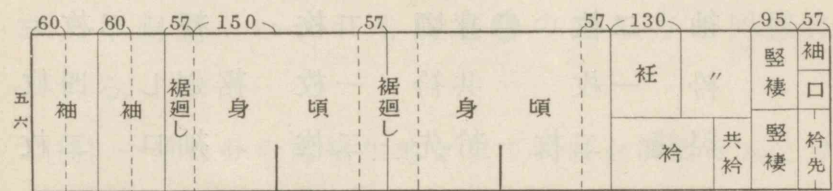
3. 上下裾廻しの裁ち方

4. 上下奥裏の裁ち方 いづれも前述①の裁ち方と同様にする。

③ 上下別布無垢の裁ち方

1. 上着の裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 1480 cm

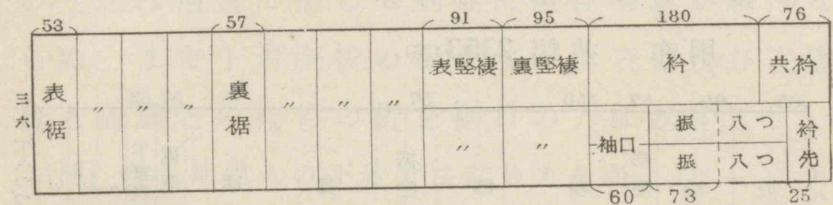


$$(袖丈 + 身丈 + 裾丈) \times 4 + 衿丈 \times 2 + 豎襷丈 + 袖口丈 = 總丈$$

60 150 57 57 130 95 57 1480

2. 下着の裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 882 cm



$$表裾丈 + 裏裾丈 \times 4 + 表豎襷丈 + 裏豎襷丈 + 衿丈 + 共衿丈 = 總丈$$

53 57 91 95 180 76 882

3. 下着表胴

4. 上下胴裏 いづれも前述①の裁ち方と同様にする。

④ 上下共布無垢の裁ち方

1. 上着・下着表の裁ち方

(1) 各部の布數

上着

袖 二枚 身頃 二枚 衿 二枚
 衿 一枚 共衿 一枚 裾廻し 四枚
 縦裓 二枚 衿先 二枚 袖口 二枚

下着

袖口 四枚(表・裏) 振布 四枚
 裾廻し 八枚(表・裏) 縦裓 四枚(表・裏)
 衿 一枚 共衿 一枚 衿先 二枚

(2) 裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 2353cm



$$\begin{aligned}
 &(\text{袖丈} + \text{身丈} + \text{裾廻丈} + \text{下着表裾丈} + \text{下着裏裾丈}) \\
 &60 \quad 150 \quad 57 \quad 53 \quad 57 \\
 &\times 4 + \text{衿丈} + \text{下着表縦裓丈} + \text{裏縦裓丈} \times 2 + \text{衿丈} \\
 &103 \quad 91 \quad 95 \quad 180 \\
 &+ \text{共衿丈} + \text{袖口丈} \times 2 + \text{振八つ丈} + \text{衿先} = \text{總丈} \\
 &76 \quad 57 \quad 44 \quad 20 \quad 2353
 \end{aligned}$$

2. 下着・表胴の裁ち方

3. 上下胴裏 いづれも前述①の裁ち方と同様に
する。

[問] 一重ね分の縮緬生地を以て、式服を調製せんとす
れば如何にして染物屋へ出すか。

八 仕立て方

上着・下着共仕立て方は普通の長着と同様である
が、寸法は地質に応じて正確に付けておかねばならぬ。
また下着胴抜の場合は下着表裾及び表縦裓と表胴との接目の折を裾口の方に返す。

[問] 女小袖綿入の下着寸法詰め方を問ふ。

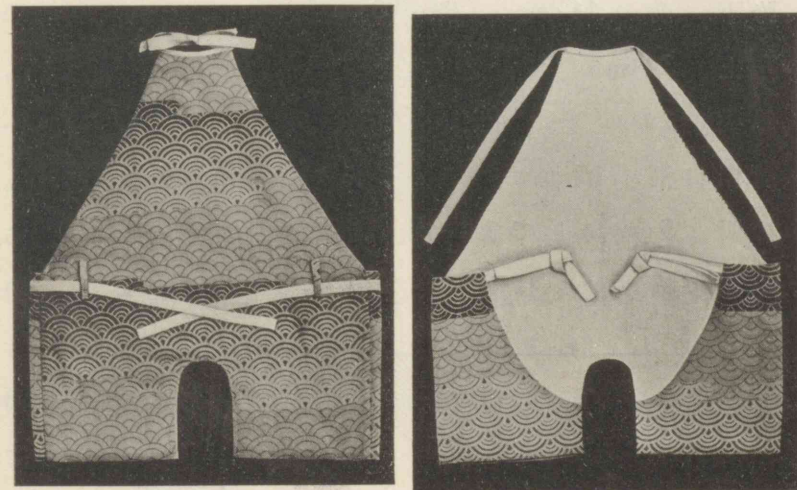
各種長着普通仕立て上げ寸法表

種類		一つ身	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
名称						
袖	袂袖	35-50cm	50-53cm	53-68cm	60cm	53cm
	元祿袖	25	26-28	30-35		
	筒袖	21	23-25	25-27		
丈	袖口	13	13-15	17-19	23	28-30
	袖附	13-15	15-17	17-20	23-25	45
	袖幅	19内外	25内外	27-30	32	33-34
	身丈	70-95	105内外	115内外	150内外	135内外
	身八つ口	10	同	同	13	—
	衿肩明	3	4.5	6-7	9	8.5
	後幅	いっばい	いっばい	いっばい 25	28.5	30
	肩幅	いっばい	いっばい	25	30	32-33
	衿下り	9-10	11	15	23	20
	前幅	いっばい	いっばい	いっばい	23	25-27
	抱幅	—	—	—	21	23
	衿下	20	23-30	30-50	75内外	65
	衿幅	いっばい 10	いっばい	いっばい	15	15
	合袷幅	衿幅より 0.5つめ	同	同	13.5	13.5
	衿幅	3-3.5	4	4.5-5	廣衿11 狭衿5.5	5.5-6
	附紐	(肩より)23	25	28-30	—	—
	衿	いっばい	いっばい	53-55	62	66
衤	衿	0.7内外	0.4-.6	同	同	0.4
	綿入	1	0.8-1	同	0.8	0.6

附 録

(一) 寝冷え知らず

その一 (二・三歳用)



出来上り圖

一 地 質

ネル・モスリン・タオル地など

なるべく軟くて暖く、また洗濯に堪へるものを選ぶ。

二 裁ち方

① 用布

1. 身頃 丈... 57cm 幅... 38cm の布表裏各一枚

2. 紐布(別布) 丈… 57 cm 幅… 4 cm の布二枚

3. 衿紐 丈 60 cm 幅… 3 cm の布(またはテープ)

②裁ち方 表・裏各中表に幅二つに折り、輪を手前にして四枚重ね次の寸法で裁つ。

1. 胯下 前… 11 cm 後… 6 cm

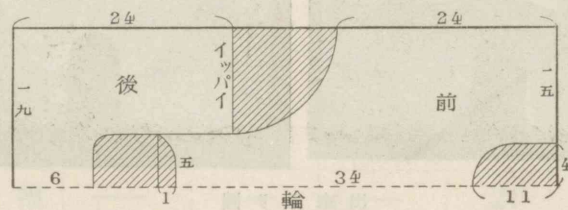
2. 胯上 34 cm

3. 脇丈 24 cm

4. 前裾口幅 15 cm

5. 衿明 5 cm にして 1 cm 内外削る。

その他の幅はいつぱいにして、下圖の如く裁つ。



裁ち方圖

三 仕立て方

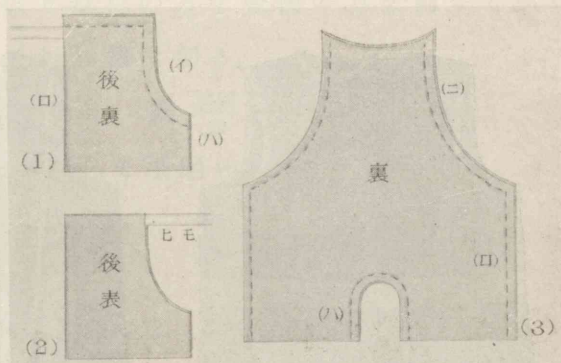
①紐布 紐布二本を出し、各出来上り幅 1.5 cm に折り、一方の角を縫ひ一方は裁目のまま) 拵けておく。

②裾合せ 前後の裾合せをする。但し裏の丈を 1 cm 多く縫ひ込み、折は裏の方に返す。

③後胯上 後胯上の上端の表裏で紐を挟み、次頁(1)圖の

如く上部及び胯下を縫ふ。これを表に引き返せば、下圖(2)の如くなる。

④胯下 前胯下の表裏で後布の(ハ)のところを挟み、一方の裾より一方の裾まで縫ふ。胯下の上部のところでは縫



寝冷え知らず縫ひ方

代を少くし、ごく小針に返し針で縫ふ。角のところを正しくし、表に返し周囲全部に縫簇をする。

⑤脇 前布の表・裏で後布の(ロ)のところを挟み、裾より四つ縫にして上部まで縫ふ。

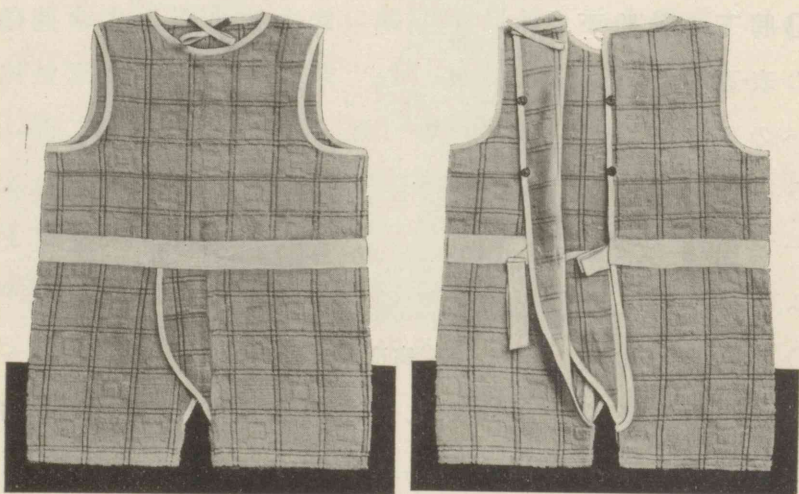
⑥首紐 首紐を付け、紐の左右の角を縫ひ、端より端まで拵ける。

⑦スカラ縫 前胯上の上部で左右、4 cm 位づつの間 0.4 cm 位の針目でスカラ縫をする。

⑧脇紐を前に結んで落ちない様に、両脇より 4 cm 前に出来上り圖の如く、紐通しを付ける。

⑨仕上げ アイロンまたは火熨斗で仕上げをする。

その二 (三・四歳用)



出来上り

一 裁ち方

①用布 幅… 76 cm 丈… 50 cm 別にキャラコにて帯布を要す。(幅… 9 cm 丈… 腰廻りの長さ)

附属品

斜布 { 幅… 2 cm
丈… 衿刳り・衿紐・袖刳り・後明・胯下の長さ(約 285 cm)

テープ 45 cm のもの二本 スナツプ 二個

②裁ち方

1. 次頁圖(左)の如く幅 5 cm の襦を裁ち落す。

2. 身頃 まづ幅を二つに折り、次に裁目の方を 2 cm 出してまた二つに折り、裁目の方を後、輪の方を前とし、次の如く標を付けてから裁ち切る。

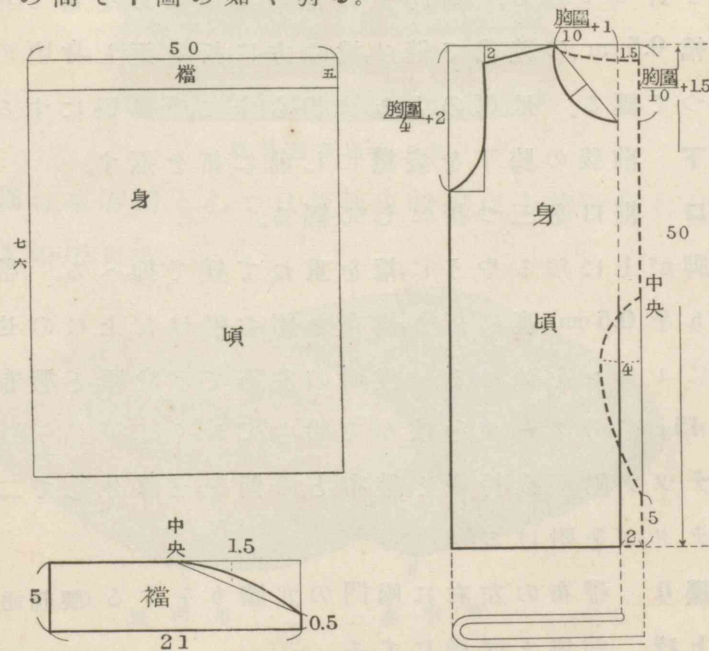
(1) 衿明 { 横 $\frac{\text{胸圍}}{10} + 1 \text{ cm}$ 縦 $\frac{\text{胸圍}}{10} + 1.5 \text{ cm}$
後 1.5 cm として下圖の如く刳る。

(2) 肩幅 $\frac{\text{胸圍}}{10} + 2 \text{ cm}$

(3) 肩下り 2 cm

(4) 袖刳り $\frac{\text{胸圍}}{4} + 2 \text{ cm}$

(5) 後胯上 丈の中央と裾口より、5 cm 上つたところとの間で下圖の如く刳る。



裁ち方

3. 襦 丈 21 cm として前頁圖の如く二枚裁つ。

二 仕立て方

- ①肩合せ 前後の肩を袋縫にし、後に折り返す。
- ②後明 左右の後明に斜布を縫ひ付け、端を折つて纏る。
- ③衿紐附 衿割りに合せて斜布を縫ひ付け、左右の角を縫ひ端より端まで紵ける。
- ④袖割り 袖割りに斜布を縫ひ付け、端を折つて纏る。
- ⑤襦附 襦布の上部から斜の方に續けて斜布を縫ひ付け、端を折つて纏る。前膀上に襦の真直の方を當て、身頃 1 cm 襦 0.5 cm の縫代で縫ひ、襦の方に折を返し、身頃の端を折つて纏る。地厚のときは折らずに、千鳥掛にする。
- ⑥膀下 前後の膀下を袋縫にし、前に折を返す。
- ⑦裾口 裾口を三つ折にして纏る。
- ⑧左脚が上になるやうに、襦を重ねて箕で抑へる。帯布の廻りを 0.5 cm 裏に折り、襦布を綴ち附けた上にのせて、廻りにミシンをかける。後明の左右では身頃と帯布の間に、45 cm のテープを挟んで綴ちておく。
- ⑨スナツプ附 後衿紐と帯布との間を、三等分して二個のスナツプを付ける。
- ⑩穴膝り 帯布の左右に兩門の穴膝りをする。(腰紐通し)
- ⑪仕上げ 前述と同様にする。

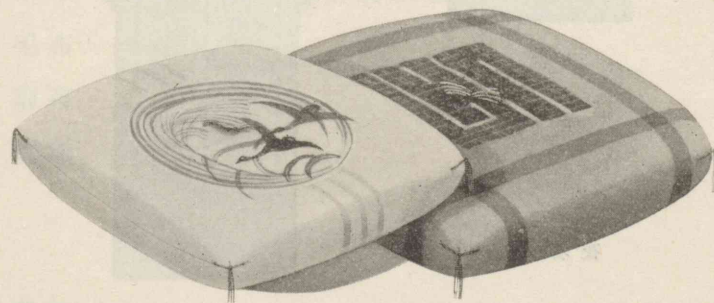
(二) 夜着・蒲團・座蒲團

普通敷蒲團二枚・掛蒲團一枚・夜着一枚を合せて夜着・蒲團一組といふ。



夜着・蒲團出來上り

座蒲團は來客用としては普通五枚或は十枚の揃に仕立てるものである。



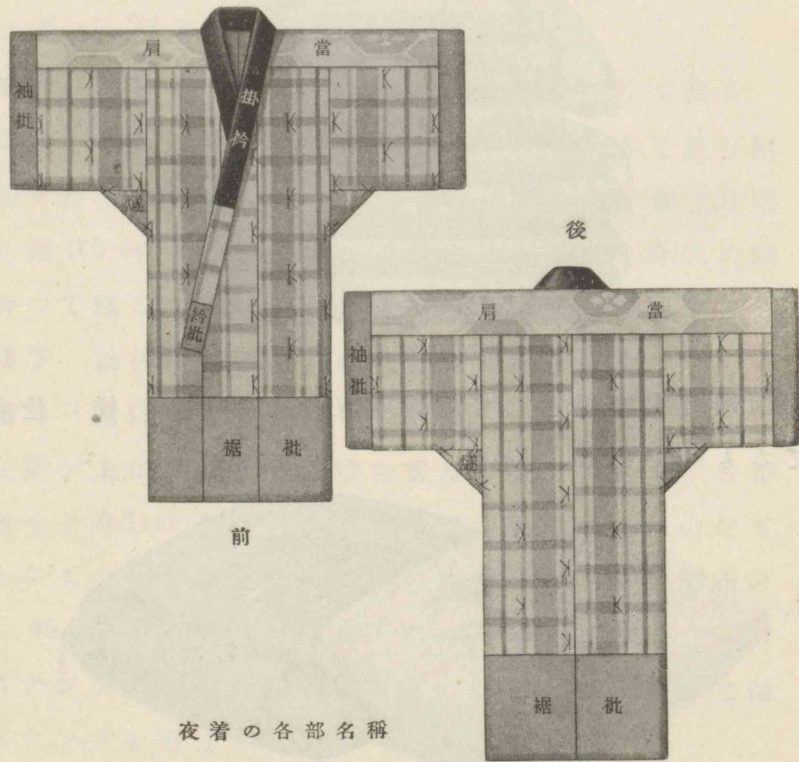
夏季用 冬季用

座蒲團出來上り

その一 夜着 (中夜着)

近來は夜着の改良せられたものも出来てゐるが、多くは中夜着または小夜着が使用せられてゐる。

一 各部の名稱



二 種類

大夜着・中夜着・小夜着・脊入夜着・襟夜着^{みてなしよぎ}など

大・中夜着は燧^{ひうち}を用ひるが、小夜着には用ひない。脊入夜着は脊に半幅、或は 23cm 内外の共布を入れて仕立てる。襟夜着は袖無にて兩方の肩に丸みを付けて仕立てる。

三 地質

① 表地

綿布 木綿・瓦斯・紡績・更紗など
 絹布 銘仙・紬・節・絲・郡内・八端・羽二重・縮緬・緞子など
 毛布 メリンス
 麻布 麻友禪
 交織 種々

② 裏地

綿布 木綿・金巾・瓦斯など
 絹布 秩父・絹・紬・絲よし・羽二重・縮緬など
 毛布 メリンス
 麻布 無地麻
 交織 種々

四 綿及び仕立て上げ寸法

① 種類 木綿綿と眞綿を用ひる。木綿綿には赤綿と白綿とがある。

②分量 大體次のやうに入れてよい。

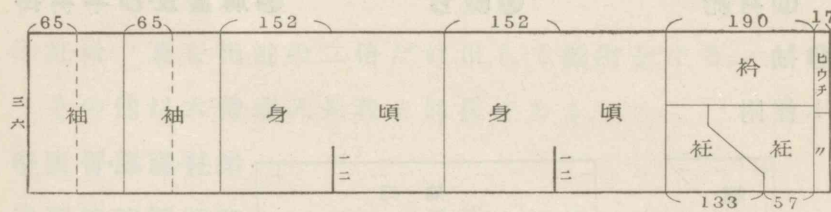
③寸法 普通次の表のやうである。

種類 綿の分量 名稱	大夜着	中夜着	小夜着
	7000—11300g	6000g 内外	5000g 内外
袖 丈	60—65 cm	57cm—60	53cm—57
袖 幅	いっぱい	いっぱい	いっぱい
裏 袖 幅	二 布	一 布 半	一 布 半
身 丈	200内外	190内外	180内外
衿 肩 明	13	11	10
後 幅	いっぱい	いっぱい	いっぱい
前 幅	同	同	同
衿 下 り	24.5	23	22
衿 幅	いっぱい	いっぱい	いっぱい
衿 下	80内外	70内外	65内外
衿 幅	13	11	9.5
袖 袷	18内外	10内外	10内外
裾 袷	40—45	40	30内外
衿 袷	20	20	15
掛 衿 丈	130—150	130	130
肩 當	並幅にて袖口の縫目まで		

六 裁ち方

①表地裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 1075 cm

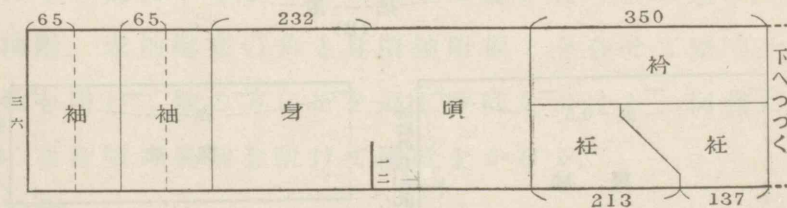


$$\{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿下} + \text{縫}) + \text{衿下り} \} \div 5 = \text{身丈}$$

$$1075 - (65 \times 4 + 57 + 17 + 19) \div 5 = 152$$

②裏地裁ち方圖と積り方計算

用布 並幅 1685 cm



$$\text{袖丈} \times 6 + \text{身丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{縫丈} = \text{總丈}$$

$$65 \times 6 + 232 \times 4 + 350 + 17 = 1685$$

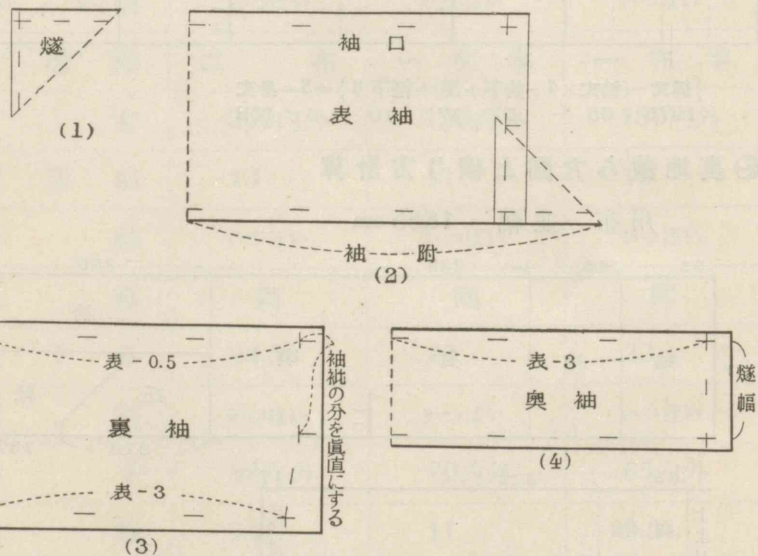
七 仕立て方

仕立て方順序

- ①袖 ②身頃・衿・衿標附 ③表脊・脇縫・衿附
 ④裏脊・脇縫・衿附 ⑤裾合せ ⑥衿下
 ⑦袖附 ⑧衿附 ⑨綿入れ
 ⑩衿紵 ⑪綴ぢ ⑫肩當及び半衿掛

①袖

1. 標附



2. 表裏の袖口を縫ひ合せ、折は表の方に返し、表外袖の袖下に燧布の布目を合せて縫ひ付け、袖の方へ折り、表内袖の袖下にも燧布を付け、燧の角を止めて袖下を縫ふ。次に袖口及び袖下に隠躰をかける。
3. 裏奥袖に燧布を縫ひ付け、袖下を縫ひ、袖口の方は縫代を裏に折つて躰をかける。

②身頃・衿・衿標附

1. 表 袖丈+燧丈を袖附として標す。
2. 裏 身幅を表より 0.4 cm 内外つめる。但し裾裾の部分は表幅と同種
3. 衿・衿 裏を出衿の二倍だけ出して標附をする。
その他は大體綿入長着と同様である。

③表脊・脇縫・衿附

④裏脊・脇縫・衿附 いづれも長着と同様に縫ひ、縫目には全部隠躰をかける。

⑤裾合せ 裾を合せて表に返して隠躰をかける。

⑥衿下 衿山のところから折つて縫ひ、表へ折を返す。

⑦袖附 表袖燧布の角と身頃袖附標とを合せて堅く止め、袖を付けて袖の方に折を返し隠躰をかける。同様にして裏身頃に奥袖を付けて、隠躰をかける。

⑧衿附

1. 表・裏の衿先を接いで表に折り、表・裏續けて衿を付ける。
2. 衿幅を定めて表衿より裏衿を 0.8 cm 控へ、衿先の方約 20 cm の間衿幅を合せて縫ひ、裏に折り返して隠躰をなす。この際表衿の見返りは、衿先 4 cm 位の間で自然に斜にする。縫はないところにも、隠躰をかけておく。

⑨綿入れ

1. 裏を出して畳み、表後身頃を上にして袖山と肩山とを、

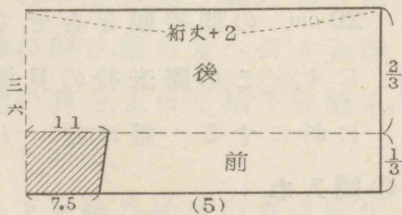
- 袖丈の中ほどから中に折り込む。
2. 表の下部に真綿を引き、綿を裾口では 50cm 衿下衿幅では 20cm 布より長く出してのせ、次の綿から順々に 5cm 位短くし、綿の織目の重ならぬ様に平に入れる。
 3. 衿下及び裾に衾綿を入れて衾山の横縦から交る交る折り返し、その上に綿をのせて真綿を引き裾の兩角脊脇・衿先の縫目に引糸を付けて下半身だけ表に返す。
 4. 次に上半身を延して真綿を引き、始めのやうに綿を平に重ね、衿山には芯布を入れて包み、袖口は裾と同様に厚く入れて全體に真綿を引き、奥袖と裏袖とを縫ひ合せ奥袖の方に折を返し、次に表に引き返して各縫目を合せてよく表裏を引合せる。

⑩ 衿紵 衿の綿の厚みを平にして表衿で綿を包み、裏衿幅を控へて縫ひ残しの分を細かに紵ける。

⑪ 綴 糸は地質によつて木綿糸または練糸ねりぐりを用ひて、出來上り圖の如く綴ぢる。針目は 4cm 位、距離は 30cm おき位にして、絹布類は縫目にのみなし、布幅の中央にはしない。布地を損ずる虞があるからである。

⑫ 肩當及び掛衿

1. 肩當布を右圖の如く裁つ。
2. 肩當の兩脇を伏縫になし



肩當布の裁ち方

- 前後を折つて襪をかけ、綿を抄はぬやうにして身頃に紵け付け衿肩廻のところはあらく綴ぢ付けておく。
3. 掛衿の兩端も伏縫になし、衿幅の紵代を折つて襪をかけ、丈を揃へて紵け付ける。

その二 蒲 團

一 種 類

敷蒲團(三布)

掛蒲團(四布 五布 鏡蒲團)

座蒲團

二 綿の分量及び仕立て上げ寸法

種 類	名 稱	綿 の 量	丈
敷 蒲 團		4500 g 内外	185 cm 内外
(四布) 掛 蒲 團		5000 内外	190
五 布 蒲 團		6000 内外	210
鏡 蒲 團		5500 内外	200
座 蒲 團		900—1500g	50—60

三 裁ち方

用布と積り方

三布蒲團	一反		丈×6(表裏共布)
四布蒲團	表760cm	裏760cm	丈×4(表裏共)
五布蒲團	表一反	裏一反	丈×5(表裏共)
鏡蒲團	表720cm	裏1080cm	表丈×4 裏丈×5

注意 鏡蒲團は上下左右の襷の寸法を要するから裏用布は上下左右で襷の二倍だけ表より長く裁つ。

四 仕立て方

①敷蒲團

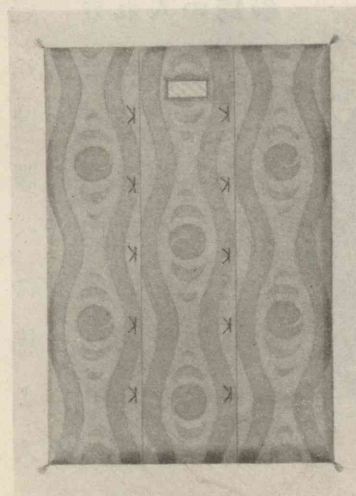
1. 三枚の布を縫ひ合せ、裏は丈の中央で一個所約130cm縫ひ残す。折は脊縫の通りに返し隠躰をかける。
2. 次に周囲を縫ひ合せ、表の方に折つて隠躰をかける。
3. 綿入 表布の裏に真綿を引き、周囲に延綿を約20cm出しておき、(綿の繼目は厚くならぬやうのばす) 縦横に重ねて入れ布より少し長く折り返し、更にその上一枚入れて全體を薄い真綿で包み、周囲と中央を厚くする。
4. 四隅及びその間に二・三個所引絲を附け、新聞紙二枚を中央に延べ四隅を中央に折り曲げて縫ひ残したところから引き返して綿を整へる。
5. 引絲を引いてよく綿を含ませ、縫ひ残しの部分を細かに紵ける。
6. 次に約40cmの間隔をおき針目約6cmに綴ちる。輪

の方に枕標をする。

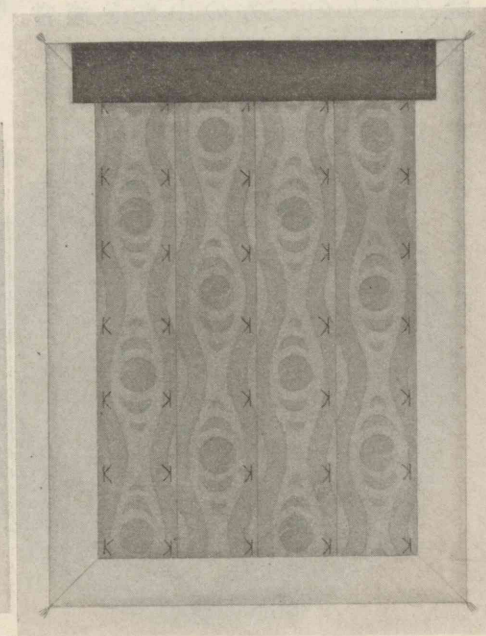
②四布・五布蒲團 前に準じて縫ふ。

③鏡蒲團

1. 表布を接ぎ合せ折を附け、隠躰をする。
2. 裏布の中央を100cm位残して全部縫ひ合せ、折を附け、隠躰をなし、表・裏縦の縫目を合せて周囲を縫ひ合わせる。
3. 四隅で裏の餘を撮んで斜に縫ひ、いづれも同じ方向か、または向ひ合せに折を附け隠躰をかける。
4. 綿の入れ方・綴ち方その他は、敷蒲團に準じてする。
5. 並幅160cmほどの掛衿をかける。



敷布團

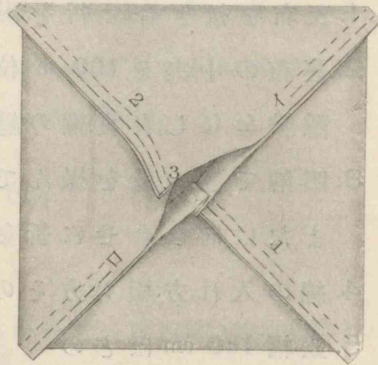


掛布團

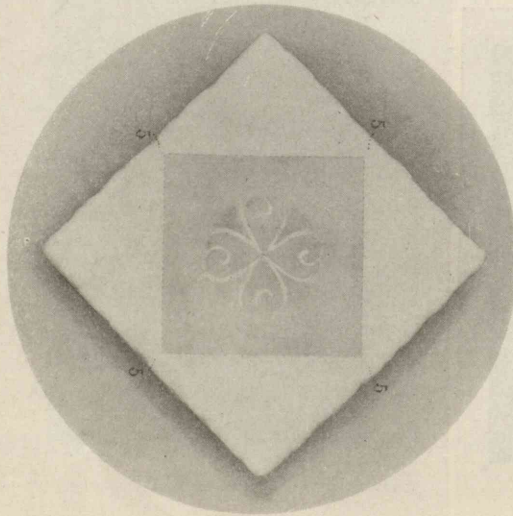
その三 座蒲團

普通は正方形にするが布の都合によつて、やや長方形に縫ふこともある。

①縫ひ方 四隅を中央に集めて右圖の如く、(1)(2)(3)の順に縫ひ隠躰をする。(4)(4)の間を縫ひ残しておく。廣幅物は一方が輪となるから、周圍の二方を縫ひ、残りの一方の中央を適當に縫ひ残しておく。



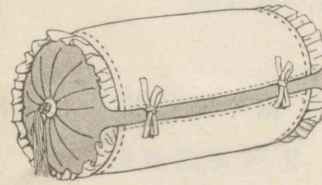
座蒲團の縫ひ合せ方



綿の入れ方

②綿の入れ方 縫目のない方を上にして平におき、左圖のやう綿を座布團よりも4cm四方へ出して三・四枚入れ、次に初め入れた綿の四隅を真中によせ、上から一・二枚入れて返し縫ひ残した部分を紘ける。

(三) 枕かけ



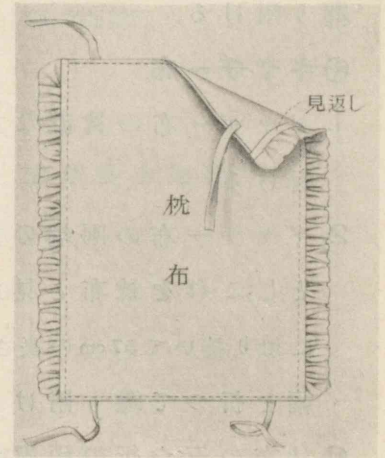
出来上り

一 地質

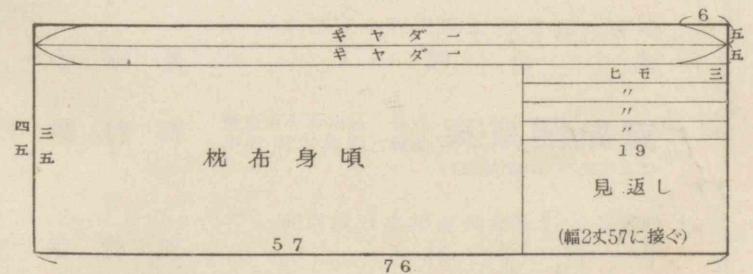
白キヤラコ・白金巾・白天竺

二 裁ち方

枕の大きさ 長さ…38cm 直径…18cm
用布 幅…45cm 長さ…76cm



出来上り



三 仕立て方

①紐紘 四本の紐は一端を裁ち目のままにして外すべ

て締める。

②身頃両端 枕布身頃の丈の両端を、細く三つ折として纏り付ける。

③ギャザー布

1. ギャザー布の真直な方を、ごく細く三つ折にして纏り付ける。

2. ギャザー布の両端の丸く裁つた方を縫ひ縮めて57cmとし、これを枕布と見返し布(裁ち方圖見返し布を2cm幅に切り接いで57cmの長さとする)とで挟んで縫ひ、見返し幅を折つて纏り付ける。

④枕布の三つ折の両端から4cmのところ、裏の方に紐を當て堅く纏り付ける。

注意 幅丈を詰めて小型とし、またレース・リボンを飾りとしてもよい。

大正十四年二月十六日印 刷 大正十四年二月十九日發行
大正十四年九月十五日訂正再版印刷 大正十四年九月十八日訂正再版發行
昭和二年十二月二十日修正三版印刷 昭和二年十二月廿三日修正三版發行
昭和六年九月十六日修正五版印刷 昭和六年九月二十日修正五版發行

昭和七年一月十六日 訂正六版印刷

昭和七年一月二十日 訂正六版發行

裁縫教科書 卷四 定價金七拾錢



著 作 者 吉 村 千 鶴

東京市小石川區小日向水道町八十四番地

發 行 者 株式 東京開成館
會社

代表者 松 本 繁 吉

東京市小石川區久堅町百八番地

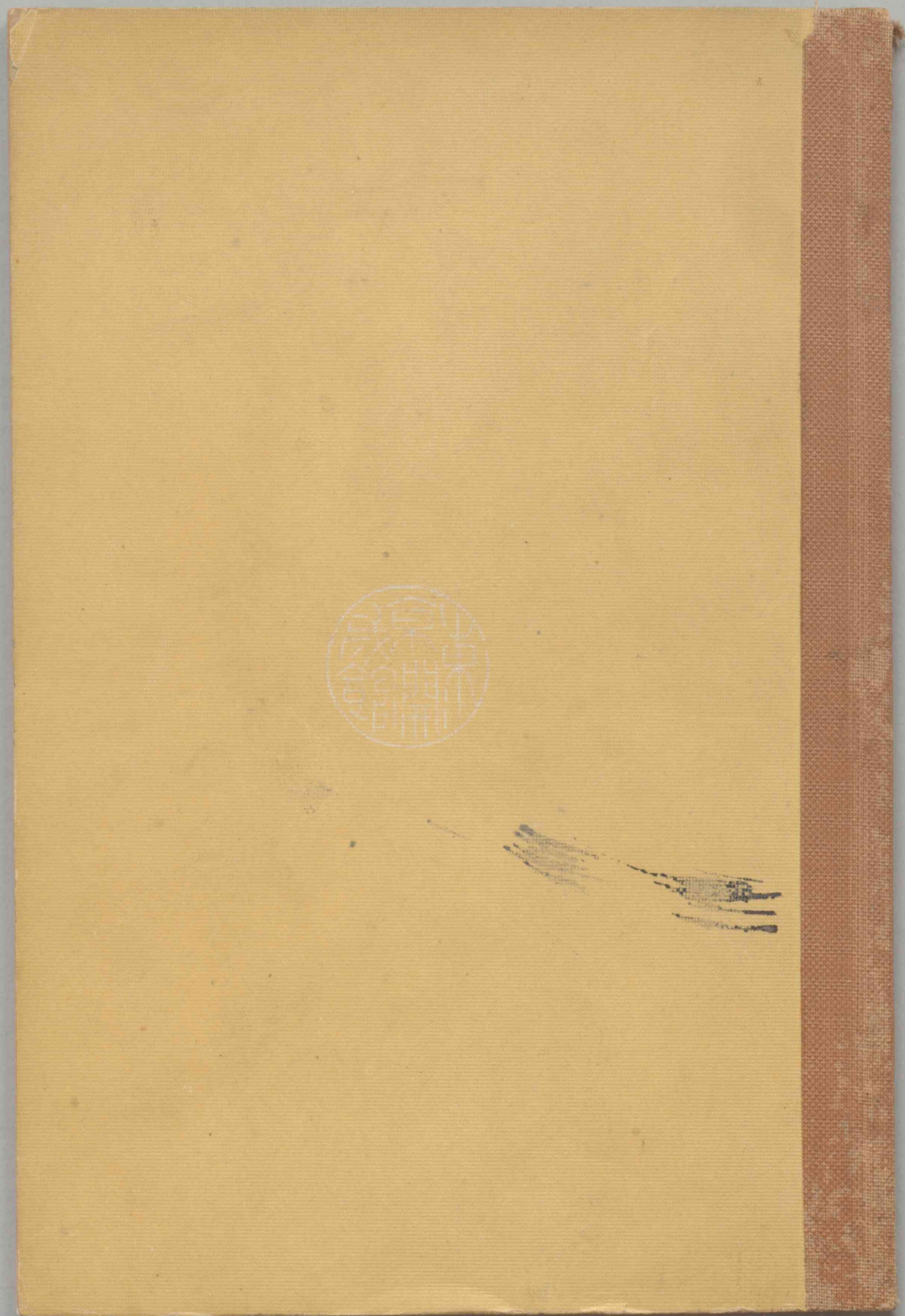
印 刷 者 君 島 潔

發 行 所 東京市小石川區 株式 東京開成館
小日向水道町 會社

(振替貯金口座東京五三二二)

販 賣 所 東京市日本橋區吳服橋二丁目五番地
林 平 書 店

販 賣 所 大阪市東區北久寶寺町心齋橋筋角
三 木 佐 助



羽織

身丈 二尺五寸五分

袖丈 一尺四寸五分

袖付 六寸 # 27

肩幅 二尺

袖巾 一尺六寸七分

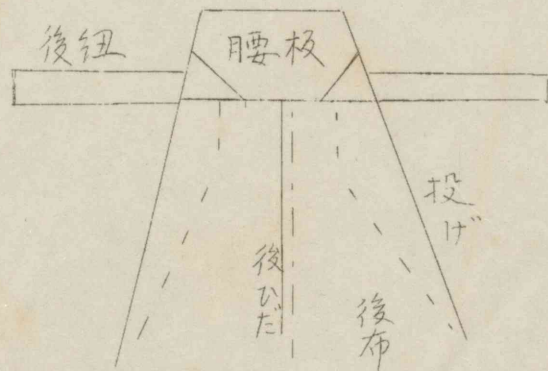
一尺六寸七分

羽織 三三縫

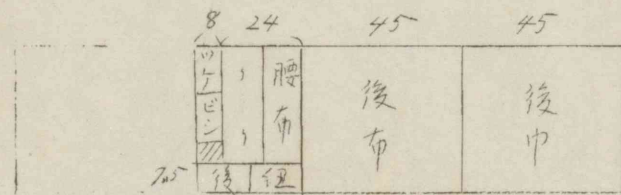
151 97

男袴 腰立部分縫

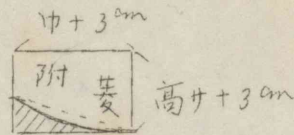
仕上り圖



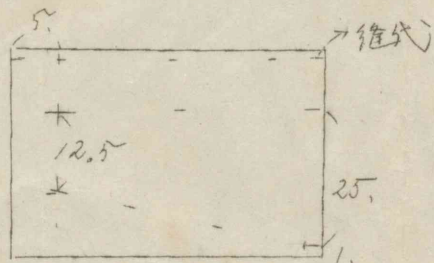
裁ち方圖



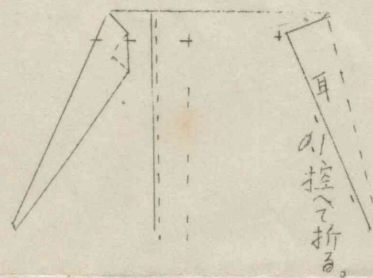
三六



1) 標附方

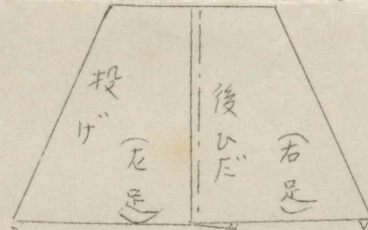
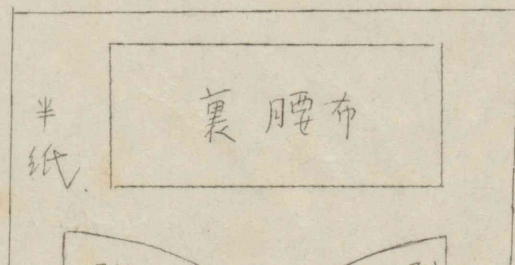


2) 後ひだ取り及び投の折り方。



標より下に裁目の出る場合は、又標と交叉する所より、縞目真直に折込んでおき、目立の様、3cm位の斜目をつける。

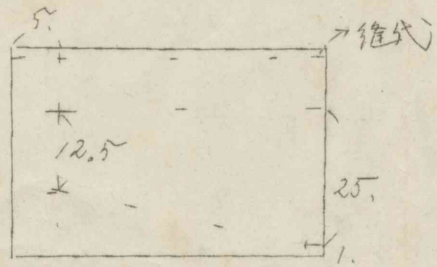
3) 裏腰布及び附菱の裏打ち



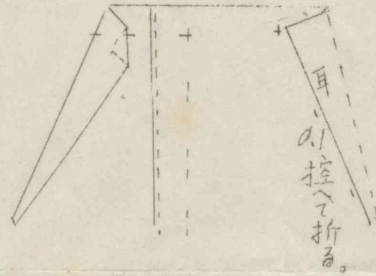
4) 腰板の裁ち方



1) 標附方

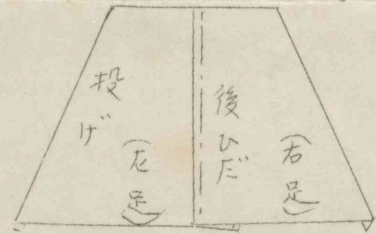
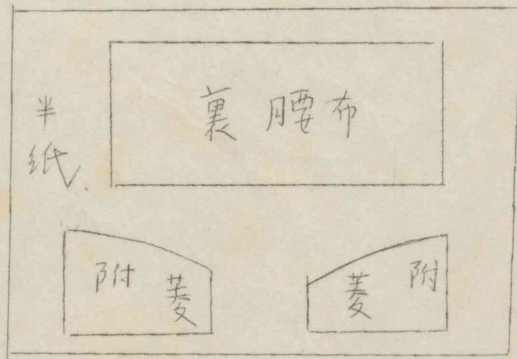


2) 後ひだ取り及び投の折方。

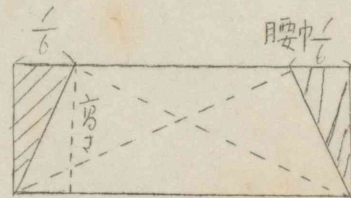


標の下に裁目が出る場合は
丈標と交叉する所より
縞目真直に折込んで
おき目立たぬ様
3cm位の斜目をつける。

3) 裏腰布及び附菱の裏打ち



4) 腰板の裁方



斜線の長さを等しく。

日本紙をよく揉みコテで
伸しその上に各布の周囲に
細く糊を付け平らに貼り付け
(0.5位の深で) たのき
糊の乾いた後に周囲を裁切る。